

千七九〇-7

現行帝國規則全書

明治三十一年九月發行

特53

行現 800

兩國規則全書

CZ
5
0137

凡例

- 一本書ハ明治元年ヨリ明治卅二年九月ニ至ル迄ニ發布セラレシ諸罰令ヲ訂正編纂セシ者ナリ
- 一本書ニ纂輯スル諸法令規則ハ發布ノ年月ニ拘ラス類ヲ以テ之ヲ列載ス
- 一本書ハ閱讀ニ便セシガ爲メ目次ノ外ニ更ニ「いろは」索引ヲ設ケタリ又此ノ索引中「洋綴縣」ニ徴兵令ヲ施行セラル、ノ件「ハ」を「ノ」部ニ入レヌシテ之ヲ徴兵令即チ「ち」ノ部ニ載セ又代金引替小切手更見則「ハ」ニ「部」ニ「湯」トスノ「小切手」更去

○凡 例
 即チ「こ」ノ部ニ編シタル如キ總テ其重モナル法
 令ノ標目ニ依レリ
 一本書中ノ法令ニシテ一部分ノ廢改加除アル者
 ハ直チニ各本條ニ就キ之ヲ訂正シ而シテ其餘
 下へ何年何月何號法律又ハ省令ニ依リ云々ト
 付記ス

現帝國規則全書目次

○罰例處斷法	一頁	○徵兵旅費定則	三四
○徵兵令	二	○陸軍六週間現役兵條例	三六
○徵兵事務條例	二二	○全 施行細則	三八
○北海道ニ徵兵例施行ノ件	二九	○陸軍一年志願兵條例	四一
○沖繩縣ニ徵兵令施行ノ件	全	○全 施行細則	五一
○徵兵檢査規則	三〇	○試補及判任官見習並非職休 職ノ官吏一年志願兵服役方	五〇
○在郷陸軍軍人及補充兵寄留 地ヨリ召募ニ應セントスル 取扱方	三三	○陸軍志願兵身體檢査規則	五六
○管外寄留地ニ於テ身體檢査 ヲ受ケント出願セル者ノ取 扱方	全	○徵兵事務條例補則	五八
○現役砲兵及輸卒及現役輜重 輸卒疾病犯罪ノ爲入營シ難	全	○徵發令	六一
		○登録稅法	七一
		○登記法	八一
		○所得稅法	九二
		○全 施行細則	九七
		○國稅徵收法	一〇一

○地租條例	一〇八	○府縣會議員撰舉規則	一五四
○大藏省證券條例	一一〇	○衆議院議員撰舉法罰則補則 ○府縣會議員撰舉法適用ノ件	一六八
○通貨及證券摸造取締法	一二二		
○銀行條例	全	○市町村會議員撰舉罰則	一六九
○銀行條例施行細則	一二四	○酒造稅法	一七三
○貯蓄銀行條例	一三二	○家用酒稅法	一八〇
○貯蓄銀行條例施行細則	一三四	○混成酒稅法	一八三
○澱込紙製造取締規則	一三五	○酢元用酒類製造規則	一八四
○取引所法	全	○酒精營業稅法	一八五
○全 施行細則	一四二	○全 施行細則	一八七
○全 稅法	一四七	○醫藥用及工業用酒精營業稅免除ニ關スル件	一九一
○議會並議員保護規則	一四九	○醫藥營業稅則	一九三
○衆議院議員撰舉法罰則	一五〇	○醬油稅則	一九五
○全 罰則補則	一五三		

○全 施行細則	一九九	○新聞紙條例	二一四
○藥品營業並藥品取扱規則	二〇三	○出版法	二六六
○藥用阿片賣買並製造規則	二一〇	○版權法	二七三
○賣藥規則	二二三	○脚本樂譜條例	二七九
○全 印紙稅規則	二二七	○寫真版權條例	二八〇
○證券印稅規則	二二九	○郵便條例	二八二
○民事訴訟用印紙法	二二七	○第三種郵便物認可規則	三一五
○商事非訟事件印紙法	二三一	○小包郵便法	三一七
○商標條例	二三四	○代金引換小包郵便規則	三二〇
○意匠條例	二三九	○電信條例	三二三
○特許條例	二四四	○狩獵法	三三五
○決闘條例	二五四	○全 施行細則	三四〇
○訴願法	二五五	○銃砲取締規則	三四四
	二五八	○銃砲取締規則施行細則	三四七

目次

○火藥取締規則	三四八	○度量衡法	四〇二
○爆發物取締規則	三五四	○測量標規則	四〇九
○石油取締規則	三五六	○移民保護法	四一一
○醫師免許規則	三五八	○移民保護法施行細則	四一七
○獸醫免許規則	三六〇	○古物商取締法	四二〇
○種痘規則	三六二	○全 細則	四二五
○傳染病豫防法	三六三	○質屋取締法	四二七
○獸疫豫防法	三七三	○全 細則	四三二
○車稅規則	三七八	○公證人規則	四三四
○危害品積込規則	三八〇	○富籤賣買者處分方	四五二
○檢疫停船規則	三八一	○遺失物取扱規則	四五三
○虎列刺病流行地方ヨリ來 ル船舶検査規則	三九〇	○鐵道犯罪罰例	四五五
○內國船難破及漂流物取扱 規則	三九一	○裁判所呼出遲不參罰則	四五七
		○墓地及埋葬取締規則違犯 者處分	全

四

○森林法	四六一
○全 施行細則	四七二
○社寺境内ノ樹木妄ニ伐採ヲ 禁ス	四七五
○民有森林伐木停止方	全
○鑛業條例	四七六

現行帝國規則全書目次終

目次

現行帝國規則全書索引

索引

六

い之部

は之部

- 意匠條例 二三九
- 移民保護法 四一一
- 全 細則 四一七
- 遺失物取扱規則 四五三
- 醫師免許規則 三五八
- 醫藥用及工業用酒精營業
稅免除ニ關スル件 一九一

は之部

- 罰例處斷法 一
- 版權法 二七三
- 賣藥規則 二二三
- 賣藥印紙規則 二二七

爆發物取締罰則

三五四

墓地及埋葬取締規則違反者處分

四五七

と之部

- 登録稅法 七一
- 度量衡法 四〇二
- 特許條例 二四四
- 取引所法 一三五
- 全 施行細則 一四二
- 取引所稅法 一四七
- 登記法 八一
- 富籤賣買者等處分方
ち之部 四五二

徴兵令

- 徴兵事務條例 一二
- 北海道ニ徴兵令施行ノ件 二九
- 沖繩縣ニ徴兵令施行ノ件 三〇
- 徴兵檢査規則 全
- 在郷陸軍軍人及補充兵寄留
地ヨリ召募ニ應セントスル
者取扱方 三三
- 管外寄留地ニ於テ身體檢査
ヲ受ケント出願セシ者ノ取
扱方 全
- 現役砲兵輸卒及現役輜重輸
卒疾病犯罪ノ爲入營シ難キ
者取扱方 全
- 徴兵旅費定則 三四
- 陸軍六週間現役兵條例 三六
- 全 施行細則 三八
- 陸軍一年志願兵條例 四一

全 施行細則

五一

○試補及判任官見習並非職休職ノ官吏一年志願兵服役方

五〇

○陸軍志願兵身體檢査規則

五六

○徴兵事務條例補則

五八

○徴發令

六一

○地租條例

一〇八

○貯蓄銀行條例

一三二

○全 施行細則

一三四

を之部

○大藏省證券條例

一一〇

そ之部

○訴願法

二五五

○測量標規則

四〇九

索引

七

つ之部

○通貨及證券換造取締法 一二三

な之部

○内國船難破及漂流物取扱規則 三九一

く之部

○火藥取締規則 三四八

○車稅規則 三七八

や之部

○藥品營業並藥品取扱規則 二〇三

○藥用阿片賣買并製造規則 二一〇

け之部

○決闘條例 二五四

○檢疫停船規則 三八一

ふ之部

○府縣會議員撰舉規則 一五四

こ之部

○公證人規則 四三四

○國稅徵收法 一〇一

○鑛業條例 四七六

○混成酒稅法 一八三

○古物商取締法 四二〇

○全 細則 四二五

○小包郵便法 三一七

○代金引換小包郵便規則 三二〇

○虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶檢査規則 三九〇

○航路標識條例 四〇一

て之部

○電信條例 三二二

○傳染病豫防法 三六三

○鐵道犯罪罰則 四五五

さ之部

○裁判所呼出遅不參罰則 四五七

さ之部

○銀行條例 一二二

○全 施行細則 一二四

○議會並議員保護規則 一四九

○脚本樂譜條例 二七九

○危害品積込規則 三八〇

ゆ之部

○郵便條例 二八二

○第三種郵便物認可規則 三一五

み之部

○民事訴訟用印紙法 三二七

し之部

○所得稅法 九二

○全 施行細則 九七

○衆議院議員撰舉法罰則 一五〇

○衆議院議員撰舉法罰則補則 一五三

○衆議院議員撰舉法罰則補則 一六八

○府縣會議員撰舉法ニ適用ノ件 一六八

○市町村會議員撰舉罰則 一六九

○酒造稅法 一七三

○自家用酒稅法 一八〇

○酒精營業稅法 一八五

○全 施行細則 一八七

○醫藥營業稅則 一九三

○醬油稅則	一九五	○銃砲取締規則違犯者處分方	三四七
○全 施行細則	一九九	○獸醫免許規則	三六〇
○證券印稅規則	二一九	○種痘規則	三六二
○商事非訟事件印紙法	二三一	○獸疫豫防法	三七三
○商標條例	二三四	○森林法	四六二
○質屋取締法	四二七	○全 施行細則	四七二
○全 細則	四三二	○社寺境内ノ樹木妄ニ伐採ヲ禁ス	四七五
○集會及政社法	二五八	○民有森林伐木停止方	全
○新聞紙條例	一一四	○石油取締規則	三五六
○出版法	二六六	○之部	
○寫真版權條例	二八〇	○澆入紙製造取締規則	一三五
○狩獵法	三三五	○酢元用酒類製造規則	一八四
○全 施行細則	三四〇		
○銃砲取締規則	三四四	現行帝國規則全書索引終	

正帝國規則全書

○罰例處斷法 明治十四年十二月 第七十二號布告

- 第一條 凡懲役ハ十一日以上ヲ重禁錮ニ處シ十日以下ヲ拘留ニ處ス
- 第二條 凡禁獄及ヒ禁錮ハ十二日以上ヲ輕禁錮ニ處シ十日以下ヲ拘留ニ處ス
- 第三條 凡罰金及ヒ科料ハ貳圓以上ヲ罰金ニ處シ貳圓未滿ヲ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス
- 第四條 法ニ照シ律ニ照シ若クハ違令違式ニ照シ處斷ストアリ及ヒ咎可申付トアルハ總テ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第五條 法律規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ再犯加重及ヒ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス
- 第六條 法律規則中罰令アリト雖モ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依テ處斷ス

第七條 (明治二十三年法律第六號ニテ消滅)

●徵兵令 明治廿二年一月 法律第壹號

第一章 總 則

第一條 日本帝國臣民ニシテ滿十七歳ヨリ滿四十歳迄ノ男子ハ總テ兵役ニ服スルノ義務アルモノトス

第二條 兵役ハ分テ常備兵役後備兵役補充兵役及國民兵役トス

第三條 常備兵役ハ分テ現役及豫備役トス

現役ハ陸軍ハ三箇年海軍ハ四箇年ニシテ滿二十歳ニ至リタル者之ニ服シ豫備役ハ陸軍ハ四箇年四ヶ月海軍ハ三箇年ニシテ現役ヲ終リタル者之ニ服ス

第四條 後備兵役ハ五箇年ニシテ常備兵役ヲ終リタル者之ニ服ス

第五條 補充兵役ハ陸軍ニ在テハ第一補充兵役第二補充兵役トシ第一補充兵役ハ七箇年四ヶ月ニシテ其年所要ノ現役兵員ニ超過スル者ノ中所要ノ人員之ニ服シ第二補充兵役ハ一箇年四箇月ニシテ其年所要ノ第一補充兵員ニ超過スル者之ニ服ス又海軍ニ在テハ一箇年ニシテ其年所要ノ現役兵員ニ超過スル者之ニ服ス

第六條 國民兵役ハ分テ第一國民兵役第二國民兵役トス

第一國民兵役ハ後備兵役及第一補充兵役ヲ終リタル者之ニ服シ第二國

國民兵役ハ常備兵役後備兵役補充兵役及第一國民兵役ニ在ラサル者之ニ服ス

第七條 各兵役ノ期既ニ滿ルト雖戰時或ハ事變ニ際スルトキ若クハ臨時ニ演習或ハ觀兵ノ舉アルトキ若クハ航海中或ハ外國駐劄中ハ其期ヲ延スコトアル可シ

第八條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ兵役ニ服スルコトヲ許サス

第二章 服 役

第九條 陸軍現役兵及補充兵ハ每年所要ノ人員ニ應シ壯丁ノ身材藝能職業ニ從ヒ步兵騎兵砲兵工兵輜重兵職工及雜卒ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當籤ノ者ヲ以テ之ニ充ツ

海軍現役兵及補充兵ハ每年所要ノ人員ニ應シ沿海地方及島嶼ノ壯丁ヲ調査シ海軍ニ適スル職業ニ從ヒ水兵火夫職工及雜卒ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當籤ノ者ヲ以テ之ニ充ツ但海軍志願兵ハ徵募規則ニ依リ服役スル者ハ本令ノ限ニ在ラス

警備隊ヲ置キタル島嶼ノ壯丁(近衛師團ニ編入スル者ヲ除ク)ハ總テ之ヲ警備隊ニ充テ其地方ニ於テ服役セシム但在營期限ハ一箇年以内トス

第十條 雜卒ノ現役期限ハ其職務ニ因リ之ヲ短縮スルコトアルヘシ但常

備兵役ノ全期ハ之ヲ減スルコトナシ

第十一條 抽籤番號ノ順序ニ由リ其年ノ補充兵役所要員ニ超過スル者ハ國民兵役ニ服セシム

第十二條 二十歳ニ至ラスト雖モ滿十七歳以上ノ者ハ志願ニ由リ現役ニ服スルコトヲ得

第十三條 滿十七歳以上滿二十八歳以下ニシテ官立學校(小學校及撰科ノ別科ヲ除ク)府縣立師範學校中學校若クハ文部大臣ニ於テ中學校ノ學科程度ト同等以上ト認メタル學校若クハ文部大臣ノ認可ヲ經タル學則ニ依リ法律學政治學理財學ヲ教授スル私立學校ノ卒業證書ヲ所持シ若クハ陸軍試驗委員ノ試験ニ及第シ服役中食料被服裝具等ノ費用ヲ自辨シ豫備後備將校タル冀望ヲ有スル者ハ志願ニ由リ一箇年間陸軍現役ニ服スルコトヲ得但費用ノ全額ヲ自辨シ能ハサルノ證アル者ニハ其幾部ヲ官給スルトアル可シ(廿二年法律第一號廿六年法律第四號ヲ以テ改正追加)一年志願兵ノ豫備役後備役年期ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
滿十七歳以上二十八歳以下ニシテ官立府縣立師範學校ノ卒業證書ヲ所持シ官立公立小學校ノ教職ニ在ル者ハ六週間陸軍現役ニ服セシム其服役ニ關スル費用ハ官給トス(同上)

前項ノ現役ヲ終リタル者ハ直チニ國民兵役ニ服セシム(同上)

第三項又ハ第四項ニ依リ服役中ノ者ニシテ滿二十八歳迄ニ其教職ヲ罷ムル者ハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ更ニ二箇年間陸軍現役及常例ノ豫備役後備役ニ服セシム但第一項ニ依リ一年志願兵ヲ志願スル者ハ此限ニ在ラス(同上)

第十四條 禁錮ノ刑ニ處セラレ若クハ賭博犯ニ由リ懲罰ニ處セラレタル者ハ一年志願兵タルコトヲ許サス

第十五條 現役中殊ニ勤務ニ熟シ品行方正ナル者ハ歸休ヲ命スルコトアル可シ

第十六條 豫備兵後備兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ之ヲ召集ス平常ニ在テハ毎年一度六十日以内勤務演習ノ爲メ之ヲ召集シ又毎年一度簡閱點呼ヲ爲ス

第十七條 第一補充兵及海軍補充兵ハ現役兵ノ補缺ニ充テ又戰時若クハ事變ニ際シ之ヲ召集 但第 補充兵ヲ以テ現役兵ノ補缺ニ充ツルハ其服役ノ初年ニ限ル

第一補充兵ハ平常ニ在テ百五十日以内教育ノ爲メ之ヲ召集ス其他勤務演習及簡閱點呼ヲ爲スコト豫備兵ニ同シ

第二補充兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ第一補充兵ヲ召集シ仍ホ兵員ヲ要スルトキハ之ヲ召集ス

第十八條 國民兵戰時若クハ事變ニ際シ後備兵ヲ召集シ仍ホ兵員ヲ要スルトキニ限り之ヲ召集ス

第三章 免役延期及猶豫

第十九條 兵役ヲ免スルハ癩疾又ハ不具等ニシテ徵兵検査規則ニ照シ兵役ニ堪ヘサル者ニ限ル

第二十條 左ニ掲クル者ハ徵集ヲ延期ス次年ニ於テ仍ホ徵集ニ適セサル者ハ國民兵役ニ服セシム

第一 體格完全且強壯ナルモ身幹未タ定尺ニ滿タサル者

第二 疾病中又ハ病後ニシテ勞役ニ堪ヘサル者

第二十一條 公權ノ剝奪若クハ停止ヲ附加ス可キ重輕罪ノ爲メ訊問若クハ拘留中ノ者ハ徵集ヲ延期ス

第二十二條 徵集ニ應スルトキハ其家族自活シ能ハサルノ確證アル者ハ本人ノ願ニ由リ徵集ヲ延期ス其事故三箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサル者ハ國民兵役ニ服セシム但分家又ハ絶家廢家再興ノ故ヲ以テ本條ニ當ル者其他自活シ能ハサル事故ヲ作爲シタル者ハ其願ヲ許可セス

第二十三條

第十三條一項ニ掲クル學校ニ在校ノ者ハ本人ノ願ニ由リ滿

二十八歲迄徵集ヲ猶豫ス其事故滿二十八歲迄ニ止ミ又ハ二十八歲ヲ過

クルモ仍ホ止マサル者ハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ之ヲ徵集ス但第十一條

第一項ニ依リ一年志願兵ヲ志願スル者及第十一條第三項ニ依リ服役ス

ル者ハ此限ニ在ラス(同上)

學術修業ノ爲メ外國ニ在ル者朝鮮國ニ在ル者ヲ除クハ本人ノ願ニ由リ徵集ヲ猶豫ス

滿三十二歲迄ニ歸朝スル者ハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ之ヲ徵集シ三十二

歲ヲ過クル者ハ國民兵役ニ服セシム但第十三條第一項ニ依リ一年志願

兵ヲ志願スル者ハ此限ニ在ラス

第二十四條 餘人ヲ以テ代フ可ラサル職務ヲ奉スル官吏及市町村長助役

及收入役ハ豫備兵後備兵ニ在ルト第一補充兵ニ在ルトヲ問ハス勤務演

習簡關點呼ノ爲メ召集スルコトナシ

法律ヲ以テ設立シタル議會ノ議員其開會中亦全シ

第四章 雜則

第二十五條 毎年一月ヨリ十二月迄ニ滿二十歲ト爲ル者ハ其年ノ一月一

日ヨリ同月三十一日迄又第二十三條第一項ニ當ル者ニシテ二十八歲迄

ニ事故止ニ同條第二項ニ當ル者ニシテ三十二歲迄ニ歸朝シタル者ハ十

四日以内ニ書面ヲ以テ戸主ニ非ラサル者ハ其戸主ヨリ本籍ノ市町村長ニ届出可シ但二十歳未満ニシテ現役ヲ終ヘタル者又ハ現役中ノ者ハ本條ノ届出ヲ爲スコ及ハス

第二十六條 徵集ハ本籍所在ノ徵募區ニ於テスルモノトス

第二十七條 疾病又ハ犯罪等ノ爲メ期限ニ際シ入營シ難キ者ハ翌年之ヲ徵集ス

第二十八條 兵役ヲ免レンカ爲メ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐偽ノ所爲ヲ用ヒ又ハ逃亡若クハ潜匿シタル者又ハ正當ノ事故ナク徴集ノ檢査ヲ受ケサル者ハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ之ヲ徵集ス

第二十九條 服役年期ノ計算ハ現役豫備役補充役及海軍後備役ニ在テハ

各其役ニ就ク年ノ十二月一日第十三條第三項ニ依リ現役スル者ノ現役年期ノヨリ計第ハ別ニ勅令ヲ以テ規定スル月ヨリ起算ス陸軍後備役ニ在テハ其役ニ就ク年ノ四月一日ヨリ起算ス但第七條ニ依

リ延期シタルモノト雖モ服役年期ノ計算ハ延期セサル者ニ同シ

現役中禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ逃亡シタル者其刑期中及逃亡中ノ日數

ハ現役年期ニ算入セス其豫備役年期ハ現役ヲ終ル年ヨリ起算シ陸軍ニ

在テハ第六年目ノ三月三十一日迄海軍ニ在テハ第五年目ノ十一月三十

日迄トス但第十條ニ依リ現役年期ヲ短縮シタルモノハ其現役ヲ短縮シ

タル場合ニ於ケル豫備役年期ニ應シ本項ニ準シテ計算ス
豫備役後備役及補充役中犯罪ノ爲メ又ハ正當ノ事由ナクシテ召集ヲ缺キタル者其召集ヲ缺キタル年ハ服役年期ニ算セス

第六章 罰則

第三十條 第二十五條ノ届出ヲ爲サ、ル者及正當ノ事故ナク身體ノ檢査ヲ受ケサル者ハ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條 兵役ヲ免レンカ爲メ逃亡シ又ハ潜匿シ若シクハ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐偽ノ所爲ヲ用ヒタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第七章 附則

第三十二條 本令ハ明治二十二年一月ヨリ施行ス但第二十五條ノ届出期限ハ明治二十二年ニ限リ三月一日ヨリ同十五日迄トス

第三十三條 本令ハ北海道ニ於テ函館江差福山外及沖繩縣並東京府管下小笠原島ニハ漸チ以テ施行ス其時期區域及特ニ徵集ヲ免除シ若クハ猶豫ス可キモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十四條 本令中市町村長トアルハ市制町村制ヲ實施スル迄ノ間戸長ノコトトス

第三十五條 現今陸軍豫備役ニ在ル者ノ服役年期ハ第三條ニ依ル其後備役ニ在ル者ハ常備役年期ヲ通シテ十二箇年四箇月トス

第三十六條 舊令第十七條ニ依リ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ徵集ヲ延期シ其事故七箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第三十七條 舊令第十八條第二項ニ依リ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ徵集ヲ延期シ事故七箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第三十八條 舊令第十八條第七項及第二十一條ニ依リ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ徵集ヲ延期シ事故七箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第三十九條 舊令第十八條第三項ノ生徒ニシテ第一豫備徵員ト爲リ仍ホ在校ノ者ハ該徵員タルコトヲ止メ滿二十七歳迄徵集ヲ猶豫シ其事故二十七歳ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第四十條 第三十六條第三十七條第三十八條第三十九條ニ掲クル者其事故各本條ノ期限内ニ止ミタルトキハ抽籤ノ法ニ依リ徵集ス但一年志願兵ヲ志願スルコトヲ得

第四十一條 舊令第十八條第三項若クハ第十九條ニ依リ徵集猶豫ニ屬シ在校ノ者ハ其事故八箇年以内ニ止ミタルトキ又ハ六箇年ヲ過クルモ仍

ホ止マサルトキハ抽籤ノ法ニ依リ徵集ス但一年志願兵ヲ志願スルコトヲ得

第四十二條 舊令第三十條ニ依リ補充員ト爲リタル者ハ之ヲ豫備徵員ト爲シ一箇年間明治二十一年十二月一日起算スニ徵集セザル者ハ國民兵役ニ服セシム

第四十三條 舊令第三十一條ニ依リ第一豫備徵員ト爲リ在校セザル者及舊令第三十二條ニ依リ第二豫備徵員ト爲リタル者ハ直ニ國民兵役ニ服セシム補充員ヨリ第一豫備徵員ト爲リタル者亦同シ

第四十四條 明治十二年第四十六號布告徵兵令ニ依リ國民軍ノ外免役又ハ平時免役若クハ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ直ニ國民兵役ニ服セシム

第四十五條 舊令第八條ニ依リ海軍兵ト爲リタル者ノ服役期限ハ同令第三條及第四條ニ依ル

第四十六條 第三十六條第三十七條第三十八條ニ掲クル徵集延期ノ者及第三十九條第四十一條ニ掲クル徵集猶豫ノ者其事故各本條ノ期限内ニ止ミタルトキハ三日以内ニ本籍ノ市町村長ニ届出可シ第十三條第三項又ハ第四項ニ依リ服役中ノ者ニシテ滿二十八歳迄ニ其敎職ヲ罷ムル者ハ三日以内ニ本籍ノ市町村長ニ届出可シ(全上)

第一項及第二項ノ届出ヲ爲サ、ル者及本令施行前舊令第三十五條第三

○徵兵令

十一

十六條ノ届出チ爲サスシテ本令施行後ニ於テ發覺スル者ハ本令第三十條ニ依リ處分ス(全上)

附 則

此ノ法律ハ明治二十八年四月一日ヨリ施行ス但現今ノ豫備徵員ハ従前ノ規程ニ依ル

●徵兵事務條例

明治廿九年三月
勅令第百十二號

第一章 徵兵區

第一條 徵兵區ハ師管及聯隊區又ハ警備隊區ノ區域ニ從フ

第二條 聯隊區及警備隊區ハ更ニ之ヲ徵募區ニ分ツ

第三條 徵募區ハ一郡又ハ一市北海道ニ在テハ區ヲ以テ一區ト爲ス

一市ニシテ二聯隊區ニ分屬スルモノハ各別ニ一區ト爲ス

數郡ニ一郡役所ヲ置クモノハ數郡ヲ併セ一區ト爲ス其ノ島廳ヲ置クモノ

ノ亦同シ東京市京都市大阪市ニ於テハ更ニ徵募區ヲ検査區ニ分チ區ヲ

以テ検査區ト爲ス

第四條 歩兵隊ノ兵員ハ聯隊毎ニ其ノ師管ノ一聯隊區ヨリ其ノ他ノ兵員

ハ其ノ師管各聯隊區ヨリ徵集ス但要員ヲ充シ能ハサルトキハ他ノ聯隊

區若クハ他ノ師管ヨリ其ノ不足ヲ補充スルコトヲ得

警備隊ノ兵員ハ其ノ警備隊區ヨリ徵集ス

海軍兵員ハ各師管内沿海及島嶼ヲ包括スル聯隊區ヨリ徵集ス

第二章 徵兵官

第五條 徵兵官ハ總理徵兵官師管徵兵官聯隊區徵兵官警備隊區徵兵官及

聯隊區聯合徵兵署徵兵官トス

第六條 總理徵兵官ハ内務大臣及陸軍大臣ヲ以テ之ニ充テ全國徵兵ノ事

務ヲ統轄ス

第七條 師管徵兵官ハ師管内府縣毎ニ師團長及府縣知事ヲ以テ之ニ充テ

師團長ヲ首座トシ其ノ管内府縣徵兵ノ事ヲ統轄ス

北海道ニ於テハ師團長及北海道廳長官ヲ以テ師管徵兵官ニ充テ師團長

ヲ首座トシ其ノ管内徵兵ノ事ヲ統轄ス

第八條 聯隊區徵兵官ハ聯隊區内徵募區毎ニ聯隊區司令官及島司郡市長

北海道ノ區ニ在テハ區長ヲ以テ之ニ充テ警備隊區徵兵官ハ警備隊司令官及島司郡市長

ヲ以テ之ニ充テ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ヲ首座トシ其ノ區内徵

募事務ヲ執行ス

東京市京都市大阪市ニ於テハ検査區毎ニ聯隊區司令官及區長ヲ以テ聯

隊區徵兵官ニ充テ聯隊區司令官ヲ首座トシ抽籤事務ヲ除クノ外其區内

徵募事務ヲ執行ス

第九條 聯隊區聯合徵兵署徵兵官ハ東京市京都市大阪市ニ於テ徵募區毎ニ聯隊區司令官市參事會員ヲ府ノ書記官及各區長ヲ以テ之ニ充テ聯隊區司令官ヲ首坐トシ其ノ區内抽籤事務ヲ執行ス

第十條 第八條第九條ニ掲クル徵兵官ノ外聯隊區内徵募區東京市京都市大阪市ニ在テハ檢査區毎ニ聯隊區徵兵參事官警備隊區内徵募區毎ニ警備隊區徵兵參事員ヲ置ク

第十一條 聯隊區徵兵參事員又ハ警備隊區徵兵參事員ハ徵兵令第二十二條ニ當ル徵集延期及徵集免除並ニ明治二十八年勅令第二百二十六號第二條ノ徵集猶豫ニ關スル事件ヲ審議シ意見ヲ徵兵官ニ具申スルヲ任トス但徵兵官ノ裁決ニ付可否ヲ議スルノ權ナキモノトス

第十二條 聯隊區徵兵參事員又ハ警備隊區徵兵參事員ハ郡市名譽職參事會員ヲ以テ之ニ充ツ但市ニ於テハ其ノ市名譽職參事會員ニ於テ四名ヲ互選シ之ヲ定ム東京市京都市大阪市ノ區ノ聯隊區徵兵參事員ハ市會ニ於テ其ノ區内ニ住スル市公民中撰舉權ヲ有スル者ヨリ四名ヲ撰舉シ之ヲ定ム其ノ任期ハ市會議員ノ例ニ依ル島廳ヲ置ク島嶼ノ聯隊區徵兵參事員又ハ警備隊區徵兵參事員ハ島司ニ

於テ各町村會議員中ヨリ四名ヲ撰ヒ府縣知事ノ認可ヲ得テ之ヲ命ス其ノ任期ハ町村會議員ノ任期ニ依ル

北海道ノ郡又ハ區ノ聯隊區徵兵參事員ハ徵募區毎ニ四名トシ北海道廳長官之ヲ命ス其ノ任期等ハ北海道廳長官ノ定ムル所ニ依ル

第十三條 毎年徵募事務執行中ハ師管徵兵醫官及聯隊區徵兵醫官又ハ警備隊區徵兵醫官ヲ置ク

師管徵兵醫官ハ師管内徵兵身體檢査ニ係ル事ヲ總管シ聯隊區徵兵醫官又ハ警備隊區徵兵醫官ハ徵兵身體ノ檢査ニ從事ス

第十四條 師管徵兵醫官ハ師團軍醫部長ヲ以テ之ニ充テ聯隊區徵兵醫官又ハ警備隊區徵兵醫官ハ聯隊區司令部又ハ警備隊司令部附軍醫一名ヲ以テ之ニ充ツルヲ例トス

第十五條 毎年徵募事務執行中ハ聯隊區徵兵署警備隊區徵兵署及聯隊區聯合徵兵署ニ事務員ヲ置キ該徵兵署ノ庶務ニ從事セシム

第十六條 聯隊區徵兵署事務員又ハ警備隊區徵兵署事務員ハ聯隊區書記又ハ警備隊書記貳名及島廳郡市書記東京市京都市大阪市及北海道ノ區ニ在テハ區書記二名若クハ三名ヲ以テ之ニ充ツ

聯隊區聯合徵兵署事務員ハ聯隊區書記二名府屬二名及各區書記二名若

クハ三名ヲ以テ之ニ充ツ

第十七條 毎年徵募事務執行中ハ地方醫師若干名ヲ以テ徵兵醫官補助員トシ北海道廳長官府縣知事之ヲ命ス

徵兵醫官補助員ハ徵兵醫官ノ指揮ヲ受ケ身體検査ノ事ヲ補助ス

第三章 配賦

第十八條 毎年徵集スヘキ現役兵及補充兵員數ハ上裁ヲ經テ陸軍大臣之ヲ各師管ニ配賦ス

第十九條 師團長ハ第十八條ニ依リ現役兵及補充兵ノ要員ヲ各聯隊區又ハ警備隊區ニ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ之ヲ各徵募區ニ配賦ス
第二十條 現役兵及補充兵ノ配賦ハ壯丁ノ總數ヲ率トシ比例ヲ以テ之ヲ定ム

第四章 徵募

第二十一條 町村長町村制ヲ施行セサル地方ニ在テハ戶長以下同シハ毎年戶籍簿ニ據リ徵兵適齡者ヲ取調ヘ徵兵令第二十五條ノ屆書ニ照較シ壯丁名簿ヲ作り二月十五日迄ニ島司又ハ郡長ニ差出シ島司郡長ハ點檢ノ後之ヲ一募區ニ取纏メ前年假決ノ諸名簿ト共ニ聯隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署ニ提出スヘシ
東京市京都市大阪市及北海道ニ在テハ區長以下同シハ前項ノ例ニ依リ壯丁名簿ヲ作り前年假決

ノ諸名簿ト共ニ之ヲ聯隊區徵兵署ニ提出スヘシ

第二十二條 毎年徵募事務執行ノトキハ各徵募區及検査區ニ聯隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署ヲ設ク但土地廣濶壯丁多數ノ徵募區ニ於テハ二箇所以上ノ地ニ逐次開設スルコトヲ得

東京市京都市大阪市ニ於テハ抽籤執行ノ爲メ別ニ徵募區ニ聯隊區聯合徵兵署ヲ設ク

第二十三條 聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ島司郡市長ニ協議シ徵兵署開設ノ日割ヲ定メ聯隊區司令官警備隊司令官ハ師團長ニ島司郡市長ハ北海道廳長官府縣知事ニ申報スヘシ

聯隊區聯合徵兵署開設ノ日割ハ聯隊區司令官ヨリ府ノ書記官ニ協議シ之ヲ定メ聯隊區司令官ハ師團長ニ府ノ書記官ハ府知事ニ申報シ且府ノ書記官ハ徵兵署開設ノ日割及其ノ場所ヲ區長ニ達スヘシ

島司郡市長ハ検査抽籤ノ日時及徵兵署設置ノ場所ヲ豫メ聯隊區徵兵參事員又ハ警備隊區徵兵參事員ニ通知シ且其ノ管内ニ告示スヘシ

第二十四條 兵役ノ適否ヲ定ムル爲メ聯隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署ニ於テ壯丁ノ身體検査ヲ行フ其ノ検査ハ徵兵官及徵兵參事員ノ面前ニ於テスルモノトス

第二十五條 聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ壯丁ノ身體検査ノ事ヲ監督シ兵種ノ選定ニ任ス

第二十六條 島司郡市長ハ徵集延期及徵集猶豫ニ關スル書類ノ調査及事實ノ審察ニ任ス

第二十七條 壯丁ノ身體検査終ルトキハ聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ハ徵集延期徵集猶豫徵集免除及兵役免除ノ處分ヲ爲シ又壯丁名簿ヲ以テ徵集名簿徵集延期名簿徵集猶豫名簿徵集免除名簿及兵役免除名簿ヲ作ルヘシ

第二十八條 身體検査ニ合格シタル壯丁ハ徵集順序ヲ定ムル爲メ徵募區毎ニ體格ノ等位及兵種ヲ分テ聯隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署ニ於テ抽籤ヲ行フ但東京市京都市大阪市ニ於テハ聯隊區聯合徵兵署ニ於テ之ヲ行フ

抽籤ハ徵兵官及徵兵參事員ノ面前ニ於テ抽籤總代人ヲ爲スモノトス抽籤總代人ハ徵募區又ハ検査區毎ニ籤丁ノ選ヲ以テ二名若クハ三名ヲ出スモノトス

第二十九條 前條ノ徵兵官ハ總代人ノ抽キタル籤番號ノ順序ニ依リ抽籤名簿ニ通テ作ルヘシ

第三十條 抽籤終ルトキハ抽籤名簿及徵集名簿ハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官之ヲ領シ抽籤名簿徵集延期名簿徵集猶豫名簿徵集免除名簿及

兵役免除名簿ハ島司郡市長之ヲ領シ島廳郡市役所東京市京都市大阪市及北海道廳ノ區ニ在テハ區役所以下同ニ備置クヘシ但東京市京都市大阪市ニ於テハ市長ノ領スヘキ抽籤名簿ハ府ノ書記官之ヲ領シ府廳ニ備置クヘシ

第三十一條 各徵募區ノ抽籤終ルトキハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官

ハ第十九條ノ配賦ニ基キ現役兵徵募及補充兵編入ノ處分ヲ爲シ又徵集名簿ヲ以テ現役兵名簿補充兵名簿及要員超過名簿ヲ作ルヘシ第三十二

條聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ現役兵名簿ヲ各聯隊長聯隊ヲ爲ササル隊ニ在テハ其隊長及海兵團長ニ交付シ且現役兵ニ徵募スヘキ者補充兵ニ編入スヘキ者ノ順序ヲ島司郡市長ニ通知スヘシ但東京市京都市大阪市ニ在テハ府

ノ書記官ニ通知スヘシ
抽籤名簿及補充兵名簿ハ之ヲ聯隊區司令部又ハ警備隊司令部ニ備置キ要員超過名簿ハ島司郡市長ニ交付シ島廳郡市役所ニ備置クヘシ

第三十三條 第二十七條ノ處分ヲ爲シタル者ニハ聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官第三十一條ノ處分ヲ爲シタル者ニハ聯隊區司令官又ハ警備

隊司令官各其ノ證書ヲ附與ス但徵集免除ノ者并ニ要員ニ超過シタル者ニハ證書ヲ附與セス第三十四條徵募事務終ルトキハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ徵兵事務報告書及徵兵表ヲ作り師團長ニ差出シ師團長ハ師管徵兵事務報告書及徵兵表ヲ作り陸軍大臣ニ差出シ陸軍大臣ハ全國徵兵表ヲ作り奏上スヘシ

第五章 裁決

第三十五條 裁決ハ分テ假決及終決ノ二種トス

第三十六條 假決ハ徵集延期及徵集猶豫ノ事ヲ裁決シ終決ハ現役兵徵募補充兵編入要員超過徵集免除及兵役免除ノ事ヲ裁決ス

第三十七條 徵集延期徵集猶豫徵集免除及兵役免除ノ裁決ハ聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官之ヲ爲シ其ノ他ノ裁決ハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官之ヲ爲ス

第三十八條 壯丁若クハ其ノ家族ニ於テ徵兵令第二十二條及明治二十八年勅令第二百二十六號第二條ニ關スル聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ノ裁決ニ不服アルトキハ師管徵兵官ニ師管徵兵官ノ裁決ニ不服アルトキハ總理徵兵官ニ訴願スルヲ得但訴願ノ爲ニ裁決ノ執行ヲ停止セス

本條ノ訴願ハ裁決書ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ爲スヘシ其期日ヲ過クルモノハ受理セス

第三十九條 徵兵官ノ裁決ニ對シ訴願ヲ爲サントスル者ハ其訴願書ニ同徵募區内其ノ年徵集ニ應スヘキ壯丁シ戸主三名ノ保證書ヲ添ヘ其ノ裁決ヲ爲シタル徵兵官ヲ經由シテ差出スヘシ

第四十條 徵兵官第三十九條ノ訴願書ヲ受領シタルトキハ之ニ前裁決ニ關スル書類ヲ添ヘ上級ノ徵兵官ニ差出スヘシ

第四十一條 徵兵官ノ裁決ニ對シテハ行政裁判所ニ出訴スルヲ許サス

第六章 現役兵及補充兵

第四十二條 現役兵入營期日ハ毎年十二月一日トス但疾病犯罪其ノ他ノ事故ニ由リ十二月一日ニ入營シ難キ者ハ同月三十一日迄ニ入營セシム警備隊諸兵ノ入營ハ二期ニ分チ其ノ第一期ハ徵募年ノ十二月一日第二期ハ翌年六月一日トシ砲兵輸卒ノ入營ハ三期ニ分チ其第一期ハ徵募年ノ十二月一日第二期ハ翌年四月一日第三期ハ同年八月一日トシ輜重輸卒ノ入營ハ四期ニ分チ其ノ第一期ハ徵募年十二月一日第二期ハ翌年三月一日第三期ハ同年六月一日第四期ハ同年九月一日トス

仙臺札幌弘前金澤各衛戍地ニ於テハ砲兵輸卒ノ入營ハ二期ニ分チ其ノ第一期ハ徵募年ノ翌年四月一日第二期ハ同年八月一日トシ輜重輸卒入營ハ三期ニ分チ其ノ第一期ハ徵募年ノ翌年三月一日第二期同年六月一日第三期ハ同年九月一日トス戰時若クハ事變ニ際シテハ第二期以下ノ入營期日ヲ變更スルコトヲ得

第四十三條 現役兵入營ノトキハ先ツ聯隊區司令部若クハ便宜ノ地ニ召集シ入營兵引率員之ヲ入營地ニ引率シ聯隊區司令部所在ノ入營地ニ在テハ聯隊區司令部ヨリ直ニ當該隊長ニ交付ス但入營兵五人未滿ナルトキハ直ニ入營地ニ單行セシム

海軍現役兵ハ其ノ集合地ニ引率シ入營兵受領員ニ交付スルモノトス但入營兵引率員出發後到着シタル者ハ直ニ入營地ニ單行セシム

第四十四條 現役兵入營ニ際シ父母ノ疾病危篤或ハ死亡ノ爲メ入營延期ヲ願フ者アルトキハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ於テ十四日以内ノ延期ヲ許スヘシ

其ノ延期ヲ願フ者ハ願書ニ市町村長ノ奧書證印ヲ受ケ其ノ父母疾病危篤ノ者ハ醫師ノ診斷證書ヲ添ヘ差出スヘシ

第四十五條 現役兵入營前ハ第四條ノ區域外ニ轉籍戶籍上本人ノ出入モ含有ス以下同ハスルモ

所屬ノ隊籍ヲ變更セス徵兵令第二十七條ニ當リ翌年回ト爲リタル者ハ身體檢査ヲ行ヒ更ニ隊籍ヲ定ムルモノトス但第四條ノ區域外ニ轉籍シタル者ハ其地ニ於テ身體檢査ヲ行ヒ隊籍ヲ定ム

第四十六條 現役兵入營前死亡シ若クハ疾病犯罪其ノ他ノ事故ニ由リ十二月三十一日迄ニ入營シ難シト認メタル者又ハ入營ノ後翌年一月三十一日前ニ死亡シタル者若クハ一時服役ニ堪ヘサル者又ハ常備後備ノ服役及永久服役ニ堪ヘ難キ者アルトキハ其ノ徵募區同兵種ノ第一補充兵若クハ海軍補充兵ヲ以テ抽籤番號ノ順序ニ從ヒ補充シ若シ其ノ徵募區ヨリ補充スルコト能ハサルトキハ聯隊區内他ノ徵募區ヨリ補充ス其ノ配賦ハ各徵募區補充兵ノ總數ヲ率トシ比例ヲ以テ之ヲ定ム但警備隊諸兵及砲兵輸卒輜重輸卒ニシテ入營スヘキ月ノ二十日迄ニ本文ノ事故ヲ生シタル者アルトキハ次期入營スヘキ者ヲ繰上ケ入營セシム其ノ最終期ニ在テハ前期ニ繰上ケタル缺員ト其ノ期ノ缺員ハ第一補充兵ヲ以テ補充ス

第四十七條 現役兵入營前廢疾又ハ不具ト爲リ永久兵役ニ堪ヘ難キ者アルトキハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ於テ兵役ヲ免ス但徵兵令第

第二十七條ニ當リ翌年回ト爲リタル者其ノ年徵募事務終結前ハ此ノ限ニ在ラス

第四十八條 現役兵入營前徵兵令第二十二條ニ當ルヘキ事故ノ生スルトキハ本人ノ願ニ由リ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ於テ徵集ヲ延期ス其ノ願書ニハ同徵募區内其ノ年徵集ニ應スヘキ現役兵ノ戸主二名ノ保證書ヲ添ヘ島司郡市長ヲ經テ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ差出スヘシ但町村ニ在テハ町村長ノ與書證印ヲ受クヘキモノトス
島司郡市長ハ其ノ事實ヲ審覆シ狀況書ヲ作り願書ト共ニ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ送付スヘシ

第四十九條 現役兵入營前及補充兵補充兵證書附與後其ノ年十一日以前ノ者以下同シ轉籍シタルトキハ十四日以内ニ島司郡市長ヲ經テ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ届出ヘシ但町村ニ在テハ町村長ヲ經由スヘシ
其ノ轉籍聯隊區外又ハ警備隊區外ニ係ルトキハ舊住地聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ヨリ新住地聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ通報スヘシ
本條ノ届出ヲ爲ササル者ハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第五十條 現役兵入營前及補充兵寄留若クハ十四日以上ノ旅行ヲ爲サントスルトキハ召集ノ命アルトキ之ヲ通報スヘキ者ヲ定メ島司郡市長ヲ經テ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ届出ヘシ其ノ復歸シタルトキ亦届出ヘシ但町村ニ在テハ町村長ヲ經由スヘシ
本條ノ届出ヲ爲サル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス
通報人正當ノ事由ナクシテ召集ノ命ヲ通報セス若クハ其ノ通報ヲ遲緩シタルトキハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第七章 雜則

第五十一條 徵兵令第十二條ニ依リ現役ニ服センコトヲ志願スル者ハ其ノ願書ニ戸主或ハ後見人連署シ身元證書ヲ添ヘ市町村長ノ與書證印ヲ受ケ九月一日以前自己ノ服役セント欲スル軍隊又ハ海兵團ニ願出テ許可ヲ受クヘシ但軍隊又ハ海兵團遠隔ノ地ニ居住ノ者ハ徵兵検査ノ際聯隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署ニ申立テ身體検査ヲ受ケ合格ノ者ハ合格證書ヲ添ヘ願出ルコトヲ得検査ノ爲メ往復旅費及入營旅費ハ自辨トス

第五十二條 第五十一條ニ依リ服役ノ許可ヲ受ケタル者ハ入營前本籍地ノ市町村長ニ届出ヘシ

第五十三條 他ノ徵募區ニ寄留シ其地ニ於テ身體検査ヲ受ケンコトヲ冀望スル者ハ三月一日迄 本籍地ノ島司郡市長ニ願出ヘシ島司郡市長ニ差出ス願書ニハ町村長ノ奥書證印ヲ受クヘキモノトス島司郡市長其ノ願ヲ許可シタルトキハ之ヲ本人寄留地ノ島司郡市長ニ通知スヘシ
 本條ノ願出已ムヲ得サル事故ノ爲三月一日ヲ過クルモノハ島司郡市長ヨリ本人寄留地ノ島司郡市長ニ協議シ徵募上故障ナキモノニ限り許可スヘシ

第五十四條 徵兵令第二十二條ニ當ル者ハ同徵募區内其ノ年ノ徵集ニ應スヘキ壯丁ノ戸主二名ノ保證書ヲ添ヘ三月一日迄ニ
三月一日後抽籤迄ニ事
都度以 聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ニ願出ヘシ但其ノ事故一年以下同シ上繼續スル者ハ毎年願出テ其三箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサル者ハ本文ノ保證書ヲ添ヘ届出ヘシ

前項ノ願書及届書ニハ町村長ノ奥書證印ヲ受クヘキモノトス
 第五十五條 徵兵令第二十三條第一項ニ當ル者ハ學校長ノ證明書同條第二項ニ當ル者ハ公使領事又ハ貿易事務官ノ證明書ヲ添ヘ三月一日迄ニ
 聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ニ願出ヘシ
 公使領事及貿易事務官ヲ置カサル國ニ在ル者ハ其ノ徵集猶豫願書ニ海

外旅券ヲ受取リタル官廳ノ證明書ヲ添ヘ差出スヘシ公使領事及貿易事務官ヲ置キタル國ニ在ル者ト雖徵集猶豫願ヲ差出ストキ未ダ公使領事又ハ貿易事務官ノ證明書ヲ得サルトキハ之ニ換フルニ海外旅券ヲ受取リタル官廳ノ承認書ヲ添ヘ差出シ置キ追テ證明書ヲ差出スコトヲ得
 本條ノ願書ニハ町村長ノ奥書證印ヲ受クヘキモノトス
 第五十六條 明治二十八年勅令第二百二十六號第二條ニ當ル者ハ其ノ移住ノ年月日及生業ノ狀況ヲ詳記シ毎年三月一日迄ニ聯隊區徵兵官ニ願出ヘシ

前項ノ願書ニハ町村長ノ奥書證印ヲ受クヘキモノトス
 第五十七條 徵兵令第二十三條第一項ノ事故止ミタル者ノ届書及同條第二項ノ歸朝シタル者ノ届書ハ町村長ヨリ其ノ年ノ壯丁名簿進達前ニ在テハ其ノ名簿ト共ニ進達後ニ在テハ受領ノ日ヨリ三日以内ニ聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ニ差出スヘシ
 市長ハ前項ノ届書ヲ聯隊區徵兵署若クハ聯隊區聯合徵兵署開設ノトキ同署ニ提出スヘシ

第五十八條 疾病傷痕或ハ犯罪等ニテ身體検査ヲ受ケ難キ者及一年志願兵年齢十九歳以下ノ者ヲ除ク出願中ノ者ハ書面ヲ以テ検査當日迄ニ島司郡市長ニ願出

〜シ其疾病傷痕ノ者ハ醫師ノ診斷證書ヲ添フヘシ

島司郡長ニ差出ス届書ニハ町村長ノ奥書證印ヲ受クヘキモノトス
本條ノ届出ヲ爲サ、ル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス
第五十九條ノ疾病傷痕或ハ犯罪等ニテ期限ニ際シ入營シ難キ者ハ書面ヲ以テ入營當日迄ニ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ届出ヘシ其ノ疾病傷痕ノ者ハ醫師ノ診斷證書ヲ添フヘシ其届書ニハ市町村長ノ奥書證印ヲ受クヘキモノトス

本條ノ届出ヲ爲サ、ル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第六十條 徵兵署ノ諸費壯丁及抽籤總代人ノ旅費現役兵入營ノ旅費徵兵參事員ノ手當金旅費徵兵醫官補助員ノ給料旅費ハ官給ス

第六十一條 第七師團ノ兵員ハ其ノ師管內徵兵令施行地ヨリ徵集ス但要員ヲ充シ能ハサルトキハ他ノ師管ヨリ其ノ不足ヲ補充スルコトヲ得

第六十二條 島嶼ニ於テ本條例中ノ條規ヲ實施スルコト能ハサルトキハ師團長地方長官協議ノ上適宜ノ方法ヲ設クルコトヲ得

第六十三條 徵兵令ヲ施行セサル地ニ寄留ノ者ハ寄留地最寄ノ徵募區ニ於テ身體検査ヲ受クルコトヲ得其ノ願出手續及取扱ハ第五十三條ノ例ニ準ス

第六十四條 徵兵令ヲ施行セサル地ヨリ施行ノ地ニ轉籍シタル者ハ其ノ年又ハ翌年ノ徵集ニ應セシム但年齡二十六歳ヲ過キ轉籍シタル者ハ此限ニ在ラス

附 則

第六十五條 近衛師團ノ兵員ハ當分第一師管ヨリ徵集ス

第六十六條 聯隊區徵兵參事員又ハ警備隊區徵兵參事員ハ未ダ郡制ヲ施行セサル郡ニ在テハ其ノ郡内ニ於テ四名ヲ選舉シ當選ノ者ヲ以テ之ニ充ツ其ノ選舉人被選舉人資格選舉ノ方法及任期ハ總テ府縣會議員ノ例ニ依ル

第六十七條 本條例ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

◎北海道ニ徵兵令施行ノ件明治廿九年九月勅令第百二十六號

第一條 明治二十九年一月一日ヨリ北海道渡島、後志、膽振、石狩、ノ四箇國ニ徵兵令ヲ施行ス

明治三十一年一月一日ヨリ天鹽、北見、日高、十勝、釧路、根室、千島ノ七ヶ國ニ徵兵令ヲ施行ス明治三十年七月勅令第百二十七號ニテ追加

第二條 前條ノ徵兵令施行地ニ轉籍移住シ開墾其ノ他一定ノ生業ニ従事スル者ハ轉籍移住ノ後五ク年ニ滿ツル年迄徵集ヲ猶豫ス但轉籍移住ノ後前條ノ區域外ニ轉籍シ更ニ轉籍移住シタル者ハ此ノ限ニアラス

○北海道ニ徵兵令施行ノ件

第三條

屯田兵現役豫備役下士兵卒ノ戸籍内ニ在ル者ハ徵集ヲ免除ス

明治三十年七月勅令
二百五十七號ニテ改正

三十

第四條 從來徵兵令ノ施行セル函館、江差、福山ニハ本令ヲ適用スルノ限
ニアラス

附 則

第三條ハ明治三十一年一月一日ヨリ施行ス 全上ニ
テ追加

●沖繩縣及東京府管下小笠原島ニ徵兵令施行ノ件 明治三十年七月勅
令第二百五十八號
沖繩縣壯丁ニシテ徵集ニ應スルトキハ從來ノ産業ヲ維持スルコト能ハス
ト認ムル者ハ特ニ徵集ヲ免除ス小笠原島ニ轉籍移住シ開墾其ノ他一定ノ
生業ニ従事スル者ハ轉籍移住ノ後五ケ年ニ滿ツル年迄徵集ヲ猶豫ス但
籍移住ノ後本島外ニ轉籍シ更ニ轉籍移住シタル者ハ此ノ限ニアラス

●徵兵検査規則 明治二十五年三月
陸軍省令第三號

明治二十二年(三月)陸軍省令第二號徵兵検査規則左ノ通改ム

徵兵検査規則

第一條 徵兵検査ハ徵兵令ニ據リ兵役ニ服スヘキモノノ體格ヲ検査シ其
適否ヲ定ムルモノトス

此検査ハ學術上諸種ノ方法ヲ施スコトヲ得

第二條 左ノ疾病畸形ノ者ハ不合格トス

- 一 惡性腫瘍
- 二 骨軟化、佝僂病
- 三 象皮腫、癩
- 四 動脈瘤
- 五 癩痢
- 六 白痴
- 七 癲狂
- 八 夜盲
- 九 盲
- 十 耳鼓若クハ鼻ノ全缺スルモノ
- 十一 聾
- 十二 啞
- 十三 唇、齒牙、口内ノ疾病ニシテ官能ニ大ナル妨アルモノ
- 十四 食道狹窄
- 十五 脊梁、骨盤ノ畸形ニシテ運動ニ大ナル妨アルモノ
- 十六 歇兒尼亞
- 十七 關節畸形

○徵兵検査規則

十八 習癖脱春

十九 支肢ノ短縮、彎曲

二十 指節ノ強剛ニシテ把握ニ大ナル妨アルモノ

二十一 拇指若クハ示指若クハ二指以上ヲ失シタルモノ

二十二 躡足

二十三 第一趾ヲ失シタルモノ若クハ三趾以上ヲ失シタルモノ

前項ノ疾病畸形中輕症ニシテ服役シ得ヘキモノハ合格トシ爾餘ノ疾病畸形ト雖モ服役シ得ヘカラサルモノハ不合格トス

第三條 徴兵體格ノ等位ヲ區別スルコト左ノ如シ

一 甲種 身長五尺以上ニシテ身體強健ナルモノ

二 乙種 身長五尺以上ニシテ身體甲種ニ亞クモノ

三 丙種 身長五尺以上ニシテ身體乙種ニ亞クモノ及身長五尺未滿四尺八寸ニシテ丁種戊種ニ當ラサルモノ

四 丁種 第二條ニ當ルモノ及身長四尺八寸ニ滿タサルモノ

五 戊種 徴兵令第十八條第一項第二項ニ當ルモノ

第四條 第四條ノ甲種乙種丙種ヲ合格トシ其甲種乙種ハ現役ニ徵スヘキモノ丙種ハ國民兵役ニ置クモノトシ丁種ヲ不合格戊種ヲ徵集延期トス

在郷陸軍軍人及補充兵寄留地ヨリ召募ニ應セントスル者

取扱方 明治三十年六月 陸軍省令第十六號

在郷陸軍軍人及補充兵ニシテ寄留地ヨリ直ニ召集ニ應セントスル者ハ准士官以上ニ在テハ師團長ニ下士以下ニ在テハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ願出テ許可ヲ請クヘシ

前項ニ關スル取扱ハ師團長之ヲ定ム

管外寄留地ニ於テ身體檢査ヲ受ケント出願セル者ノ取扱

方 明治三十年四月 陸軍省訓令第三號

聯隊區内又ハ警備隊區内他ノ徵募區ニ寄留シ徴兵事務條例第五十二條ニ依リ其地ニ於テ身體檢査ヲ受クルコトヲ願出ル者アルトキハ島司郡市長ヨリ之ヲ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ協議シ徵募上故障ナキ者ニ限リ許可セシムヘシ

現役砲兵輸卒及現役輜重輸卒疾病犯罪ノ爲入營シ難キ者

取扱方 明治三十年三月 陸軍省訓令甲第四號

明治二十六年陸軍省訓令第六號ヲ廢シ更ニ現役砲兵輸卒及現役輜重輸卒ニシテ疾病犯罪等ノ爲メ入營シ難キ者ノ取扱左ノ通定ム
一 疾病犯罪等ノ爲メ入營シ難キ者ハ漸次次期ニ繰下ケ入營セシメ其終

○在郷陸軍軍人及補充兵寄留地ヨリ召募ニセントスル者取扱方三十三

○現役砲兵輸卒及現役艦重輸卒疾病犯罪ノ爲入營シ難キ者取扱方三十四

- 二期ニ於テ入營シ難キ者ハ次年徵集ノ現役兵同時ニ入營セシム
- 其事故繼續シ若クハ再發シ次年第二期(仙臺弘前札幌金澤ノ各衛戍地ニ在テハ第一期)以後ニ至ルモ仍ホ入營シ難キ者アルトキハ徵兵檢査ノ際身體檢査ヲ爲シ徵集ニ適スル者ハ前項ノ例ニ依リ取扱ヒ其徵集ニ適セサル者ハ徵集免除若クハ兵役免除ノ處分ヲ爲ス
- 入營テ次年ニ繰下ケタル爲メ所要人員超過スルノキハ抽籤番號ノ最モ高キ者ヨリ漸次次期ニ繰下ケ終期ニ於テ仍ホ要員ニ超過スルトキハ次年ニ繰下クヘシ

●徵兵旅費定則

明治三十年十月
內務省令第三十二號

明治二十年(十一月)大藏省令第十七號徵兵旅費定則左ノ通改正シ明治三十年十月ヨリ施行ス

徵兵旅費定則

- 第一條 徵兵旅費ハ檢査入營ノ二種ニ分チ之ヲ支給ス
 - 一 檢査旅費ハ檢丁及呼出ニ係ル檢丁ノ父兄癘疾不具等ノ者ニ同伴シタル保護人抽籤人等居住地ヨリ檢査所又ハ抽籤所ニ往返ノ旅費トス
 - 一 入營旅費ハ新兵居住地ヨリ營所ニ至ルノ旅費トス
- 第二條 檢査旅費ハ左ノ規定ニ依ル

- 一 片道三里以上ノ旅行ヨリ里數ニ應シ陸路雜費一里ニ付金參錢ヲ支給ス但一里未滿ノ端數ハ切捨トス
- 二 官ノ都合ニ依リ特ニ滞在ヲ命シタルトキハ日數ニ應シ滞在日當金貳拾五錢ヲ支給ス
- 三 川留雪支等ニテ旅行途中ニ滞在スルトキハ其地市區町村長戶長及之ニ準スヘキ者ノ證明書ヲ添ヘ請求スルトキハ滞在日當金二拾五錢ヲ支給スルコトヲ得
- 四 片道三里已上ノ旅行ニシテ渡航ニ在ラサレハ至リ難キ場所若クハ地勢上渡航又ハ汽車乗用ヲ便トスルトキハ第一號ノ陸路雜費ヲ給セズ渡航賃汽車賃ノ下等實費ヲ支給ス
- 五 第四號ノ場合ニ於テハ尙夜數ニ應シ宿泊料金貳拾錢ヲ給ス其ノ徒步旅行ト跨ル日ハ其ノ徒步旅行ニ對シテハ第一號ノ陸路雜費ヲ支給ス
- 六 渡航賃及汽車賃ノ實費ヲ給スル場合ニ於テハ下等賄ノ實費ヲ給スルコトヲ得
- 七 片道三里未滿ノ旅行ト雖モ渡航ニ在ラサレハ至リ難キ場所ハ渡航賃ノ下等實費ヲ支給スルコトヲ得
- 八 片道三里未滿ノ旅行ト雖モ官ノ都合ニ依リ特ニ宿泊ヲ命シタルト

○徵兵旅費定則

キハ夜數ニ應シ宿泊料金貳拾錢ヲ支給ス

第三條 檢丁若クハ呼出ニ係ル檢丁ノ父兄癆疾不具等ニシテ步行シ能ハサルトキハ第二條第一號陸路雜費ノ外尙ホ片道一里以上ヨリ里數ニ應シ金七錢ノ車馬賃ヲ支給ス但一里未滿ノ端數ハ切捨トス

第四條 入營旅費ハ左ノ規定ニ依ル

一 片道三里以上ノ旅行ヨリ里數ニ應シ陸路雜費一里ニ付金五錢ヲ支給ス但一里未滿ノ端數ハ切捨トス

二 第二條ノ第二號乃至第八號ハ入營旅費ニ適用シ滞在日當ハ金參拾錢宿泊料ハ金貳拾五錢トス

三 新兵入營ノ旅行ハ一日十二里詰トシ若シ集合上ノ都合等ニ依リ其見積リ行程ヨリ延著セシメタルトキハ増日數ニ應シ滞在日當ノ額ヲ支給ス

四 新兵入營旅行中疾病ニ罹リ步行シ能ハスシテ車馬等ヲ要シ又ハ滞在シタルトキハ附添吏員ノ證明書及醫師ノ診斷書ヲ添ヘ請求スルトキハ車馬賃等ノ實費又ハ滞在日當ヲ支給スルコトヲ得

●陸軍六週間現役兵條例明治二十八年十月勅令第四百一十一號
陸軍六週間現役兵條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍六週間現役兵條例

第一條 徴兵令第十三條第三項ニ依リ六週間陸軍現役ニ服セシムヘキ者ハ教職ニ就キタル年若クハ其ノ翌年ニ於テ其ノ居住地師管内ノ歩兵隊(警備隊ヲ置ク島嶼ニ在テハ警備隊)ニ編入シ服役セシム

第二條 六週間現役兵ノ入營期日ハ毎年六月一日トス但疾病其他ノ事故ニ由リ期日ヨリ三日以内ニ入營シ難キ者ハ翌年徵集ス

戰時若クハ事變ニ際シテハ其ノ徵集ヲ延ハスコトアルヘシ

第三條 現役服役日數ハ入營期日ヨリ起算ス

第四條 六週間現役兵ノ教育ハ聯隊長(獨立大隊ニ在テハ隊長警備隊ニ在テハ司令官以下之ニ倣フ)其ノ責ニ任ス

第五條 六週間現役中勤務勉勵品行方正ニシテ第二國民兵ヲ以テ編成スル部隊ノ幹部タルヲ得ヘキ材幹アル者ニハ聯隊長其ノ成績ヲ具シ順序ヲ經テ師團長(第七師管ニ在テハ屯田兵司令官)ノ認可ヲ受ケ國民軍幹部適任證書ヲ授與ス

第六條 六週間現役兵ノ身體檢査ハ入營スヘキ年ニ於テ一般ノ徴兵檢査ト同時ニ之ヲ行フ徴集ニ適セサル者ハ徴兵檢査規則ニ照シ處分ス
北海道及沖繩縣ニ在ル者ノ身體檢査ニ關スル規程ハ陸軍大臣別ニ之ヲ

定ム

第七條 檢査往復旅費及入營旅費ハ官給ス

附則

第八條 北海道ニ在ル者ハ第七師管ニ常備步兵隊ヲ置ク迄ハ第二師管ノ步兵隊ニ編入シ服役セシム

第九條 本令ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

明治二十三年勅令第二十二號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

陸軍六週間現役兵條例施行細則 明治三十年四月 陸軍省令第九號

陸軍六週間現役兵條例施行細則左ノ通改正ス

第一條 六週間現役兵ノ身體檢査ハ教職ニ就キタル年居住地所在ノ聯隊

區内又ハ警備隊區内便宜ノ徵兵署ニ於テ之ヲ行フ但其ノ年ノ入營期日

ニ切迫シ若クハ入營期日後教職トナリタル者ハ翌年廻トス

第二條 府縣廳ニ於テハ徵兵事務條例施行細則第一樣式ニ準シ六週間現

役兵名簿ヲ作り身體檢査先々チ之ニ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官

ニ送附シ檢査ノ手續ヲ協議スヘシ但官立小學校ノ教職モ亦本文同様該

校所在府縣ニ於テ取扱フヘシ

第三條 聯隊區司令官警備隊司令官ハ六週間現役兵ノ身體檢査ニ關シテ

ハ尋常徵兵ト同一ノ取扱ヲ爲シ合格者ニハ附錄第一樣式ノ合格證書ヲ

付與シ其ノ名簿ヲ師團長ニ差出シ且其ノ成績ヲ北海道廳又ハ府縣知事

ニ通知スヘシ

其ノ徵集ニ適セサル者(沖繩縣在籍ノ者ヲ除ク)ハ徵集延期徵集免除又

ハ兵役免除ノ處分ヲ爲シ徵集延期名簿ヲ北海道廳又ハ府縣廳ニ送付シ

徵集免除及兵役免除名簿ヲ本籍所管ノ島司郡市長(東京市京都市大阪

市及北海道ノ區ニ在テハ區長以下同シ)ニ送付スヘシ

第四條 師團長ハ合格者在職地ノ遠近ニ應シ適宜之ヲ各隊ニ配付スヘシ

但沖繩縣ニ在職ノ者ハ步兵第四十五聯隊ニ入隊セシムルモノトス

第五條 北海道及沖繩縣ニ在ル者ノ身體檢査ハ左ノ諸項ニ依リシ

一 北海道ニ在ル者ハ札幌聯隊區司令部沖繩縣ニ在ル者ハ鹿兒島聯隊

區司令部ニ於テ身體檢査ヲ行フ但北海道ニ在テ師範學校卒業ノ翌

年以後ノ者ニ在テハ札幌聯隊區司令部又ハ函館聯隊區司令部若ク

ハ該聯隊區内便宜ノ徵兵署ニ於テ行フ

二 北海道廳及沖繩縣廳ニ於テハ教職トナルヘキ年豫メ第三條ニ準シ

名簿ヲ作り該聯隊區司令部ニ送付スヘシ

- 三 札幌聯隊區司令官ハ三月一日迄鹿兒島聯隊區司令官ハ成ルヘク五月二十五日ヨリ同月三十一日迄ノ間ニ身體検査ヲ行フヘシ但第一項但書ニ該ル者ハ此ノ限ニアラス
- 四 鹿兒島聯隊區司令官ハ合格者ノ人名書ヲ師團長ニ差出シ及其ノ名簿ヲ聯隊長ニ送付スヘシ
- 五 身體検査ノ爲メ沖繩縣ヨリ鹿兒島聯隊區司令部ニ到ラシムヘキ者ハ縣官一名之ヲ引率セシムヘシ
- 第六條 身體検査ノ後敎職ヲ罷メタル者アルトキハ道廳府縣廳ヨリ直ニ師團司令部ニ通報スヘシ但北海道ニ在テハ検査後入營期日迄ニ敎職ヲ命セサル者アルトキ亦同シ
- 第七條 身體検査ヲ受ケタル者(沖繩縣在籍ノ者ヲ除ク)ハ其ノ年ノ五月三十一日迄ニ合格若クハ其ノ受ケシ處分ヲ本籍所管ノ島司郡市長ニ届出ヘシ
- 本條ノ届出ヲ爲ササル者ハ五錢以上一圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス
- 第八條 六週間現役兵退營スルトキハ聯隊長(獨立大隊ニ在テハ其ノ隊長警備隊ニ在テハ該司令官以下同シ)ハ該名簿ヲ本籍所管ノ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ送付シ聯隊區司令官警備隊司令官ハ之ヲ島司

郡市長ニ送付スヘシ

條例第五條ニ依リ國民軍幹部適任證書ヲ授與シタル者アルトキハ聯隊長其ノ旨ヲ名簿ニ記載シ其ノ國民軍幹部適任證書ハ附録第二様式ニ準シ調製スヘシ

第九條 國民軍幹部適任證書ヲ授與セラレタル者ニシテ懲戒處分ヲ受ケ又ハ家資分散若クハ破産ノ宣告ヲ受ケ若クハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ證書ヲ返還セシム

第十條 前諸條ニ掲クルモノノ外ハ師團長及道廳長官府縣知事協議ノ上之ヲ定ムヘシ

附 則

明治三十年ニ於テ徵募スル六週間現役兵ノ身體検査ハ聯隊區司令部若クハ聯隊區内便宜ノ地ニ於テ施行スルコトヲ得

◎陸軍一年志願兵條例 明治二十六年七月勅令第七十三號

朕陸軍一年志願兵條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
陸軍一年志願兵條例

第一條 徵兵令第十三條ニ據リ一年志願兵トナル者ハ居住地師管内ニ於テ服役スヘキ兵科及衛戍地ヲ選フコトヲ得但第四條ニ當ル者ハ此限ニ在

ヲス(明治二十八年勅令第三十四號ヲ以テ第十一條ヲ第十三條ト改ム)

第二條 一年志願兵ニハ所屬隊ヨリ糧食、被服、裝具、兵器、彈藥ノ現品ヲ給シ被服費、裝具費、彈藥費、及兵器修理費トシテ金六十一圓糧食費トシテ金三十八圓ヲ納メシム又騎兵科ニ入ル者ニハ馬匹ヲ貸與シ馬糧費、裝蹄費、剔毛費及馬藥費トシテ更ニ金七十五圓ヲ納メシム以上ノ金額ニテ不足テ生スルトキハ之ヲ追徴シ殘餘アルトキハ之ヲ還付シ兵器ハ本人滿期ノ際之ヲ返納セシム

第三條 一年志願兵ハ在營セシムルヲ例トス但本人ノ願ニ依リ聯隊長(聯隊ヲ成ササル隊ニ在テハ該隊長以下同シ)外泊ヲ許シ通勤セシムルコトヲ得

第四條 費用ノ全額ヲ自辨シ能ハサルノ證アル者ハ糧食費外ノ費用ヲ官給ス

第五條 一年志願兵ハ總テ無給料トス其檢査往復並ニ入營退營旅費亦自辨トス

第六條 官費服役ヲ許スヘキ一年志願兵ノ定員ハ毎年陸軍大臣之ヲ定ム官費服役出願者前項ノ定員ヲ超過スルトキハ年少ノ者ヨリ順次次年ニ廻シ入隊セシム(同上法令ヲ以テ本項追加)

第七條 一年志願兵ハ現役滿期ノ後六箇年四箇月間豫備役ニ五箇年間後備役ニ服セシム

豫備役後備役中犯罪ノ爲メ又ハ正當ノ事由ナクシテ召集ヲ欲キタル者其召集ヲ欲キタル年ハ服役年期ニ算セス(同上法令ヲ以テ改正)

第八條 一年志願兵志願者ハ其願書ヲ一月三十日迄ニ本籍ノ島司郡市長(東京京都大阪ノ三市及北海道ノ區ニ在テハ區長以下同シ)ヲ經テ居住地所管ノ師團長ニ差出スヘシ但徵兵令第十三條ノ學校卒業者ハ卒業證書寫及戸主ニアラサルモノハ戸主二十歳未滿者ハ戸主若クハ後見人ノ承認書ヲ添附スルヲ要ス(明治二十九年勅令第九十一號ヲ以テ本條改正)

島司郡市長ハ志願者ノ身元資産並ニ犯罪有無ノ證明書ヲ製シ其願書ニ添附スヘシ

第九條 前條ノ志願者ニシテ一月三十日迄ニ徵兵令第十三條ノ學校ヲ卒業セサル者ハ其年十月三十一日迄ニ卒業スヘキ者ニ限り學校長ノ證明書ヲ以テ卒業證書寫ニ換フルヲ得但卒業ノ上ハ直ニ卒業證書寫ヲ添ヘ師團長ニ届出シ(同上)

第十條 師團長ハ第八條ノ志願者中學術試驗ヲ受クヘキ者ノ人名書ニ通

ヲ製シ其ノ一通ヲ監軍ニ呈シ一通ヲ身體検査ヲ爲サシムヘキ軍醫ニ下付スルモノトス(同上)

第十一條 一年志願兵ノ學術試験格例ハ毎年監軍之ヲ定メ陸軍大臣之ヲ告達ス

第十二條 師團長ハ學術試験ヲ受クヘキ者ノ身體検査時日ヲ定メ府縣知事ニ通達シ本人ヲ検査地ニ召集ス

第十三條 師團長ハ軍醫ヲシテ學術試験ヲ受クヘキ者ノ身體検査ヲ爲サシメ其合格者ハ陸軍將校生徒試験臨時委員ヲシテ學術試験ヲ行ハシム

(同上) 第十四條 師團長ハ試験ノ成績ニ據リ及第落第ヲ定メ及第者ニハ一年志願兵認定證書ヲ付與シ落第者ニハ其旨ヲ通知スヘシ(同上)

第十五條 一年志願兵ノ入隊期日ハ毎年十二月一日トス

第十六條 一年志願兵認定證書ヲ受ケタル者ハ入隊スヘキ年ノ十一月三十日迄ニ第二條若クハ第四條ノ金額ヲ所屬隊ニ納付スヘシ但入隊前外泊ノ許可ヲ受ケタル者ハ第二條ノ糧食費ヲ控除シ納付スヘシ

第十七條 一年志願兵ノ教育ニ關シテハ聯隊長其責ニ任スルモノトス

第十八條 一年志願兵中勤務熟達品行方正ニシテ豫備士官タル者得ヘキ材幹アル者ハ入隊ノ日より起算シ四箇月ノ後一等卒ヲ命シ通常教育ノ外特別ノ教育ヲ授ケ更ニ三箇月ノ後上等兵ト爲シ下士ノ勤務ヲ爲サシメ更ニ三箇月ノ後二等軍曹ノ階級ニ進メ諸勤務ヲ練習セシム

其服役滿期ニ際シテハ聯隊長終末試験委員ヲシテ終末試験ヲ爲サシメ其成績ヲ具シ師團長(歩兵ニ在テハ師團長ヲ經テ)ノ認可ヲ受ケ及第者ニハ終末試験及第證書ヲ授與シ一等軍曹ニ其落第者ハ二等軍曹ニ任シ豫備役ニ編入ス(同上)

第十九條 前條及第二十二條ノ選ニ當ラサル者ハ入隊ノ日より起算シ六箇月ノ後一等卒ヲ命シ更ニ三箇月ノ後上等兵ト爲シ通常教育ノ外下士タルノ教育ヲ授ケ服役滿期ノ際其成績優等ノ者ハ師團長ノ認可ヲ受ケ

下士適任證書ヲ付與シ若クハ之ヲ付與セスシテ豫備役ニ編入ス(同上)

第二十條 第十八條及第二十二條ニ當ル者ニシテ疾病其他ノ事故ニ由リ

○陸軍一年志願兵條例

四十五

豫備士官ト爲スノ見込ナキニ至リタルトキハ第十九條ノ例ニ準シ取扱フモノトス

第二十一條 醫學、藥學、理財學若クハ商業學ノ卒業證書ヲ所持スル者ハ步兵隊（理財學商業學卒業證書ヲ所持スル者ハ師團司令部所在地ノ步兵隊ニ限ル）獸醫學ノ卒業證書ヲ所持スル者ハ騎兵隊、野戰砲兵隊又ハ輜重兵隊ニ於テ前半年間隊列勤務ヲ爲シ後半年ノ初ニ於テ軍醫生、藥劑生、獸醫生又ハ軍吏生ト爲リ各専門ノ勤務ヲ練習スルコトヲ得志願ノ者ハ入隊ノ際其卒業證書寫ヲ添へ出願スヘシ

前項ノ獸醫生タラントスル者ハ第二條ノ馬匹ニ關スル納金ヲ要セス
第二十二條 前條ノ志願者中勤務勉勵品行方正ニシテ豫備士官タルヲ得ヘキ志操アル者ハ入隊ノ日ヨリ起算シ四箇月ノ後一等卒ヲ命シ更ニ二箇月ノ後上等兵ヲ命スヘシ之ニ軍醫生、藥劑生、獸醫生、軍吏生ヲ命スルコトハ師團監督部長若クハ軍醫部長、獸醫部長ヨリ師團長ノ認可ヲ受クルモノトス但軍吏生ト爲シタル者ハ下士ノ勤務ヲ爲サシメ上等兵ヲ命シタルトキヨリ更ニ三箇月ノ後三等書記ノ階級ニ進ムヘシ（同上）
第二十三條 軍醫生ノ教育ハ該隊上級醫官、藥劑生ノ教育ハ衛戍病院長、獸醫生ノ教育ハ該隊上級ノ獸醫官、軍吏生ノ教育ハ師團監督部長各

其責ニ任スルモノトス

第二十四條 軍醫生、藥劑生、獸醫生ハ曹長同等ノ取扱ヲ受クルモノトス

第二十五條 軍醫生、藥劑生、獸醫生及軍吏生ト爲シタル者ハ服役滿期ノ際師團監督部長、軍醫部長若クハ獸醫部長終末試験委員ヲシテ終末試験ヲ爲サシメ其及第者ニハ（軍醫部長、獸醫部長ハ其成績ヲ具シ師團長ノ許可ヲ受ケ）終末試験及第證書ヲ授與シ軍吏生ニ在テハ二等書記ニ任シ豫備役ニ編入ス（同上法令ニテ全條改正）

其ノ落第者ニ在テハ軍醫生ハ看護長適任證書、藥劑生ハ調劑手適任證書、獸醫生ハ蹄鐵工下長適任證書、軍吏生ハ軍吏部下士適任證書ヲ付與シ豫備役ニ編入ス

二等書記ノ任官及適任證書ノ付與ハ軍醫生、藥劑生ニ在テハ軍醫部長ヨリ陸軍省醫務局長、獸醫生ニ在テハ當該隊長ヨリ師團長、軍吏生ニ在テハ監督部長ヨリ陸軍省經理局長ノ認可ヲ受クルモノトス

第二十六條 師團長及師團監督部長ハ毎一年志願兵ノ終末試験格例ヲ定メ豫メ之ヲ告達ス

第二十七條 終末試験委員ハ聯隊長、監督部長之ヲ編成ス

軍醫生、藥劑生、獸醫生ノ終末試験委員ハ師團長之ヲ編成シ軍醫部長及獸醫部長ノ指揮ニ屬ス(同上法令ヲ以テ本條改正)

第二十八條 第十八條及第二十二條ニ依リ上等兵ト爲シタル者ハ成ルヘク兵卒ト居室ヲ異ニシ將校ト共ニ會食セシムヘシ

第二十九條 一年志願兵ノ服制ハ別ニ定ムルモノノ外其階級ニ應シ各兵科ノ下士兵卒ト同一トス但軍醫生、藥劑生、獸醫生ハ該隊曹長軍吏生ニシテ三等書記ノ階級ニ進メタル者ハ該隊二等軍曹ト同一トス

軍醫生藥劑生獸醫生軍吏生ハ之ヲ命シタル日ヨリ襟ニ特別ノ徽章ヲ附ス(明治二十七年勅令第八號ヲ以テ本條改正)

第三十條 戰時若クハ事變ニ際シテハ一年志願兵ト雖モ通常ノ現役勤務ニ服セシムルコトアルヘシ(明治二十八年勅令第三十四號ヲ以テ本條改正)

第三十一條 一年志願兵入隊前禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ死亡シタルトキハ其親族ヨリ師團長ニ届出ヘシ(明治二十九年勅令第九十一號ヲ以テ本條改正)

第三十二條 一年志願兵認定證書ヲ所持スル者疾病其他止ヲ得サル事故ニ由リ十二月一日ニ入隊シ難キトキハ證明書類ヲ添ヘ入隊延期ヲ師團

長ニ出願スヘシ(同上)

前項ノ事故アル者十二月三十一日ヲ過ルモ入隊シ難シト認ムルトキハ師團長之ヲ次年廻シト爲シ師團長及本人ニ通知スヘシ

第三十三條 一年志願兵入隊シタルトキ若クハ次年廻シト爲リタルトキハ本籍所管聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ニ届出ヘシ(同上)

第三十四條 一年志願兵認定證書ヲ得タル者正當ノ事由ナクシテ其年十二月一日ニ入隊セサルトキハ一年志願兵タルノ資格ヲ失フモノトス

第三十五條 一年志願兵中左ノ事項ニ當ル者ハ現役ヲ免シ第二國民兵役ニ服セシム但傷痕若クハ疾病ニ由リ永久服役ニ堪ヘ難キ者ハ兵役ヲ免ス(同上法令ニテ全條改正)

- 一 傷痕若クハ疾病ニ由リ服役ニ堪ヘ難キトキ
- 二 本人ヲ要スルニ非サレハ家族自活シ能ハサル事故ヲ生シ其ノ家族ヨリ免役ヲ願出タルトキ

第三十六條 前條ノ家族自活シ能ハサル事故ニ由リ免役ヲ願出テントスル者ハ其ノ願書ニ近隣ノ戸主二名ノ保證書ヲ添ヘ島司郡市長ヲ經テ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ差出スヘシ但町村ニ於テハ町村長(町村制ヲ施行セサル地方ニ在テハ戸長又ハ之ニ準スヘキ者)ノ奥書證印

ヲ受クヘキモノトス(同上法令ニテ本條追加)
島司郡市長ハ其ノ事實ヲ審覈シ狀況書ヲ作り願書ト共ニ聯隊區司令官
又ハ警備隊司令官ニ送付シ同官ハ之ニ意見ヲ附シ願書ト共ニ聯隊長ニ
移スヘシ

第三十七條 第三十五條ニ當ル者アルトキハ聯隊長ハ師團長ノ認可ヲ受
ケ之ヲ處分ス(同上且以下順次繰下)

附則

第三十八條 明治二十七年以前一年志願兵トシテ服役シタル者ノ豫備役
後備役年期ハ第七條ニ依ル但明治二十四年以前一年志願兵トシテ服役
シタル者ノ後備役年期ハ豫備役年期ヲ通シテ十一箇年四箇月トス(明
治二十八年勅令第三十四號ヲ以テ本條改正)

●試補及判任官見習並非職休職ノ官吏一年志願兵服役方

明治二十三年三月
勅令第六十二號

朕試補及判任官見習並非職休職ノ官吏ニシテ一年志願兵トナル者服役ノ
件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
試補及判任官見習並非職休職ノ官吏ニシテ一年志願兵トナル者ハ其儘服
役スルコトヲ得

但有給者ニハ俸給ヲ給セス試補及判任官見習ニ在テハ服役時日ヲ實務
練習ノ期限ニ算入セス

●陸軍一年志願兵條例施行細則 明治二十六年七月
陸軍省令第十號

陸軍一年志願兵條例施行細則左ノ通改正ス

陸軍一年志願兵施行條例細則

第一條 條例第二條ノ所團隊ヨリ給スル被服裝具ノ現品左ノ如シ

- 一 第一種帽前立共
- 二 第二種帽
- 三 第一種衣袴
- 四 第二種衣袴
- 五 夏衣袴二著
- 六 日覆
- 七 外套
- 八 脚絆
- 九 第一種手牒
- 十 背囊
- 十一 被服手入具

○陸軍一年志願兵條例施行細則

十二 飯盒

十三 水筒

十四 寢具

第二條 糧食費自辨ノ者ハ行軍若クハ野外演習中ノ糧食費亦自辨トス

第三條 條例第八條ノ願書ハ附錄第一第二樣式ニ承認書ハ第三樣式ニ證明書ハ第四樣式ニ依リ之ヲ作ル可シ

第四條 條例第十三條ノ身體檢査終レハ軍醫ハ其成績ヲ陸軍將校生徒試驗臨時委員ニ通知シ條例第十條ノ人名書ニ不參其他ノ事由ヲ記註シ體格檢査表ヲ添ヘ師團長ニ報告シ師團長ハ其ノ身體檢査ニ不合格ノ者(二十歲未滿ノ者ヲ除ク)ノ體格檢査表ヲ本籍地ノ聯隊區徵兵署ニ送付スヘシ(明治二十九年陸軍省令第十二號ヲ以テ本條改正)

第五條 條例第十四條第二項ニ依リ身體檢査ヲ爲ス可キ者ノ人名ハ師團長ヨリ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ達シ同官之ヲ島司郡市長ニ傳達シ島司郡市長ハ檢査ノ時日及場所ヲ告示ス可シ(同上法令ニテ全條改正)

事故アリテ指定ノ徵兵署ニ出シ難キ者ハ願ニ依リ他ノ徵兵署ニ於テ身體檢査ヲ受クルコトヲ得

前項ノ出願者アルトキハ甲乙聯隊區司令官又ハ警備隊司令官協議ノ上檢査時日及場所ヲ定メ本人ニ達ス可シ

第六條 前條ノ身體檢査終ル後聯隊區司令官又ハ警備隊司令官其人名書ニ不參其他ノ事由ヲ記註シ體格檢査表ヲ添ヘ師團長ニ報告スヘシ(同上)

師團長ハ其身體檢査ニ不合格ノ者(二十歲未滿ノ者ヲ除ク)ノ體格檢査表ヲ本籍地ノ聯隊區徵兵官ニ送付ス可シ

第七條 第四條及第六條ノ身體檢査不合格ノ者ハ聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官徵集免除又ハ兵役免除ノ處分ヲ爲シ其一時徵集ニ適セサル者ハ徵集延期ノ處分ヲ爲スヘシ(同上法令ニテ本條改正)

第八條 師團長ハ條例第十三條及第十四條第二項ノ檢査ニ不參セル者並學術試驗ニ落第セシ者(二十歲未滿ノ者ヲ除ク)ヲ本籍地ノ聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ニ通知ス可シ(同上)

第九條 條例第十四條ノ一年志願兵認定證書ハ附錄第二樣式ニ官費服役證書ハ第六樣式ニ依リ作ル可シ但條例第六條第二項ニ依リ次年廻シト爲ス可キ者ハ官費服役證書ノ餘白ニ其旨ヲ記載スヘシ(明治二十八年陸軍省令第五號ヲ以テ本條改正)

第十條 師團長ハ同兵種ニ隊以上アル衛戍地ニ服役セントスル者ノ隊籍ヲ定ムルニハ成ル可ク之ヲ各隊ニ平均ス可シ(明治二十九年陸軍省令第十二號ヲ以テ本條改正)

官費服役者中醫學、藥學、理財學若クハ商業學卒業證書ヲ所持スル者ハ步兵隊(理財學、商業學卒業證書ヲ所持スル者ハ師團司令部所在地歩兵隊ニ限ル)ニ獸醫學卒業證書ヲ所持スル者ハ騎兵隊、野戰砲兵隊又ハ輜重兵隊ニ配付ス可シ

第十一條 師團長ハ一年志願兵認定證書ヲ付與シタル者ハ自費服役、官費服役、次年廻シ等ニ區別シ其人名書ニ體格檢査表ヲ添ヘ當該聯隊長(聯隊ヲ爲ササル隊ニ在テハ該隊長以下同シ)ニ下付スヘシ(同上)

第十二條 聯隊長ハ前條ノ一年志願兵ニシテ十二月一日ニ入隊セサル者アルトキハ其人名ヲ師團長ニ報告ス可シ但二十歳以上ノ者ニ在テハ尙本籍地ノ聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ニ通知スヘシ(同上)

第十三條 條例第三十一條第三十二條第二項第三十四條及入隊前第三十五條ニ當ル者アルトキハ師團長之ヲ聯隊長ニ達スヘシ但二十歳以上ノ者ニ在テハ尙本籍地ノ聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ニ通知スヘシ(同上法令ニテ本條改正)

前項ノ者官費服役者ナルトキハ條例第六條第二項ニ依リ次年廻シト爲シタル者ヲ繰上ケ十二月三十一日迄ニ入隊セシムルコトヲ得(明治二十八年陸軍省令第五號ヲ以テ本項改正)

第十四條 一年志願兵徵募事務終結後師團長ハ附錄第七樣式ニ依リ一年志願兵人員表ヲ作り翌年一月十五日迄ニ陸軍大臣ニ報告ス可シ

第十五條 條例第二十一條ニ依リ軍醫生、藥劑生、獸醫生及軍吏生ヲ志願スル者アルトキハ聯隊長其願書及卒業證書寫ヲ師團監督部長若クハ軍醫部長若クハ獸醫部長ニ送附シ監督部長、軍醫部長、獸醫部長ヨリ師團長ノ認可ヲ受ケ後半年初ニ於テ聯隊長ヲ經由シ之ヲ命スルモノトス(明治二十九年陸軍省令第十二號ヲ以テ條中改正)

藥劑生ハ衛戍病院ニ軍吏生ハ師團監督部ニ派遣シ勤務ヲ練習セシムルモノトス

第十六條 軍醫生、藥劑生、軍吏生ト爲シタル者ハ貸與セシ兵器ヲ返納セシメ更ニ徒歩刀ヲ給ス獸醫生ト爲シタル者ニ軍刀或ハ砲兵刀ヲ除クノ外兵器ヲ返納セシム

第十七條 師團長ハ一年志願兵終末試驗終リタルトキ附錄第八樣式ニ依リ成績表ヲ作り陸軍大臣ニ報告ス可シ

第十八條 一年志願兵終末試驗及第證書ハ附錄第九様式ニ依リ各部各隊ニ於テ製ス可シ

第十九條 一年志願兵入隊前轉住其他止テ得サル事故ニ依リ隊籍變更テ願出ル者アルトキハ師團長之ヲ許可スルコトヲ得但所轄對ニ係ルモノハ豫メ當該師團長ト協議スルヲ要ス(同上)

第二十條 一年志願兵現役ヲ免シ若クハ死亡シタルトキハ實費ヲ精算シ殘金アレハ之ヲ還附ス

(様式ハ之ヲ略ス)

●陸軍志願兵身體檢查規則 明治二十五年三月 陸軍省第二十三號

明治二十二年三月陸軍省第二十九號陸軍志願兵身體檢查規則左ノ通改正ス

第一條 陸軍志願兵(徵兵事務條例施行細則第八條ニ當ル者ヲ除ク)身體檢查ハ其身材ノ合格ト不合格トヲ判別スルモノトス而シテ此檢查ハ學術上諸種ノ方法ヲ施スコトヲ得

此規則ハ陸軍士官候補生並陸軍諸生徒志願者ノ身體檢查ニ適用ス

第二條 志願者一日ノ檢查人員ハ醫官一名ニ付概テ四十名トス

第三條 志願者ノ身長ヲ定ムルコト左ノ如シ但別ニ規定スル所アルモノ

ハ此限ニ非ス

滿十五歲以上

四尺七寸以上

滿十六歲以上

四尺八寸以上

滿十七歲以上

四尺九寸以上

滿十八歲以上

五尺以上

第四條 體格ヲ區別スルコト左ノ如シ

一 合格徵兵檢查規則第三條ノ甲種乙種ニ該當スルモノ(身長ノ制限ハ本條第三條ニ依ル但屯田兵志願者ニ在テハ甲種乙種等ノ位ヲ附スヘシ)明治二十七年陸軍省第十八號ヲ以テ追加スル所アリタリ

二 不合格前項ニ該當セサルモノ

第五條 近視ノモノハ合格トナスコトヲ得ス但各兵科士官候補生志願者

ニ在テハ二十尺ノ距離ニ於テ眼鏡ヲ用ヒス斯涅兒連氏視力表ノ三十號

ヲ視得ルモノ一年志願兵志願者ニ在テハ同百號ヲ視得ルモノヲ探ルコ

トヲ得衛生部士官候補生志願者ニ在テハ最高度ノモノヲ探ルモ防ナシ

第六條 一年志願兵志願者ニ限リ第四條ノ不合格中(二十歲未滿ノ者ヲ

除ク)徵兵檢查規則第三條ノ丙種若クハ丁種若クハ戊種ニ當ルヘキモノナルコトヲ區別スヘシ

第七條 醫官ハ檢査結了後一週日以内ニ體格表(第一式)ヲ調製シテ所管軍醫長ニ報告シ軍醫長ハ之ヲ陸軍省醫務局長ニ呈スヘシ

第八條 士官候補生並諸生徒志願者ノ體格檢査表(第一式)ハ檢査結了後士官候補生並諸生徒ノ屬スヘキ部隊ニ(各兵科士官候補生及幼年學校生徒志願者ノ檢査表ハ師團司令部、教導團生徒志願者ノ檢査表ハ大隊區司令部ヲ經テ)送附スヘシ

(第一式第二式共之ヲ畧ス)

○徵兵事務條例補則 三十一年三月十二日 勅令第四十一號

第一條 徵兵事務條例中北海道及沖繩縣並小笠原島ニ實施シ難キ諸件ハ當分本則ニ依ル

第二條 北海道廳支廳ノ管轄區域及沖繩縣ノ區並小笠原島ハ各之ヲ徵募區ト爲ス

第三條 聯隊區徵兵參事員又ハ警備隊區徵兵參事員ハ一徵募區ニ四名トシ地方長官之ヲ命ス其ノ任期等ハ地方長官ノ定ムル所ニ依ル

第四條 沖繩縣及小笠原島ニ在テ徵兵參事員ハ徵兵事務條例第十一條ニ掲グル外明治三十年勅令第二百五十八號第二項若ハ第三項ノ徵集免除又ハ徵集猶豫ニ關スル事件ヲ審議シ意見ヲ徵兵官ニ具申スルヲ任トス

第五條 明治三十年勅令第二百五十八號第二項ニ當ル者ハ從來ノ經歷及

産業ノ現況ヲ詳記シ三月一日迄三月一日以後事故ノ生シタル者ハ其都度以下同シニ警備隊區徵兵官

ニ願出ヘシ

明治三十年勅令第二百五十八號第三項ニ當ル者ハ其ノ移住ノ年月日及生業ノ狀況ヲ詳記シ毎年三月一日迄ニ聯隊區徵兵官ニ願出ヘシ

本條ノ願書ニハ町村長ニ準スヘキ者ノ與書証印ヲ受クヘキモノトス

第六條 壯丁若ハ家族ニ於テ明治三十年勅令第二百五十八號第二項及第三項ニ依ル警備隊區徵兵官又ハ聯隊區徵兵官ノ裁決ニ不服アルトキハ徵兵事務條例第五章ノ規程ニ依リ訴願スルコトヲ得

第七條 沖繩縣ニ在テ島司郡區長ハ明治三十年勅令第二百五十八號第二項ニ依ル徵集免除ニ關スル書類ノ調査及事實ノ審覈ニ任ス

第八條 北海道及沖繩縣ニ在テハ師管徵兵官ノ認可ヲ得某徵募區ノ徵兵署ヲ他ノ徵募區内ニ設クルコトヲ得

第九條 沖繩警備隊區ノ壯丁ハ之ヲ第六師團第十二師團及海軍諸兵ニ徵集ス

沖繩警備隊區ニ於ケル現役兵及補充兵ノ要員ヲ其ノ壯丁ヲ以テ充スコト能ハサルトキハ其ノ不足員ハ第六師管及第十二師管若ハ其ノ一ヨリ補充ス

第十條 沖繩警備隊區ニ於ケル現役兵及補充兵ノ配賦ハ壯丁ノ總員ヨリ明治三十年勅令第二百五十八號第二項ニ當ルヘキ豫定ノ人員ヲ除算シタルモノヲ以テ率トス

第十一條 沖繩警備隊區ヨリ徵集ノ現役兵入營ノトキハ地方吏員之ヲ引率シ當該隊長又ハ海兵團長ニ交付セシム

第十二條 徵兵事務條例中警備隊司令官警備隊司令部附軍醫ノ職務ハ沖繩警備隊區ニ在テハ警備隊區司令官警備隊區司令部附軍醫、市長市書記ノ職務ハ沖繩縣ニ在テハ區長區書記郡市長郡市書記ノ職務ハ北海道ニ在テハ北海道廳支廳長同支廳ノ屬、町村長ノ職務ハ沖繩縣及小笠原島ニ在テハ町村長ニ準スヘキ者之ヲ行フ

第十三條 北海道廳紗那支廳管下及小笠原島ニ於ケル聯隊區徵兵官タル聯隊區司令官ノ職務ハ聯隊區副官若ハ他ノ將校ヲシテ臨時之ヲ行ハシムルコトヲ得

北海道廳紗那支廳管下及小笠原島ニ於ケル徵兵事務執行ノ際ハ徵兵事

務條例第十四條ノ軍醫ノ外仍軍醫一名ヲ以テ聯隊區徵兵醫官ト爲スコトヲ得

附則

第十四條 本則中警備隊區ニ係ル事項ハ明治三十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十五條 第五條第一項及第二項ノ願出期日ハ明治三十一年ニ限り四月二十日迄トス

●徵發令

明治十五年八月十二日
布告第四十二號

第一條 徵發令ハ戰時若クハ事變ニ際シ陸軍或ハ海軍ノ全部又ハ一部ヲ動カスニ方リ其所要ノ軍需ヲ地方ノ人民ニ賦課シテ徵發スルノ法トス但平時ト雖モ演習及ヒ行軍ノ際ハ本條ニ準ス

第二條 徵發ハ陸軍若クハ海軍官憲ノ徵發書ヲ以テ之ヲ行フ

第三條 左ニ列記スル官憲ハ徵發書ヲ出スノ權ヲ有ス
一 陸軍卿海軍卿鎮臺司令官及ヒ鎮守府長官
二 陸軍ニ於テハ特命司令官軍團長旅團長分遣隊長若クハ演習及ヒ行軍ノ軍隊長
三 海軍ニ於テハ特命司令官艦隊司令長官艦隊司令官分遣隊長若クハ

操練及航海ノ艦隊司令官ハ艦長

第四條

徴發ス可キモノ、種類ニ依リ徴發區（前社モ之ニ準ス）之ヲ定ムルコト左ノ如シ

一 第十二條第一項ハ

府縣

二 第十二條第二項及ヒ第三項ハ

郡區

三 第十二條第四項以下各項及第十三條各項ハ

町村
會社

四 船舶會社所有ノ船舶及鐵道會社所有ノ瀛車ハ

第五條 徴發ス可キモノハ徴發區内ニ現在スルモノニ限ル

第六條 徴發書ハ徴發區ニ從ヒ府知事縣令郡區長戶長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ニ付ス可シ

第七條 徴發書ヲ受ケタル府知事縣令郡區長戶長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ハ時期ヲ誤ルコトナク其供給ヲ完全セシムルノ責アルモノトス

第八條 各徴發區ニ於テハ臨時徴發ニ應ス可キ便宜ノ方法ヲ豫定ス可キモノトス

第九條 徴發ヲ課セラレタルモノハ時期ニ違フコトナク之ヲ供給スルノ義務アルモノト若スシ其時刻ニ違フトキハ府知事縣令郡區長戶長他ノ

方法ヲ以テ調進シ爲メニ爲シタル費用ハ本人ヲシテ之ヲ辨償セシム但

會社ニ係ルモノハ陸海軍官憲直ニ其處分ヲ爲ス可シ

第十條 徴發ヲ課セラレタルモノノ商用其他ノ事故ヲ以テ供給ヲ拒ミ又ハ供給ス可キモノヲ藏匿シタルトキハ直ニ之ヲ使用スルコトヲ得

第十一條 供給ヲ受ケタル陸海軍官憲ハ其受領證書ヲ府知事縣令郡區長戶長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ニ付ス可シ

第十二條 徴發ス可キモノ左ノ如シ

- 一 米麥秣藭鹽味噌醬油漬物梅干及薪炭
- 二 乘馬馱馬駕馬車輛其他運搬ニ供スル獸類及器具
- 三 人夫
- 四 宿舍廐圍及倉庫
- 五 飲水石炭
- 六 船舶
- 七 鐵道瀛車
- 八 演習ニ要スル地所
- 九 演習ニ要スル材料器具

第十三條 戰時若クハ事變ニ際シテハ第十二條ノ諸項ニ掲クルモノ、外

徴發令

六十三

徵發ス可キモノ左ノ如シ

但平時ノ演習及行軍ニハ徵發スルコトヲ得ス

- 一 造船所工作所及軍事ノ工作ニ要スル材料器具
- 二 職工礦夫洗濯人ノ類
- 三 被服裝具草鞋兵器彈藥船具藥劑治療器械及綑帶具
- 四 水車搗春ノ類
- 五 病院

第十四條 第十二條第二項中徵發ノ免除ヲ受ク可キモノ左ノ如シ

- 一 皇族所用ノ車馬
- 二 外國公使館并ニ領事館ニ屬スル車馬
- 三 乘馬本文タル職務ニ要スル馬匹
- 四 郵便用ノ車馬
- 五 公認セラレタル種牛種馬

第十五條 第十二條第四項中徵發ノ免除ヲ受ク可キモノ左ノ如シ

- 一 公務ニ屬スル麻署
- 二 皇族ノ邸宅
- 三 外國公使館領事館及其所屬館

四 鐵道電信郵便用ノ建造物

五 陸海軍將校並ニ同等官現住ノ家屋

六 博物館書籍館

七 病院盲啞院棄兒院

八 學校但臨戰台圍地境內ニ在リテハ此限ニアラス

九 製造場内機械室

第十六條 第十二條第二項ニ掲クルモノ、使用ハ其原用ヲ轉シテ他用ニ

供スルヲ許サス但戰時若クハ事變ニ際シテハ此限ニアラス

第十七條 第十二條第二項ニ掲クルモノハ其差出場所ヨリ六里未滿ノ地

ニ於テ使用スルヲ例トシ一日ノ使用ハ六里ニ越ユルコトヲ得ス但戰時

若クハ事變ニ際シテハ六里以外ノ地ニ使用スルコトヲ得

第十八條 第十二條第四項ニ掲クルモノハ合圍地境內ニ除クノ外居住者

ノ起臥及營業ニ必要ナル場所ヲ徵用スルコトヲ得ス但營業ニ必要ナル

モ旅店等ハ此限ニアラス

第十九條 宿舍ノ廣狹ハ其地家屋ノ數ト隊伍ノ編制トニ從ヒ一定シ難シ

故ニ臨時適宜ニ之ヲ定ム

第二十條 第十二條第四項ニ掲クルモノハ陸軍若クハ海軍ノ都合ニ依リ

特ニ其場所ヲ指定スルコトアル可シ

第二十一條 宿舍ヲ定メタルノ後ハ區町村ノ便宜ヲ以テ他ニ轉移セシムルコトヲ許サズ廐園倉庫亦同シ

第二十二條 宿舍廐園ノ徴發ヲ課セラレタルモノハ併セテ人馬ノ食飼ヲ供給ス可シ但駐軍二日以上ニ至ルトキハ第四日ヨリ食飼ハ陸軍若クハ海軍ノ自辨トス

第二十三條 第十二條第六項ノ徴發ニ係リ其乘載人馬ノ食飼ヲ要スルモノハ併セテ供給セシム

第二十四條 第十二條第六項及ヒ第七項ニ掲クルモノハ戰時若クハ事變ニ際シ借切トシテ之ヲ徵用スルコトアル可シ

第二十五條 第十二條第二項第六項及第七項ニ掲クルモノハ其操業者ヲ併セテ徵用スルヲ例トス

但時宜ニ依リ各個ニ分別シテ徵用スルコトヲ得

第二十六條 第十二條第六項ニ掲クル者ヲ操業者ト各個ニ分別シテ徵用スルハ戰時若クハ事變ノ際ニ限ル但船橋及舢舨ニ充ツルモノハ此限ニ在ラス

第二十七條 第十二條第七項ニ屬スル瀛車其屬具鐵道建築所用ノ材料器

具及操業者ヲ各個ニ分別シテ徵用スルハ戰時若クハ事變ノ際ニ限ル

第二十八條 第十三條第五項ニ掲クルモノハ陸海軍病院ノ補助トシテ徵用スルヲ例トス但合圍地境内ニ在リテハ全ク明渡サシムルコトヲ得

第二十九條 徴發ニ係ルモノハ第三十一條乃至第五十條ニ定ムル所ノ方法ニ從ヒ賠償ス

第三十條 徴發物件ヲ差出場所ニ輸送スルハ徴發區ノ義務トシ其輸送賃ヲ支辨セス

第三十一條 賠償ハ平時ト戰時トヲ論セス其時々之ヲ支辨スルモノトス但戰時若クハ事變ニ際シ紛擾ノ爲メ延滞シテ三ヶ月ヲ越ユルトキハ年六分ノ割ヲ以テ其利子ヲ付ス

第三十二條 賠償ハ徴發區毎ニ一括シテ府知事縣令郡區長戸長停車場長船舶會社ノ店長ヨリ之ヲ請求ス可シ

第三十三條 徴發物件ノ其使用ノ爲メニ毀損シタルモノハ賠償ス其金額ニ就キ供給者、熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス

其毀損ハ持主若クハ操業者ヨリ速ニ其地ニ在ル陸海軍官憲若クハ戸長ニ届出可シ其届出ハ徵用濟引渡ノ後左ノ期限ヲ越ヘ又ハ期限内持主若クハ操業者ニ於テ使用セシトキハ無効トス

一 西洋 船舶

七日間

二 地所

評價委員ノ告示スル時日間

三 其他ノ物件

一日間

第三十四條 第十二條第一項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其地市場ノ前三ケ年間ノ平均價ヲ取り之ヲ定ム其平均價ノ取り難キモノハ評價委員ノ評定ニ任ス

第三十五條 第十二條第二項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其郡區平常ノ賃價トス但物件ト操業者ト各個ニ分別シテ徵用シタル時ハ其郡區平常ノ賃價及ヒ借賃ニ准シテ賠償ス

第三十六條 第十二條第二項ノ徵發ニ係ルモノヲ宿泊セシメ連日使用スルトキ及ヒ六里以外ノ地ニ於テ使用スルトキハ第三十二條ノ例ニ拘ハラス賃價ノ半額ヲ前給シ宿泊食飼ヲ官給ス但此場合ニ於テハ賃價ノ四分ノ一ヲ減ズ

第三十七條 第十二條第二項及ヒ第六項ニ掲クルモノヲ買上クルトキハ勿論其他使用ノ都合ニ依リ價格ノ豫定ヲ要スルトキハ其金額ヲ定メ置ク可シ其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス

第三十八條 第十二條第三項ノ徵發ニ係ルモノハ第三十五條ノ例ニ準ジテ定ム

第三十九條 第十二條第四項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ陸海軍省ニ於テ之ヲ定ム

第四十條 第十二條第五項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其地平常ノ代價トス第四十一條 第十二條第六項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ別ニ命令書アルモノ、外左ノ區別ニ從フ

一 出船ノ定時アリテ定路ヲ航スルモノハ平常ノ定賃

二 定路ヲ航スルモ特ニ出船時日ヲ命シタルトキハ其乗載量五分ノ三ニ滿チタル以上ハ前項ノ例ニ准ス若シ之ニ滿タサルモ五分ノ三ニ値ル平常ノ定賃

三 出船及ヒ航路ノ定メナクシテ定賃ナキモノ又ハ運送ヲ以テ營業トセサルモノ等其賠償金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定額

第四十二條 第二十四條ノ場合ニ於ケル賠償金額ハ操業者平常ノ給料船船實費及ヒ船舶ノ損料トス其損料ハ一ヶ月ニ各船舶買入代價六十四分ノ一トス

○徵發令

第七十

- 第四十三條 第二十六條ノ場合ニ於ケル賠償金額ハ操業者ニハ平常ノ給料船舶ニハ第四十二條ノ損料トス但船橋及ヒ舢舨ニ充テタルモノ、賠償金額ハ第四十一條第三項ニ准ス
- 第四十四條 第十二條第七項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ別ニ命令書アルモノ、外平常ノ定賃トス
- 第四十五條 第二十七條ノ場合ニ於ケル賠償金額ハ操業者ニハ平常ノ給料物件ニハ其地平常ノ代價若クハ損料トス其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス
- 第四十六條 第十二條第八項ノ徵發ニ係ルモノハ其植物ニ損害ヲ加ヘ又ハ地形ヲ變更シタルトキニ限り賠償ス此金額ハ評價委員ノ評定ニ任ス
- 第四十七條 第十二條第九項ノ徵發ニ係ルモノハ其地平常ノ代價若クハ相當ノ損料ヲ賠償ス
- 第四十八條 第十三條第一項第三項及ヒ第四項ノ徵發ニ係ルモノハ其地平常ノ代價若クハ損料ヲ賠償ス其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セザルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス
- 第四十九條 第十三條第二項ノ徵發ニ係ルモノハ第三十五條ニ准シテ賠償シ第三十六條ヲ適用ス

- 第五十條 第十三條第五項ノ徵發ニ係ルモノハ通常患者ノ例ニ從ラテ賠償ス全ク明渡サシムルトキハ第三十九條ノ例ニ准ス
- 第五十一條 徵發ヲ拒ミ或ハ忌避シ或ハ漫リニ使役ヲ離レタルモノ及ヒ之ヲ教唆誘導シタルモノハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
- 第五十二條 徵發ノ命令ヲ受ケタル府知事縣令郡區長戶長停車場長船舶會社ノ店長其處置ヲ爲サ、ルモノハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ貳拾圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス
- 其懈怠ニ出ルモノハ貳拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第五十三條 徵發書ヲ出スノ權ヲ有スル官憲安ニ徵發書ヲ出シ又ハ其權ヲ有セサル官憲徵發書ヲ出シタルトキハ一年以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

●登録税法 明治二十九年三月 法律第二十七號

登録税法

- 第一條 登録税法ハ本法ノ定ムル所ニ依リ賦課徵收ス
- 第二條 地所、建物ノ登記ヲ請フ時ハ左ノ區別ニ從ヒ登録税ヲ納ム可シ

○登録税法

一七十一

○登録稅法

一七二

- 二 家督相續人(戸主ノ死亡、失踪、
離縁、跡相續人共)
但シ相續ノ日ヨリ六十日ヲ經過シタル時ハ時價相當價格千分ノ十トス
時價相當價格千分ノ五
 - 三 遺産相續人
時價相當價格千分ノ十
 - 四 贈與又ハ遺贈ヲ受クル者
時價相當價格千分ノ二十
 - 五 質入人又ハ書入人
契約金額千分ノ五
 - 六 強制競賣ノ申立人
價格千分ノ五
 - 七 強制管理ノ申立人又ハ假差押、假處分ノ申立人
價格千分ノ三
 - 八 登記事件ノ取消又ハ變更ヲ請フ者
每一件金十錢
 - 九 從來保有セル所有權ヲ明確ニスル爲登記ヲ請フ者
時價相當價格千分ノ二
- 六號及ビ七號ノ場合ニ於テ價格定マラサルモノハ時價相當價格ニ依ル
- 第三條 船舶ノ登記ヲ請フ時ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ム可シ
- 一 買受人
 - 二 家督相續人(戸主ノ死亡、失踪、
離縁、跡相續人共)
時價相當價格千分ノ二

但シ相續ノ日ヨリ六十日ヲ經過シタル時ハ時價相當價格千分ノ五トス

- 三 遺産相續人
時價相當價格千分ノ五
 - 四 贈與又ハ遺贈ヲ受クル者
時價相當價格千分ノ十
 - 五 質入人又ハ書入人
契約金額千分ノ五
 - 六 強制競賣ノ申立人
價格千分ノ五
 - 七 假差押、假處分ノ申立人
價格千分ノ三
 - 八 登記事件ノ取消又ハ變更ヲ請フ者
每一件金十錢
 - 九 從來保有スル所有權ヲ明確ニスル爲メ登記ヲ請フ者
地價相當價格千分ノ一
- 六號及ビ七號ノ場合ニ於テ價格ノ定マラザルモノハ時價相當價格ニ依ル

第四條 船舶ノ登記ヲ請フ者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ム可シ

- 一 新規登録(十五噸未満の船舶
十五噸以上の船舶)
金 五拾錢
每拾噸金 五拾錢
- 二 轉籍(十五噸未満の船舶
十五噸以上の船舶)
金 拾錢
每拾噸金 拾錢

○登録稅法

一七三

○登録税法

七十四

- 三 除籍 十五噸未満の船舶
十五噸以上の船舶 金五 錢 每一件金十錢
- 四 登記事項ノ變更 噸未滿ノ端數ハ十噸トシテ計算ス
- 第五條 土地臺帳ニ左ノ事項ヲ登録スル時ハ土地所有者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ム可シ
 - 一 新規登録 地價千分ノ二十
 - 二 地價ノ設定(復舊トモ) 地價千分ノ十
 - 三 地價ノ修正 地價千分ノ十
 - 四 開墾 地價千分ノ十
 - 五 鐵下年期附與 地價千分ノ十
 - 六 地價据置年期附與 地價千分ノ十
 - 七 鐵下年期ノ繼年期附與 地價千分ノ十
 - 八 新開免租年期ノ繼年期附與 地價千分ノ十
 - 九 低價年期ノ附與 地價千分ノ十
 - 十 段別ノ増減 地價千分ノ五
 - 十一 分裂又ハ合併 地價千分ノ五

本條中地價未設定ノ土地ハ近傍類地々價ノ比準ニ依ル

第六條 左ノ事項ニ付キ登記ヲ受クル商事會社ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ム可シ

- 一 合名會社、合資會社設立 資本金額千分ノ二
 - 二 合名會社、合資會社資本増加 増加資本金額千分ノ三
 - 三 合名會社、合資會社支店設置 會社資本金額萬分ノ三
 - 四 株式會社設立 設立初度ノ拂込資本金額千分ノ三
 - 五 株式會社設立後ノ資本金拂込 每拂込金額千分ノ三
 - 六 株式會社支店設置 現在拂込資本金額萬分ノ三
 - 七 登記事項ノ變更(資本金の増加及追
加拂込登記を除く)追加 每一件金三圓
 - 八 解散 每一件金壹圓
- 第七條 左ノ事項ニ附キ辨護士名簿ニ登録ヲ請フ者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ム可シ
- 一 新規登録 金三十圓
 - 二 登録替 金拾圓
 - 三 取消ノ請求 金壹圓
- 第八條 左ノ事項ヲ官簿ニ登録スル時ハ醫師、藥劑師、獸醫、蹄鐵工

○登録税法

七十五

左ノ區別ニ從ヒ登録税ヲ納ム可シ

- 一 新規登録
 - 醫師 金三十圓
 - 藥劑師 金拾二圓
 - 獸醫 金拾二圓
 - 蹄鐵工 金五圓
 - 假開業醫師 金五圓
 - 假免許獸醫 金三圓

二 登録事項ノ變更

每一件金五拾錢

第九條 左ノ事項ヲ官簿ニ登録スル時ハ海員ハ左ノ區別ニ從ヒ登録税ヲ納ム可シ

- 一 新規登録
 - 甲種船長 金拾五圓
 - 甲種一等運轉手 金拾圓
 - 甲種二等運轉手 金六圓
 - 甲種一等機關手 金拾五圓
 - 甲種二等機關手 金拾圓

- 乙種船長 金拾圓
- 乙種一等運轉手 金六圓
- 乙種二等運轉手 金四圓
- 乙種一等機關手 金拾圓
- 乙種二等機關手 金六圓
- 小形船機關手 金四圓
- 水先人 金二拾圓

二 登録事項ノ變更

每一件金五拾錢

第十條 版權ノ登録ヲ請フ者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録税ヲ納ム可シ

- 一 普通ノ文書圖書 一種毎ニ金五圓
- 二 冊號ヲ追ヒ順次出版スル文書圖書 一冊毎ニ金二圓五拾錢
- 三 雜誌類 一冊毎ニ金五拾錢
- 四 興行權ヲ併有スル脚本 一種毎ニ金五拾圓
- 五 興行權ヲ併有スル樂譜 一種毎ニ金二拾圓
- 六 寫眞 一版毎ニ金五圓

第十一條 特許ニ關シ登録ヲ受クル者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録税ヲ納ム可シ

- 一 新規登録
 - 五年ノ特許 金貳拾圓
 - 十年ノ特許 金三拾圓
 - 十五年ノ特許 金四拾圓
- 二 賣與、讓與又ハ共有 每一件金十圓
- 三 書入契約 每一件金五圓

第十二條 意匠ニ關シ登録ヲ受クル者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録税ヲ納ム可

一 新規登録

- 三年ノ専用 物品一類毎ニ金三圓
- 五年ノ専用 物品一類毎ニ金五圓
- 七年ノ専用 物品一類毎ニ金七圓
- 十年ノ専用 物品一類毎ニ金拾圓
- 二 賣與、讓與又ハ共有 物品一類毎ニ金貳圓
- 三 書入契約 物品一類毎ニ金壹圓

第十三條 商標ニ關シ登録ヲ受クル者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録税ヲ納ム可

一 新規登録用登録

二 賣與、讓與又ハ共有

第十四條 礦業ニ關シ左ノ事項ヲ官簿ニ登録スルトキハ記名簿ハ左ノ區別ニ從ヒ登録税ヲ納ム可

- 一 試掘 金五拾圓
- 二 採掘 金百圓
- 三 試掘増區及増減區ニ係ル訂正 金廿五圓
- 四 採掘増區及増減區ニ係ル訂正 金五拾圓
- 五 買受、讓受 金五拾圓
- 六 採掘權書入又ハ試掘延期 金拾五圓
- 七 減區ニ係ル訂正 金五圓
- 八 礦區ノ合併又ハ分割 金拾圓
- 九 廢業 金五圓

第十五條 (三十年三月公布ニテ刪除)

第十六條 國債證券ノ記名登録ヲ請フ者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録税ヲ納ム可

新規記名

額面金額千分ノ五

三 左ニ列記スルモノ

額面金額千分ノ一

記名變更
枚數變更
記名除却

第十七條 登録税ハ印紙ヲ以テ之ヲ納ム可シ但シ勅令ノ定ムル所ニ依リ現金ヲ以テ之ヲ徵收スルコトヲ得

第十八條 登録税ハ總テ金壹錢以上トス壹錢未滿ノ端數ハ壹錢トシテ之ヲ計算ス

第十九條 (三十年三月三十日公布ニテ刪除)
附則

第二十條 本法ハ明治廿九年四月一日ヨリ施行ス

第二十一條 現行法律命令ニ規定スル登記料又ハ手数料等ニシテ本法ニ規定スル登録税ト重複スルモノハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

● 登記法 明治十九年八月
法律第一號

第一章 總則

第一條 地所建物船舶ノ賣買讓與質入書入ヲ爲ス者ハ本法ニ從ヒ地所建物ハ其所在地船舶ハ其定繫場ノ登記所ニ登記ヲ請フ可シ

已ニ登記ヲ受ケタル地所建物船舶ニ變更ヲ生シ又ハ亡失破壊シタルハ其物件ノ所有者ヨリ登記ノ變更又ハ取消ヲ請フ可シ(廿年七月法律第一號ニテ本條改正ス)

農商務省特許局ニ於テ登録シタル特許意匠及商標ノ登記ハ本人ノ居住地ヲ管轄スル登記所ニ於テ之ヲ爲ス可シ(二十三年九月法律七十八號ニテ追加)

第二條 地所建物船舶ノ賣買讓與質入書入ノ登記ハ始審裁判所長之ヲ監督ス可シ

第三條 登記事務ハ治安裁判所ニ於テ之ヲ取扱フモノトス治安裁判所遠隔ノ地方ニ於テハ郡區役所其他司法大臣指定スル所ニ於テ之ヲ取扱ハシム

第四條 登記所ノ位置及其管轄ノ區域ハ司法大臣之ヲ定ム

第五條 登記官吏ハ登記事務取扱ニ付テハ始審裁判所長ノ監督ヲ受クルモノトス

第六條 登記簿ニ登記ヲ爲サ、ル地所建物船舶ノ賣買讓與質入書入ハ第

三者ニ對シ法律上其効ナキモノトス

第七條 地所建物船舶ノ賣買讓與質入書入ニ付キ登記スヘキ概目左ノ如

第一 地所ハ郡區町村名、字、番地、地目、反別若クハ坪數、地券面ノ價格

第二 建物ハ郡區町村名、字、番地、地目、構造ノ種類、建坪造作ノ有無

第三 西洋形船舶ハ汽船、風帆船、區別、船名、番號、登簿噸數、公稱馬力、汽機、及汽鐘ノ種類端船其他必用ノ所屬品

第四 日本形船舶ハ船名、番號、積石數、間數、端船其他必用ノ所屬品

第五 登記ノ理由

第六 金額

第七 質入書入ヘ其期限及利息

第八 所有者及登記ヲ受クル者ノ氏名住所

第九 一筆ノ地所又ハ一棟ノ建物ヲ區別ツ賣買讓與質入書入ヲ爲ストキハ其事實

第十 二番以後ノ書入ヲ爲シ又ハ書入ニ爲シタルモノヲ質入ト爲シ質入ニ爲シタルモノヲ書入ト爲ストキハ其事實

第十一 登記ノ年月日

第八條 登記ハ契約者雙方又ハ其代理人登記所ニ出頭シテ之ヲ請求ス可

シ 登記ヲ請フ者アルトキハ登記官吏ハ之ヲ受付帳ニ記載シ契約者ヨリ差出シタル書類ノ受取證ヲ下付ス可シ

登記ヲ爲スニハ登記ノ番號ヲ記シ登記官吏之ニ署名捺印ス可シ (二十三年九月法律七十八號ニテ改正ス)

第九條 地所建物船舶ニ關スル差押假差押差留假差留假處分及地所建物

ノ收益差押ニ付テハ裁判所ノ命令書(又ハ官廳ノ照會書) (二十三年九月法律七十八號ニテ追加)ニ依リ登記簿ニ其記入ヲ爲ス可シ

前項ノ記入ハ裁判所又ハ官廳ヨリ直ニ之ヲ求ムヘシ(同上)

第十條 登記ハ第一條第二項第十五條第二項第十六條第十七條及第十八條ヲ除クノ外契約者雙方ノ請求若クハ裁判所ノ命令アルトキニ非サレハ之ヲ爲シ又ハ變更シ又ハ取消スヲ得ス (二十年法律第一號ニテ改正ス)

第十一條 登記ノ謄本又ハ抜書又ハ一覽ヲ要スル者ハ其登記所ニ之ヲ請

求スルコトヲ得

第十二條 登記官吏ノ職務執行上ニ關シ不服アル者ハ管轄始審裁判所ニ抗告スルコトヲ得

第十三條 登記ニ關スル取扱ノ手續及登記簿ノ書式ハ司法大臣之ヲ定ム

第二章 賣買讓與

第十四條 地所建物船舶ノ賣買讓與ニ付キ登記ヲ請フトキハ契約者雙方出頭シテ其證書ヲ示シ其署名捺印シタル謄本一通ヲ差出ス可シ但第九條第十六條第十七條第十八條及第十九條ノ登記ニ付テハ證書ヲ示スノ限ニ在ラス

本條ノ謄本ハ登記簿ノ一部トシテ之ヲ添ヘ置ク可シ

證書ニ塗抹改竄アリテ利害關係人ノ承諾シタル證ナク登記官吏ノ求ニ應フ請求者ヨリ之ヲ説明スルヲ能ハザルトキハ登記官吏ハ登記ヲ拒絕スルヲ得(二十三年九月法律七十八号ニテ改正)

第十五條 家督相續ニ因リ地所、建物、船舶ノ登記ヲ請フトキハ雙方出頭シ其證書ヲ示ス可シ

死亡者失踪者若クハ離縁戸主ノ遺留シタル地所、建物、船舶ヲ相續スル者登記ヲ請フトキハ親屬(二名以上)又親屬ナキトキハ近隣ノ戸主二

名以上ノ連署ノ書面ヲ差出シ且證明書類アルモノハ之ヲ示ス可シ

第十六條 行政官廳ノ公賣處分ニ依リ地所建物船舶ノ所有權ヲ得タル者登記ヲ請フトキハ落札達書及其代金完納ノ證書ヲ示スヘシ(二十三年九月法律七十八号ニテ加フ)

本條ノ登記ハ其處分ヲ爲シタル官廳ヨリ直ニ之ヲ求ム可シ本項ノ規定ハ第十七條及第十九條ノ場合ニモ亦之ヲ準用ス

第十七條 官有ノ地所建物船舶ノ拂下又ハ無代價下渡ヲ受ケ登記ヲ請フトキハ其指令ノ本書若クハ達書ヲ示ス可シ

第十八條 民有ノ地所建物船舶ヲ官有ト爲シタルトキハ其官廳ハ第七條ノ概目ヲ示シ、登記ヲ求ム可シ

第十九條 裁判執行上、釋賣若クハ入札ニ因リ地所建物船舶ノ所有權ヲ得タル者アルトキハ裁判所ノ命令ニ依リ其登記ヲ爲ス可シ

第二十條 地所船舶ノ賣買讓與ニ因リ地券鑑札ノ下附若クハ書換ヲ請フ者ハ登記簿ノ證ヲ受クヘシ(二十年法律第一號ニテ改正セラレ)

第三章 質入書入

第二十一條 地所建物船舶ノ質入書入ニ付テモ亦第十四條ヲ準用ス(三十九年九月七十八號ニテ追加) 質借ノ爲メニ非スシテ義務ヲ果ス可キ保證ノ爲メ地所建物

船舶ヲ質入書入ト爲シ其登記ヲ請フ者モ亦前項ノ規定ニ依ル可シ

第二十二條 書入ノ地所建物船舶ヲ重テ書入ト爲ストキハ第二債主ニ於テ之ヲ了知セル旨ヲ申出其記入ヲ請フ可シ書入ト爲リタル地所ヲ質入ト爲シ又ハ質入ト爲リタル地所ニ書入ト爲ストキ亦シ同

第二十三條 質入書入契約ノ全部若クハ一部ノ解除又ハ變更ニ付テモ亦第十四條ヲ準用ス

第二十四條 同一ノ地所建物船舶ニ付キ數回ノ登記ヲ爲ストキハ其登記ヲ請フ日時ノ前後ニ因リ登記ノ順序ヲ定ムルモノトス

第四章 登記料及手数料

改正(登録税法抜萃)

- 第二條 地所建物ノ登記ヲ請フ時ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ム可シ
- 一 買受人 賣買代價千分ノ二十
 - 二 家督相續人(戸主ノ死亡、失踪、離縁、跡相續人共) 時價相當價格千分ノ五
 - 三 遺產相續人(戸主ノ死亡、失踪、離縁、跡相續人共) 時價相當價格千分ノ十
 - 四 贈與又ハ遺贈ヲ受クル者 時價相當價格千分ノ二十
 - 五 質入人又ハ書入人 契約金額千分ノ五
 - 六 強制競賣ノ申立人 價格千分ノ五

- 七 強制管理ノ申立人又ハ假差押、假處分ノ申立人 價格千分ノ三
- 八 登記事件ノ取消又ハ變更ヲ請フ者 每一件金拾錢
- 九 從來保有セル所有權ヲ明確ニスル爲登記ヲ請フ者 時價相當價格千分ノ二

六號及ヒ七號ノ場合ニ於テ價格定マラサルモノハ時價相當價格ニ依ル

第三條 船舶ノ登記ヲ請フ時ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ム可シ

- 一 買受人 賣買代價千分ノ十
- 二 家督相續人(戸主ノ死亡、失踪、離縁、跡相續人共) 時價相當價格千分ノ二
- 三 遺產相續人(戸主ノ死亡、失踪、離縁、跡相續人共) 時價相當價格千分ノ五
- 四 贈與又ハ遺贈ヲ受クル者、時價相當價格千分ノ十
- 五 質入人又ハ書入人 契約金額千分ノ五
- 六 強制競賣ノ申立人 價格千分ノ五
- 七 假差押假所分ノ申立人 價格千分ノ三
- 八 登記事件ノ取消又ハ變更ヲ請フ者 每一件金拾錢
- 九 從來保有セル所有權ヲ明確ニスル爲登記ヲ請フ者 時價相當價格千分ノ二

六號及ヒ七號ノ場合ニ於テ價格ノ定マラサル者ハ時價相當價格ニ依ル

第四條 船籍ノ登記ヲ請フ者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ム可シ

- 一 新規登録 十五噸未満ノ船舶 金五十錢
 - 二 轉籍 十五噸以上ノ船舶 金十錢
 - 三 除籍 十五噸以上ノ船舶 金十錢
 - 四 登記事項ノ變更 十五噸以上ノ船舶 金十錢
- 一號、二號及三號ノ場合ニ於テ十五噸以上ノ船舶ヲ登録スルトキ八十噸未満ノ端數ハ十噸トシテ計算ス

第二十六條 地所建物船舶讓與ノ登記ニ付テハ其讓渡人讓受人ニ於テ時價相當ノ價格ヲ定メ前條ニ掲クル金額ノ區別ニ從ヒ每一件ニ其讓受人ヨリ登記料ヲ納ム可シ

第二十七條 地所建物船舶質入書入ノ登記ニ付テハ其質入人書入人ハ第二十五條ニ掲クル金額ノ區別ニ從ヒ每一件ニ其登記料ノ半額ヲ納ム可シ但一件ニ付キ金五錢ヨリ下スコトヲ得ス

第二十八條 第二十一條第二項ノ登記ニ付テハ價格ヲ定メ前條ノ例ニ依リ其登記料ヲ納ム可シ

第九條第一項ノ記入ニ付テハ其價格ノ定マリタル物件ハ其價格又其價格ノ定マラサル物件ハ時價相當ノ價格ヲ定メ前條ノ例ニ依リ其登記料ヲ納ム可シ

第九條第十六條第十七條及第十九條ノ場合ニ於テ處分ヲ爲シタルヨリ登記ヲ求ムルニハ登記料ハ登記印紙ヲ請求書ニ貼用シテ其官廳ニ納メシメ官廳ヨリ之ヲ登記所ニ送付ス可シ(二十三年九月七十
八号ニテ追加)

第二十九條 第十五條ノ登記ニ關シ地所ニ付テハ一筆毎ニ金三錢ヲ納ムシメ建物船舶ニ付テハ時價相當ノ價格ヲ定メ第二十五條ニ掲グル金額ノ區別ニ從ヒ每一件ニ其登記料ノ五分一ヲ納メシム但一件ニ付金三錢ヨリ下スコトヲ得ス

第十五條第一項ノ場合ニ於テ家督相續ノ日ヨリ六十日ヲ經過シタルモノニ付テハ讓與ノ登記料ヲ納メシム(二十三年九月七
十八號ニテ追加)

第三十條 左ニ掲クル者ハ手数料トシテ金五錢ヲ納ム可シ

第一 登記事件ノ取消又ハ其變更ノ登記ヲ請フ者ハ每一件

第二 登記ノ謄本若クハ抜書ヲ請フ者ハ每一枚

第三 登記ノ一覽ヲ請フ者

第三十一條 左ニ掲クルモノハ登記料及手数料ヲ要セス

第一 官廳ノ請求ニ係ル登記

第二 公立ノ學校、病院、公園及養育院ニ係ル登記

第三 社寺、堂宇及墳墓地ニ係ル登記

第四 人民共有ノ用悪水路溜池敷、堤敷、井溝敷及公衆ノ用ニ供スル道路ニ係ル登記

第三十二條 登記所ニ於テ第二十五條第二十六條第二十八條第二項及第二十九條ニ從ヒ届出タル價格ヲ不相當ト認ムルトキハ其事件ニ關係ナキ者三名ヲ選ヒ之ヲ評價人ト爲シテ其價格ヲ評定セシム可シ

第三十三條 評價人ノ評定シタル價格届出ノ價格ヨリ増加スルトキハ其評價ニ關スル費用ハ其登記料ヲ納ムル者之ヲ負擔ス可シ若シ其價格届出ノ價格ト同價又ハ低下ナルトキハ該費用ハ其登記所ニ於テ之ヲ支辨ス可シ

第三十四條 評價人ニ選ハレタル者ハ正當ノ事由ナクシテ之ヲ辞スルコトヲ得ス

第三十五條 評價人ノ日當ハ登記所ノ見込ヲ以テ一日金二十錢ヨリ五十錢マテヲ給ス可シ

第五章 罰則

第三十六條 詐欺ノ所爲ヲ以テ登記料ヲ減脱シ及之ニ通謀シタル者ハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十七條 本法ニ依リ罰金ニ處スル者ハ刑法ノ不論罪及減輕再犯加重

數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

附則

第三十八條 明治十年第二十八條布告船舶賣買書入質手續同十三年第五拾二號布告土地賣買讓渡規則同十四年第三拾號布告地券證印稅則其他從前ノ法律規則中本法ニ抵觸スルモノハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

第三十九條 地所賣買讓與荒地起返開墾鐵下年期明等總テ地券下付書換ニ係ル手續及其手数料ハ大藏大臣之ヲ定ム

第四十條 登記簿ニ未シ登記セサル地所建物船舶ニ付キ從來保有セル所有權ヲ明確ナラシメント欲スル者ハ管轄登記所ニ其所有權ノ登記ヲ請フコトヲ得

右ノ登記ヲ請フ者ハ物件ヲ明示シタル請求書ニ其所有權ノ證明書類ヲ添ヘ之ヲ登記所ニ差出ス可シ但其所有權ヲ取得シタルコトヲ證スル證書ヲ其證明書トシテ差出ストキハ第拾四條ヲ準用ス

本條ノ登記ニ關シ地所ニ付テハ一筆毎ニ金一錢ヲ納メシメ建物船舶ニ付テハ一件毎ニ金一錢ヲ納メシム

第四十一條 登記所ハ初テ登記ヲ爲シタル地所ニ付テハ之ヲ其地ノ土地臺帳所管廳ニ通知シ其所管廳ヨリ右ノ地所ニ付キ分合筆又ハ地番號及

地目ノ變換アル毎ニ之ヲ登記所ニ通知ス可シ
土地臺帳所管廳ハ明治二十二年勅令第三拾九號ニ依リ登記所ヨリ所有
ノ移轉又ハ質入ニ付キ通知ヲ受ケタル地所ニ關シ前項ノ變換アルトキ
モ亦通知ヲ爲ス可シ

登記所ハ前二項ノ通知ニ依リテ登記簿ニ其變換ノ旨ヲ追記ス可シ

●所得稅法

明治二十年三月十九日
勅令第五號

第一條 凡ソ人民ノ資産又ハ營業其他ヨリ生スル所得金高一箇年三百圓
以上アル者ハ此稅法ニ依テ所得稅ヲ納ム可シ

但同居ノ家族ニ屬スル者ハ總テ戶主ノ所得ニ合算スルモノトス

第二條 所得ハ左ノ定則ニ據テ算出ス可シ

第一 公債證書其他政府ヨリ發シ若クハ政府ノ特許ヲ得テ發スル證券
ノ利子、營業ニアラサル貸金預金ノ利子、株式ノ利益配當金、官私
ヨリ受クル俸給、手當金、年金、恩給金及割賦賞與金ハ直ニ其金額
ヲ以テ所得トス

第二 第一項ヲ除クノ外資産又ハ營業其他ヨリ生スルモノハ其種類ニ
應シ收入金高若クハ收入物品代價中ヨリ國稅、地方稅、區町村費、
備荒儲蓄金、製造品ノ原質物代價、販賣品ノ原價、種代、肥料營利

事業ニ屬スル場所物件ノ借入料、修繕料、雇人給料、負債ノ利子及雜
費ヲ除キタルモノヲ以テ所得トス

第三 第二項ノ所得ハ前三箇年間平均高ヲ以テ算出ス可シ但シ所得收
入以來未タ三年ニ滿タサルモノハ月額平均ヲ得難キモノハ他ニ比準
ヲ取リテ算出ス可シ

第三條 左ニ掲クルモノハ所得稅ヲ課セス

第一 軍人從軍中ニ係ル俸給

第二 官私ヨリ受クル旅費傷痍疾病者ノ恩給金及孤兒寡婦ノ扶助料

第三 營利ノ事業ニ屬セサル一時ノ所得

第四條 所得稅ノ等級及稅率左ノ如シ

等級	所得金	稅率
第一等	所得金高三萬圓以上	百分ノ三
第二等	所得金高二萬圓以上	百分ノ二半
第三等	所得金高一萬圓以上	百分ノ二
第四等	所得金高千圓以上	百分ノ一半
第五等	所得金高三百圓以上	百分ノ一

但所得金高ハ圓位未滿ノ端數ヲ算セス

第五條 所得稅ハ前半年分ヲ其年九月ニ後半分ヲ翌年三月ニ納ム可シ
第六條 此税法ニ依リ税金ヲ納ム可キ所得アル者ハ其年所得ノ豫算金高
及種類ヲ記シ毎年四月三十日迄ニ居住地ノ戸長ヲ經テ郡區長ニ届出可
シ

第七條 各郡區役所管轄内ニ七名以下ノ所得稅調査委員ヲ置キ毎年調査
委員會ヲ開キ所得稅ニ關スル調査ヲ爲サシム

調査委員定數ノ外五名以下ノ補缺員ヲ置キ補充ニ備フ可シ
調査委員及補缺員ニ選ハレタル者ハ正當ノ事由ナクシテ之ヲ辭スルコ
トヲ得ス

第八條 調査委員ハ其郡區内ノ選舉ヲ以テ之ヲ定ム

第九條 調査委員ノ選舉人被選人ハ二十五歳以上ノ男子ニシテ其郡區内
ニ現住シ所得稅ヲ納ムル者ニ限ル但府縣會規則第十三條第一款第二款第
三款第四款ニ觸ル、者ハ被選人タルコトヲ得ス同條第一款第二款第
三款ニ觸ル、者ハ選舉人タルコトヲ得ス

第十條 郡區長ハ各町村内ニ五名ヨリ多カラサル町村選舉人ノ員數ヲ定
メ其町村人民中第九條ノ資格ヲ有スル者ヲシテ互選セシム但便宜ニヨ
リ數町村ヲ合シテ五名ヨリ多カラサル選舉人ヲ定ムルコトヲ得

町村選舉人ハ第九條ノ範圍内ニ於テ調査委員及補缺員ヲ選舉ス可シ

第十一條 調査委員ノ任期ハ滿四年トシ二年毎ニ全數ノ半ヲ改選ス但第
一回ノ改選ハ抽籤ヲ以テ其退任者ヲ定ム

第十二條 調査委員ノ手當、旅費其他調査ニ關スル費用ハ國庫ヨリ之ヲ
支給ス

第十三條 郡區長ハ第六條ノ届書ニ據リ所得金高下調書ヲ製シ其届書ト
共ニ調査委員會ニ付ス可シ

第十四條 郡區長ハ納稅者ト認ムルモノニシテ第六條ノ期限ヲ過キテ其
届出ヲ爲サ、ル者アルトキハ所得金高ノ見積ヲ立テ之ヲ調査委員會ニ
付ス可シ

第十五條 調査委員會ハ郡區長ノ招集ニ由リ之ヲ開ク調査委員會ノ會長
ハ郡區長ヲ以テ之ニ充ツ郡區長缺席スルトキハ會員ノ互選ヲ以テ之ヲ
定ム

第十六條 調査委員會ハ會員過半數出席スルニアラサレハ會議ヲ開クコ
トヲ得、會議ハ出席員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會
長ノ可否スル所ニ依ル但自己ノ所得ニ關スルトキハ其會議ニ與ルコト
ヲ得ス

- 第十七條 郡區長ハ調査委員會ノ議決ニ據リ各納稅者ノ所得稅等級金額ヲ定メ之ヲ納稅者ニ達ス可シ
- 第十八條 郡區長ハ調査委員會ノ議決ニ關シ意見アルトキハ府縣知事ニ具狀シ指揮ヲ請フ可シ
- 第十九條 納稅者ニ於テ所得稅ノ等級金額ヲ不當トスルトキハ其達ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ所得金高明細書及其證據トナルヘキモノヲ添ヘ府縣知事ニ申出ルコトヲ得但此場合ニ於ケルモ其税金ハ達ヲ受ケタル金額ニ從テ之ヲ納ム可シ
- 第二十條 府縣知事ハ第十八條第十九條ノ場合ニ於テハ府縣常置委員會ニ付シテ調査セシメ其議決ニ據テ之ヲ處分ス可シ但其納稅後ニ涉ルトキハ稅額ノ不足アルモノハ之ヲ追徵シ過剩アルモノハ之ヲ還付ス可シ
- 第二十一條 調査委員會又ハ常置委員會ハ此稅法ニ關シ調査上必要ト認ムルトキハ納稅者ニ尋問スルコトヲ得
- 第二十二條 調査委員其他所得稅ノ調査ニ關スル者ハ納稅者ノ資産及所得ニ係ル事件ヲ他ニ漏洩ス可カラス
- 第二十三條 納稅者其納期前ニ於テ所得金高十分ノ五以上ヲ減損シタルトキハ郡區長ニ申出ルコトヲ得郡區長ハ事實ヲ審査シテ其稅額ヲ減シ

所得金高一箇年ヲ三百圓ヲ下ルモノハ之ヲ免稅ス可シ但既納ノ税金ハ之ヲ還付セズ

- 第二十四條 所得金高ヲ隱蔽シテ逃稅シタル者ハ其逃稅金高三倍ノ處罰金ニ處ス但自首スル者ハ其税金ヲ追徵シ其罪ヲ問ハス
- 第二十五條 第二十二條ヲ犯シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第二十六條 第六條ノ届出ヲ爲サ、ル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス
- 第二十七條 此稅法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用ヒス
- 第二十八條 此稅法施行ニ關スル細則ハ大藏大臣之ヲ定ム
- 第二十九條 此稅法ハ明治二十年七月一日ヨリ施行ス
但北海道、沖繩縣及東京府管轄小笠原島、伊豆七島ニ於テハ官府ヨリ受クル俸給、手當、年金及恩給金ノ外ハ當分ノ内之ヲ施行セズ

附則

本法第六條ノ届書ハ本年ニ限り七月三十一日迄ニ差出ス可シ

●所得稅法施行細則

二十年五月五日
大藏省令第八號

第一條 戶主ニ所得ナクシテ同居ノ家族ノミニテ所得アル場合ニ於テモ一家内ニ屬スルモノハ總テ合算ノ上其戶主ノ名ヲ以テ届出納稅ス可キモノトス

第二條 稅法第二條第三項ニ依リ所得ヲ算出スルハ其年所得ヲ生ス可キ現在ノ資産又ハ現在ノ業務ニ應シ前三年平均若クハ月額平均ノ歩合ニ依リ又ハ他ノ比準ニ依ル可キモノトス

第三條 物品ニテ收入スル所得ハ其相當價格ヲ以テ代金ヲ算出ス可シ

第四條 稅法第六條ノ届書ハ第一號書式ニ依ル可シ

第五條 左ニ掲クル者ハ一定ノ地ニ其納稅管理人ヲ定メ戶長ヲ經テ郡區長ニ届出此稅法施行ニ關スル諸般ノ事ヲ辨セシム可シ

一 此稅法ヲ施行セサル地ニ居住シ本法施行ノ地ニ於テ生スル所得金一箇年三百圓以上ヲ收入スル者

一 内外國ニ旅行シ又ハ外國若クハ此稅法ヲ施行セサル地ニ寄留スル納稅者

第六條 一人ニシテ數箇所ニ於テ所得ヲ收入スル者ハ其住居地ノ郡區長ニ届出ヲ爲スト同時ニ二號書式ニ依リ其所得ヲ收入スル各地ノ郡區長ニ届出可シ

第七條 郡區長第六條ノ届出ヲ受クルトキハ之ヲ其納稅地ノ郡區長ニ送付ス可シ

但其届出高ニ對シ意見アルトキハ別ニ其意見ヲ付ス可シ

第八條 納稅者他ノ郡區役所所轄内ニ轉居セントスルトキ及轉居シタルトキハ各其地ノ戶長ヲ經テ郡區長ニ届出可シ

第九條 郡區長第八條ノ地ニ轉居セントスル者ノ届出ヲ受ケタルトキハ直チニ轉居者ノ所得稅ニ係ル一切ノ事項ヲ其轉居先ノ郡區長ニ通報ス可シ

第十條 郡區長ハ其所轄内ニ於テ納稅者ト認ムルモノノ所得ニ關シ調査上必要ナル場合ニ於テハ各地方ノ會社若クハ一個人ニ對シ其事項ノ問合ヲ爲スコトヲ得

第十一條 郡區長ハ調査委員選舉ノ爲メ稅法第六條ノ届出ニ依リ毎年五月納稅者ノ住所姓名ヲ其管内ニ公告ス可シ

第十二條 調査委員會及調査委員選舉ニ關スル細則ハ府縣知事之ヲ定ム

第十三條 調査委員ヲ辭スルヲ得ル者ハ郡區長ニ於テ已ムヲ得スト應料スル事故アル者ニ限ル

第十四條 調査委員會ノ議決書ハ會長及委員二名以上之ニ署名ス可シ
第十五條 所得稅ノ等級金額ハ第三號書式ニ依リ毎年八月十日マテニ之ヲ達ス可シ

第十六條 區長ニ於テ直ニ戶長ノ事務ヲ行フ區内ニ在テハ府縣知事ノ見込ヲ以テ大藏大臣ノ認可ヲ受ケ一區内ヲ數郡ニ劃シ每部ニ五名以下ノ臨時取調掛ヲ置キ區長ノ指揮ニ從ヒ所得稅調査ニ關スル下調ヲ爲サシムルコトヲ得

第十七條 稅法第二十九條但書ノ所得ニ關スル等級金額ハ北海道廳長官東京府知事沖繩縣知事之ヲ査定ス可シ

第十八條 調査委員招集ニ應セサルカ又ハ會員過半数出席セス若シハ其他ノ事故ニ依リ第十五條ノ等級金額達期限マテニ調査ヲ了セサルトキハ郡區長ニ於テ等級金額ノ意見ヲ付シ府縣知事ニ差出シ府縣知事ハ之ヲ大藏大臣ニ具狀シテ指揮ヲ請フ可シ

第十九條 第五條ニ違ヒ又ハ第六條第八條ノ届出ヲ怠リタル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

附則

本年ニ限リ第十一條ノ公告ハ九月第十五條ノ達ハ十一月ニ之ヲ爲ス可シ

(書式略之)

●國稅徵收法

明治三十年三月
法律第二十一號

第一章 總則

第一條 國稅ノ徵收ハ關稅其他別ニ法律ヲ以テ定ムルモノノ外總テ此ノ法律ニ依ル

第二條 國稅ノ徵收ハ總テノ他ノ公課及債權ニ先ツモノトス

第三條 納稅人ノ財産上ニ質權又ハ抵當權ヲ有スル者其ノ質權又ハ抵當權ノ設定カ國稅ノ納期限ヨリ一ヶ年前ニ在ルコトヲ公正證書ヲ以テ證明シタルトキハ諸物件ノ價額ヲ限トシ其ノ債權ニ對シテ國稅ヲ先取セサルモノトス

第四條 納稅人國稅其他ノ公課ノ滯納ニ因リ滯納處分ヲ受ケ又ハ他ノ債權ニ因リ強制執行若ハ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テハ未ダ納期ノ到ラサルモ既ニ納稅義務ノ確定シタル國稅ハ總テ之ヲ徵收スルコトヲ得但シ納稅人タル會社カ解散ヲ爲シタルトキ亦同シ

納稅人他ノ公課ニ付滯納處分ヲ受ケタルニ因リ國稅ノ徵收ヲ爲ストキハ國稅ハ其ノ滯納處分費ニ對シテ先取セサルモノトス

第二章 徵收

第五條 市町村ハ其ノ市町村内ノ地租税及勅令ヲ以テ命シタル國税ヲ徵收シ其ノ税金ヲ國庫ニ送付スルノ責任アルモノトス
前項地租税徵收ノ費用ハ其ノ市町村ノ負擔トシ其ノ他ノ國税ハ其徵收金額ノ百分ノ四ヲ其ノ市町村ニ交付スヘシ

第六條 國税ヲ徵收セムトスルトキハ收稅官吏又ハ市町村ハ納稅人ニ付シ其ノ納金額納期日及納付場所ヲ指定シ之ヲ告知スヘシ

第七條 納稅人非常ノ災害ニ罹リ政府ニ於テ其ノ被害調査ノ爲時日ヲ要スルトキハ其ノ開稅金ノ徵收ヲ爲サ、ルコトアルヘシ

第八條 市町村ハ避クヘカラサル災害ニ因リ既收ノ税金ヲ失ヒタルトキハ其事實ヲ證明シ大藏大臣ニ税金送付ノ責任ノ免除ヲ請フコトヲ得
前項ノ申出アリタルトキハ大藏大臣ハ其事實ヲ審査シ其免除ヲ爲スコトヲ得

第三章 滯納處分

第九條 國税ノ納期限ヲ過キ其ノ税金ヲ完納セサル者アルトキハ收稅官吏ハ期限ヲ指定シテ之ヲ督促スヘシ此ノ場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ督促手数料ヲ徵收ス

第十條 滯納者督促ヲ受ケ其ノ指定ノ期限内ニ督促手数料及税金ヲ完納

セサルトキハ其財産ヲ差押フヘシ

第十一條 收稅官吏滯納處分ノ爲財産ノ差押ヲ爲ストキハ其命令ヲ受ケタル官吏タルノ證書ヲ示スヘシ

第十二條 差押スヘキ財産ノ價格ニシテ滯納處分費及第三條ニ依リ控除スヘキ債務額ニ充テ殘餘ヲ得ル見込ナキトキハ滯納處分執行ヲ止ム

第十三條 收稅官吏滯納者ノ財産ヲ差押フルニ當リ質權ノ設定セラレタル物件アルトキハ質權設定時期ノ如何ニ拘ラス其ノ質權者ハ質物ヲ收稅官吏ニ引渡スヘシ

第十四條 收稅官吏財産ノ差押ヲ爲シタル場合ニ於テ第三者其ノ財産ニ就キ所有權ヲ主張シ戻戻ヲ請求セムトスルトキハ賣却執行ノ五日前マテニ所有者タルノ證書ヲ具ヘテ收稅官吏ニ申出ヘシ

第十五條 滯納處分ヲ執行スルニ當リ滯納者財産ノ差押ヲ免ル、爲故意ニ其ノ財産ヲ讓リ渡シ讓リ受人其ノ情ヲ知り讓受ケタル場合ニ於テ政府ハ其ノ行爲ノ取消ヲ求ムルコトヲ得

第十六條 左ニ掲クル物件ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス
一 滯納者及其ノ同居ノ家族ノ生活上缺クヘカラサル衣服寢具家具及廚具

- 二 滯納者及其ノ同居家族ニ必要ナル一ヶ月間食料及薪炭
- 三 實印其他職業ニ必要ナル印
- 四 祭祀禮拜ニ必要ナル認ムル物及石碑墓地
- 五 系譜其ノ他滯納者ノ家ニ必要ナル日記書付類
- 六 職務上必要ナル制服祭服法衣
- 七 勳章其ノ他名譽ノ章票
- 八 滯納者及同居家族ノ修學上必要ナル書籍器具
- 九 發明又ハ著作ニ係ル物ニシテ未タ公ニセサルモノ
- 第十七條 左ニ掲クル物件ハ他ニ滯納處分費及税金ヲ償フニ足ルヘキ物件ヲ提供スルトキハ滯納者ノ選擇ニ依リ差押ヲ爲サ、ルモノトス
 - 一 農業ニ必要ナル器具種子肥料及牛馬並其飼料
 - 二 職業ニ必要ナル器具及材料
- 第十八條 差押ノ效力ハ差押物ヨリ生スル天然及法定ノ果實ニ及フモノトス
- 第十九條 滯納處分ハ裁判上ノ假差押ノ爲ニ其執行ヲ妨ケラルヽコトナシ
- 第二十條 收稅官吏財産ノ差押ヲ爲ストキハ滯納者ノ家屋倉庫及筐匣ヲ

探索シ又ハ閉鎖シタル戸扉筐匣ヲ開カシメ若ハ自ラ之ヲ開クコトヲ得
 滯納者ノ財産ヲ占有スル第三者其ノ財産ノ引渡ヲ拒ミタルトキ亦同シ
 第三者ノ家屋倉庫及筐匣ニ滯納者ノ財産ヲ藏匿スルノ疑アルトキハ收
 稅官吏ハ前項ニ準シ處分スルコトヲ得

前二項ニヨリ家屋倉庫又ハ筐匣ヲ探索スルハ日出ヨリ日没マテニ限ル

第二十一條 收稅官吏前條ノ處分ヲ爲ストキハ滯納者若ハ前條ニ掲ケタル
 第三者又ハ其ノ家族雇人ヲシテ立會ハシムヘシ若シ立會フヘキ者不
 在ナルトキ又ハ立會ニ應セサルトキハ成丁者二人以上又ハ市町村吏員
 市制町村制ヲ施行セサル地ニ
 在リテハ區長其ノ附屬吏員 若ハ警察官吏ヲ證人トシテ立會ハシムヘシ

第二十二條 通貨地金銀有價證券ヲ差押ヘタルトキハ收稅官吏之ヲ封印
 シテ其地ノ市町村長 市制町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ區長
 前項ニ掲ケサル物件ヲ差押ヘタルトキハ收稅官吏封印シテ之ヲ保管ス
 ヘシ但シ不動産又ハ運搬ヲ爲スニ付困難ナル物件ヲ差押ヘタルトキハ
 其ノ保管ヲ滯納者又ハ第三者ニ命スルコトヲ得

第二十三條 債權ノ差押ヲ爲ストキハ收稅官吏ハ之ヲ債務者ニ通知スヘ
 シ債務者前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ收稅官吏ニ對シテ滯納處分費及
 税金額ヲ限トシ自己ノ債務ヲ支拂フノ義務ヲ有ス其義務ノ消滅セサル

前ニ滯納者ニ對シテ爲シタル支拂ハ無効トス

第二十四條 差押ヘタル有體動産及不動産ハ公賣ニ付ス公賣ノ手續ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

公賣ニ付スルモ買受望人ナキカ又ハ其ノ價額見積價格ニ達セサルトキハ其ノ見積價格ヲ以テ政府ニ買上ルコトアルヘシ

第二十五條 見積價格僅少ニシテ其ノ公賣費用ヲ償フニ足ラサル物件ハ隨意契約ヲ以テ之ヲ賣却スルコトヲ得

第二十六條 滯納者及賣却ヲ爲ス地方ノ稅務ニ關スル官吏公吏雇員ハ直接ト間接トヲ問ハス其賣却物件ヲ買受クルコトヲ得ス

第二十七條 滯納處分費ハ督促手数料財産ノ差押保管運搬及公賣ニ關スル費用通信費及訴訟費用トス

滯納處分中シタル場合ニ於テモ之ニ要シタル處分費用ハ仍之ヲ徵收ス滯納處分費ハ國稅及第三條ノ債權ニ對シテモ之ヲ先取ス

第二十八條 差押物件ノ賣却代金及差押ヘタル通貨ハ處分費及税金ニ充テ仍殘餘アルトキハ之ヲ滯納者ニ還付スヘシ賣却シタル物件質入出入ト爲シタルモノナルトキハ其代金ヨリ先ツ處分費及税金ヲ控除レテ其ノ負債金額ニ充ルマテ之ヲ債主ニ交付シ仍殘餘アレハ之ヲ滯納者ニ還

付スヘシ但シ第三條ニ掲ケタル質入書入ノ物件ニ關シテ其ノ代金ヨリ先ツ滯納處分費ヲ徵シ次ニ其ノ負債金額ニ充ツ債主ニ交付シ次ニ税金

ヲ控除シ仍殘餘アレハ之ヲ滯納者ニ還付スヘシ

第二十九條 會社ニ對シ滯納處分ヲ執行スル場合ニ於テ會社財産ヲ以テ滯納處分費及税金ニ充テ仍不足アルトキハ無限責任社員ニ就キ之ヲ處分スルコトヲ得

第三十條 滯納處分ニ關スル書類ハ名宛人ノ住所又ハ事務所ニ送達スルモノトス

名宛人ノ住居又ハ事務所ニ於テ書類ノ受取ヲ拒ミタルトキ又ハ住居若ハ事務所不明ナルトキハ通知ノ趣旨ヲ公告シ五日ヲ過クルトキハ其ノ書類ノ送達アリタルモノト看做ス

第三十一條 直接國稅滯納者ノ納稅義務ハ滯納處分ノ結了ヲ以テ終ル滯納處分ノ執行ヲ止メタルトキ亦同シ

間接國稅ニ付テハ滯納處分結了スルモ滯納處分費及税金ノ完納ニ至ラサルトキハ納期限後一箇年ハ隨時其不足額ヲ徵收ス滯納處分ノ執行ヲ止メタルトキ亦同シ

第四章 罰則

第三十二條 滯納者又ハ滯納者ノ財産ヲ藏匿脱漏シ又ハ虚偽ノ契約ヲ爲シタルトキハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス
 差押物件ノ保管者其ノ保管ニ係ル物件ヲ藏匿脱漏費消若ハ故意ニ毀損シタルトキ亦同シ
 情ヲ知テ前二項ノ所爲ヲ幫助シ又ハ虚偽ノ契約ヲ承諾シタル者ハ各本刑ニ一等ヲ減ス
 前各項ノ場合ニ於テ刑法ニ罰條アルモノハ本條ヲ適用セス

第五章 附則

第三十三條 此ノ法律ハ明治三十年七月一日ヨリ施行ス
 沖繩縣及東京府管内小笠原島伊豆七島ニハ當分ニ施行セス市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テ本法中市町村ニ關スル條項ヲ適用スヘキ公共團體ハ勅令ヲ以テ之ヲ指定ス

北海道水産物營業人組合ハ本法ニ於テ市町村ニ準ス

第三十四條 明治二十二年法律第九號國稅徵收法同年法律第三十二號國稅滯納處分法及同二十三年法律第四號ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

●地租條例 明治十七年三月第七號布告

地租條例別冊ノ通制定シ明治六年(七月)第二百七十二號布告地租改正

條例及ヒ地租改正ニ關スル條規其他本條例ニ抵觸スルモノハ廢止ス
 但東京府管轄伊豆七島小笠原島函館沖繩縣札幌縣根室縣ハ當分従前ノ通タルヘシ

地租條例

第一條 地租ハ地價百分ノ二箇半ヲ以テ一年ノ定率トス

第二條 地租ハ年ノ豐凶ニ依リ増減セス

第三條 有租地ヲ區別シテ二類トナス

第一類、田、畑、郡村宅地、市街宅地、鹽田、鑛泉地

第二類、池沼、山林、牧地、原野、雜種地 第二類ハ廿二年法律第三十號ニテ改正

第一類中又ハ第二類中ノ各地目變換スルモノヲ地目變換ト云フ

第二類地ニ勞費ヲ加ヘ第一類地ト爲スモノヲ開墾ト云フ

一類地又ハ第二類地ノ山崩、川欠、押堀、石砂入、川成、海成、湖水成等ノ如キ天災ニ罹リ地形ヲ變シタルモノヲ荒地ト云フ

第四條 公立學校地、鄉村社地、墳墓地、用惠水路、溜池、隄塘、井溝

鐵道用地、禁伐林及ヒ公衆ノ用ニ供スル道路ハ地租ヲ免ス (二十二年法律第三十號ニテ改正)

第五條 土地ノ丈ハ曲尺ヲ用ヒ六尺ヲ間ト爲シ方一間ヲ以テ歩ト爲シ三十步ヲ畝ト爲シ十畝ヲ段ト爲シ十段ヲ町ト爲ス但市街宅地ハ方一間ヲ

以テ坪ト爲シ坪ノ十分ノ一ヲ合ト爲シ合ノ十分ノ一ヲ勾ト爲ス

第六條 地價ヲ定メ又ハ地價ヲ修正スルルハ地盤ヲ丈量ス(二十二年第三十號ニテ修正)

第七條 地價ハ地目變換開墾又ハ第一類地ヲ第二類地ニ變換シタルルハ
アラサレハ之ヲ修正セス(二十二年第三十號ニテ修正)

第八條 一般ニ地價ノ改正ヲ要スルルハ前以テ其旨ヲ布告スヘシ

第九條 地價ハ其地ノ品位等級ヲ認定シ其所得ヲ審査シ尙ホ其土地ノ情
況ニ應シ之ヲ定ム

第十條 地目ヲ變換シ若クハ第一類地ヲ第二類地ニ變換シタルルハ地方
廳へ届出ツヘシ 地目變換ノ土地ハ五年以内ニ於テ地價ヲ修正シ六年

目ヨリ修正地價ニヨリ地租ヲ徵收ス 但シ第十六條第六項ノ場合ハ此
限ニアラス 第一類地ヲ第二類地ニ變換シタルモノハ五年間其地價ヲ
据置六年目ニ至リ之ヲ修正ス(二十二年第三十號ニテ修正)

第十一條 預租地ヲ有租地ト爲サントスルルハ地方廳ノ許可ヲ受クヘシ
地價ハ其地ノ現況ニ依リ之ヲ定ム

第十二條 地租ハ土地臺帳記名者ヨリ徵收ス但シ質入ノ土地ハ其質取主
ニ於テ之ヲ收ムヘシ(二十二年第三十號ニテ修正)

第十三條 第一項左ノ如ク改正ム 有租地ヲ公立學校地、鄉村社地、墳墓

地、禁伐林ト爲ストキハ其地租ハ許可又ハ命令ヲ受ケタル月分ヨリ月
割ヲ以テ之ヲ免シ用照水路、溜池、隄塘、井溝、鐵道用地及公衆ノ用
ニ供スル道路トナスルハ其地租ハ工事着手ノ月分ヨリ月割ヲ以テ之ヲ
免ス

第十四條 地價修正ノ土地ハ其年ヨリ修正地價ニヨリ地租ヲ徵收ス但第
十條第二項ノ場合ハ此ノ限ニアラス(二十二年第三十號ニテ修正)

第十五條 荒地又ハ新開地ハ免租年期間ノ翌年分ヨリ地租ヲ徵收ス(二十
二年第三十號
ニテ修正)

第十六條 開墾ヲナサントスルルハ地方廳ニ差出ヘシ前項ノ開墾地ハ開
墾着手ノ年ヨリ十年目ニ其ノ成功ノ部分ニ對シ地價ヲ修正ス十年以内
ニ成功シ能ハサル開墾ヲナサントスルルハ地方廳ニ願出テ墾下年期ノ
許可ヲ受クヘシ墾下年期ハ十年以内トス但年期中ハ原地價ニヨリ地租
ヲ徵收ス官有地ヲ開墾シテ民有地ニ歸セシ土地ハ其ノ素地相當ト
認ムル處ノ地價ヲ定メ尙ホ十年以内ノ墾下年期ヲ許可ス但年期中ハ原
定地價ニ依リ地租ヲ徵收ス 官有ノ水面ヲ埋立民有ニ歸セシ土地ハ五
十年以内ノ新開預租年期ヲ許可ス 耕地ノ區畫若クハ形狀ヲ變更スル
爲メ又ハ地目ヲ變換スル爲メ開墾ニ等シキ勞費ヲ要スル者ハ本條第三

項ニ準シ三十年以内ノ地價据置年期ヲ許可スルヲアルヘシ(二十二年第三十號ニテ改正)

第十七條 削除

第十八條 第十六條第三項第四項第五項ノ年期明ニ至リ事業成功ニ至ラサル者ハ更ニ二十年以内ノ繼年期ヲ許可ス(二十二年第三十號ニテ改正)

第十九條 鐵下年期地價据置年期明新開地租年期明ノ片其ノ地價ヲ定メ又ハ修正ス(二十二年第三十號ニテ改正)

第二十條 荒地ハ其年ヨリ十五年以内免租年期ヲ定メ年期明ニ至リ原地價ニ復ス 海嘯ノ爲メ潮水浸入シ作土ヲ損害シタルモノハ其狀況ニヨリ前項ニ準據スルヲアルヘシ(二十二年第三十號ニテ改正)

第二十一條 荒地免租年期間ニ至リ其地ノ現況原地價ニ復シ難キモノハ十五年以内七割以下ノ低價年期ヲ定メ年期明ニ至リ原地價ニ復ス(二十二年第三十號ニテ改正)

第二十二條 低價年期明ニ至リ尙ホ原地價ニ復シ難キモノ及荒地免租年期明ニ至リ原地價ニ復セス他ノ地目ニ變スル者ハ其地ノ現況ニヨリ地價ヲ定ム(二十二年第二十號ニテ改正)

第二十三條 免租年期明ニ至リ尙ホ荒地ノ形狀ヲ存スルモノハ更ニ十五年以内免租繼年期ヲ定ム其ノ年期明ニ至リ原地價ニ復シ難キモノハ第廿

一條第廿二條ニヨリ處分ス(二十二年第三十號ニテ改正)

第廿四條 川成海成湖水成ニシテ免租年期明ニ至リ原形ニ復シ難キモノハ更ニ廿年以内免租繼年期ヲ許可ス其ノ年期明ニ至リ尙ホ原地目ニ復セス他ノ地目ニ變セサルモノハ川海湖ニ歸スルモノトス(二十二年第三十號ニテ改正)

第廿五條 土地ヲ欺隱シ地租ヲ遁稅スルモノハ四圓以上四拾圓以下ノ罰金ニ處シ現地目ニ依リ地價ヲ定メ欺隱年間ノ地租ヲ追徴ス但シ發覺ノ日ヨリ三年以前ニ溯ルヲ得ス(二十二年第二十號ニテ但書追加)

第廿六條 第十條ニ違反スルモノハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ且ツ現地目ニヨリ地價ヲ定メ其ノ地租ヲ徵收ス但シ發覺ノ日ヨリ三年以前ニ溯ルヲ得ス(二十二年第三十號ニテ改正)

第廿七條 第十條第一項第十六條第一項ニ違反スルモノハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス其開墾ノ届出ヲササ、ルモノハ現地目ニヨリ地價ヲ定メ其ノ地租額ヲ追徴ス但シ發覺ノ日ヨリ三年以前ニ溯ルヲ得ス(明治二十二年法律第三十號ニテ改正)

第廿八條 第廿五條以下ノ處犯借地人小作人ノ所爲ニ係リ所有主其情ヲ知ラサル片ハ其借地人小作人ヲ罰シ地租ハ所有主ヨリ追徴ス

第廿九條 第廿五條第廿六條第廿七條第廿八條ノ刑ニ當ル者自首スル片

ハ其罰金料ヲ免ス但其ノ追徴スヘキ地租ハ仍ホ之ヲ納メシム

◎新聞紙條例明治二十年十二月勅令第七十五號

朕新聞紙條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

新聞紙條例

第一條 新聞紙ヲ發行セントスル者ハ發行ノ日ヨリ二週日以前ニ發行地

ノ管轄廳東京府ハ警視廳ヲ經由シテ内務省ニ届出ヘシ

第二條 新聞紙發行ノ届書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 題號

二 記載ノ種類

三 發行ノ時期

四 發行所及印刷所

五 發行人、編輯人及印刷人ノ氏名年齢

編輯人ハ二人以上アルトキハ其主トシテ編輯事務ヲ擔當スル者

タルヘシ但紙面ニ部門ヲ分チ其各部門ニ主任編輯人ヲ設クルコ

トヲ得

第三條 届出チ爲シタル後、題號、記載ノ種類又ハ發行人ヲ變更セント

スルトキハ二週日以前ニ第一條ノ手續ニ從ヒ届出ヘシ

發行ノ時期、發行所、印刷所、編輯人、印刷人ニ變更アリタルトキハ

一週日以内ニ第一條ノ手續ニ從ヒ届出ヘシ

第四條 發行人死去シ又ハ法律上其資格ヲ失ヒタルトキハ一週日以内ニ

發行人ヲ定メ第一條ノ手續ニ從ヒ届出ヘシ其届出チナスマテハ假發行

人ノ名義ヲ以テ發行スルコトヲ得

第五條 發行ノ届出チナシタル日又ハ發行休止ノ日ヨリ五十日ヲ過キテ

發行セサルトキハ其届出ノ效ヲ失フモノトス

第六條 内國人ニシテ滿二十歳以上ノ男子ニ非サレハ發行人、編輯人、

印刷人トナルコトヲ得ス

公權ヲ剝奪セラレタル者及公權ヲ停止セラレタル者其停止間發行人、

編輯人、印刷人トナルコトヲ得ス

第七條 編輯人、印刷人ハ互ニ相兼ヌルコトヲ得ス

第八條 發行人ハ保證トシテ左ノ金額ヲ届書ト共ニ管轄廳（東京府ハ警

視廳）ニ納ムヘシ

一 東京ニ於テハ千圓

二 京都大阪横濱兵庫神戸長崎ニ於テハ七百圓

三 其他ノ地方ニ於テハ三百五十圓

○新聞紙條例

一 一月三回以下發行スルモノハ各前記ノ半額
保證金ハ時價ニ準シタル公債證書又ハ國立銀行ノ預手形ヲ以テ之ヲ納
ムルコトヲ得

學術、技藝、統計、官令又ハ物價報告ニ關スル事項ノミヲ記載スルモ
ノハ本條ノ限ニアラス

第九條 保證金ハ新聞紙ノ發行ヲ廢止シ又ハ其發行ヲ禁止セラレタルト
キハ之ヲ還付ス

第十條 第一條第三條第四條ノ届出ヲ爲サス又ハ保證金ヲ納ムヘキ新聞
紙ニシテ保證金ヲ納メスシテ發行スルモノハ正當ノ届出ヲナシ又ハ保
證金ヲ納ムルマテ警視總監又ハ地方長官ニ於テ其發行ヲ差留ヘシ

第十一條 新聞紙ハ每號ニ發行人、編輯人、印刷人ノ氏名發行所ヲ記載
スヘシ

發行人、印刷人ノ外何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ハラズ新聞紙又ハ記載
ノ條項ニ署名スル者ハ總テ編輯人ト共ニ其責ニ當ラシム

第十二條 新聞紙ハ其發行毎ニ先ツ内務省ニ二部管轄廳（東京府ハ警視
廳）及管轄「始審裁判所」檢事局ニ各一部ヲ納ムヘシ

第十三條 新聞紙ニ記載シタル事項ノ錯誤ニ付キ其事項ニ關スル當人又
ハ關係アル者ヨリ正誤又ハ正誤書辯駁書ノ掲載ヲ求メタルトキハ其求
テ受ケタル後チ其次回又ハ第三回ノ發行ニ於テ正誤ヲナシ又ハ正誤書
辯駁書ノ全文ヲ掲載スヘシ若シ正誤書辯駁書ノ字數原ノ二倍ヲ超過ス
ルトキハ其超過ノ字數ニ付其新聞社ノ定メタル普通廣告料ト同一ノ代
價ヲ要求スルコトヲ得

正誤辯駁ハ原文ト同號ノ活字ヲ用ヒ同一欄内ノ首部ニ掲載スヘシ
正誤辯駁ノ文章若クハ趣旨法律ニ觸ルルトキ又ハ之ヲ求ムル者其氏名
住所ヲ明記セサルトキハ掲載スルヲ要セス

第十四條 官報又ハ他ノ新聞紙ヨリ抄録セシ事項ニシテ其官報又ハ新聞
紙ニ於テ正誤又ハ正誤書辯駁書ヲ掲載シタルトキハ當人又ハ關係アル
者ノ求ナシト雖モ其新聞紙ヲ得タル後其次回又ハ第三回ノ發行ニ於テ

正誤スヘキコト前條ノ例ニ依ル但廣告料ヲ要求スルコトヲ得ス

第十五條 新聞紙ニ記載シタル事項ニツキ裁判ヲ受ケタルトキハ其新聞紙ノ次回發行ニ於テ宣告ノ全文ヲ掲載スヘシ

第十六條 重罪輕罪ノ豫審ニ關スル事項ハ公判ニ附セサル以前ニ於テ之ヲ記載スルコトヲ得ス傍聽ヲ禁シタル訴訟ニ關スル事項ハ之ヲ掲載スルコトヲ得ス

第十七條 刑律ニ觸レタル犯罪ヲ曲庇スルノ論說ヲ記載スルコトヲ得ス刑事ノ被告人又ハ刑律ニ觸レタル犯罪人ヲ救護シ又ハ賞恤スル爲ニスル文書ヲ掲載スルコトヲ得ス

第十八條 公ニセサル官ノ文書及上書建白請願書ハ當該官廳ノ許可ヲ得ルニ非レハ詳略ニ拘ラス之ヲ記載スルコトヲ得ス

官廳ノ議事及法律ニ依リ傍聽ヲ禁シタル公會ノ議事ハ詳畧ニ拘ラス之ヲ記載スルコトヲ得ス

第十九條 (明治三十年三月法律第九號ヲ以テ削除ス)

第二十條 (同上)

第二十一條 外國ニ於テ發行シタル新聞紙ニシテ治安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ攪亂スルモノト認ムルトキハ内務大臣ハ其新聞紙ノ内國ニ於ケル發

賣頒布ヲ禁シ其新聞紙ヲ差押フルコトヲ得

第二十二條 外務大臣陸軍大臣海軍大臣ハ特ニ命令ヲ發シテ外交又ハ軍事ニ關スル事項ノ記載ヲ禁スルコトヲ得(同上法令ニ依リ本條改正)

第二十三條 第二十二條第三十二條及第三十三條ニ關シ告發ヲ爲ストキハ内務大臣又ハ拓殖務大臣ハ其新聞紙ノ發賣頒布ヲ停止シ假ニ之ヲ差押ヘ其告發ニ係ル論說又ハ事項ト同一主旨ノ論說又ハ事項ノ記載ヲ停止スルコトヲ得(同上)

裁判所ハ犯罪ノ情狀ニ依リ第二十二條ノ禁令ヲ犯シ又ハ第三十二條及第三十三條ヲ犯シタル新聞紙ノ發行ヲ禁止スルコトヲ得

第二十四條 新聞紙ニ記載シタル事項ニ付キ訴訟ヲ起シタルトキ原告ニ於テ其新聞紙ニ署名シタル編輯人ハ實際主トシテ編輯事務ヲ擔當スル者ニアラスシテ他ニ主任編輯人アルコトヲ証明シタル場合ニ於テハ裁判官ハ其署名シタル編輯人及實際ノ主任編輯人ヲシテ共ニ其責ニ當ラシムヘシ(同上法令ニ依リ「裁判官」ヲ「裁判所」ト改ム)

第二十五條 新聞紙ニ記載シタル事項ニ付キ誹毀ノ訴アル場合ニ於テ其私行ニ涉ルモノヲ除クノ外裁判所ニ於テ其人ヲ害スルノ惡意ニ出テス專ラ公益ノ爲ニスルモノト認ムルトキハ被告人ニ事實ヲ證明スルコト

ヲ許スコトヲ得若シ其證明ノ確立ヲ得タルトキハ誹毀ノ罪ヲ免ス其損害賠償ノ訴ヲ受ケタルトキモ亦同シ

第二十六條 ● 裁判確定ノ日ヨリ一週日以内ニ裁判費用及罰金ヲ完納セス又ハ損害ヲ賠償セサルトキハ保證金ヲ以テ之ニ充ツヘシ仍ホ足ラサルトキハ刑法徵收處分ニ依ル

保證金ヲ以テ裁判費用賠償及罰金ニ充テタルトキハ發行人ハ管轄廳（東京府ハ警視廳）ノ通知ヲ得タル日ヨリ一週日以内ニ其闕額ヲ完納スハシ若シ完納セサルトキハ其之ヲ完納スルニ至ルマテ警視總監又ハ地方長官ニ於テ其發行ヲ差止ヘシ

第二十七條 第一條第三條第四條ノ届出ヲ爲サス又ハ第六條第七條第十條第一項第十二條ヲ犯シ又ハ保證金ヲ納ムヘキ新聞紙ニシテ保證金ヲ納メスシテ發行シタルトキハ發行人ヲ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス但詐稱ノ罪ヲ犯スモノハ罰發行人ニ同シ

第一條第三條第四條ノ届出ヲ爲スモ實ヲ以テセサルトキハ發行人一月以上六月以下ノ經禁錮又ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス
第八條ノ末項ニ屬スル新聞紙ニシテ保證金ヲ納ムヘキ新聞紙ノ事項ヲ記載シタルトキハ編輯人罰前項ニ同シ

第二十八條 第十三條第十四條第十五條ニ違フトキハ編輯人ヲ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九條 第十六條第十七條第十八條ニ違フトキハ編輯人ヲ一月以上六月以下ノ經禁錮又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條 第二十一條ノ禁令ヲ犯シ發賣頒布ヲ爲ス者ハ罰前條ニ同シ（同上法令ニテ本條改正）

第三十一條 第二十二條ノ禁令ヲ犯シタル發行人編輯人ハ一月以上二年以下ノ經禁錮又ハ二十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス（同上）

第三十一條ノ二 第二十三條ノ停止ヲ犯ストキハ發行人編輯人ヲ二十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス（同上法令ニ依リ本條追加）

第三十二條 皇室ノ尊嚴ヲ冒瀆シ政體ヲ變壞シ又ハ朝憲ヲ紊亂セントスルノ論說ヲ記載シタルトキハ發行人編輯人印刷人ヲ二月以上二年以下ノ經禁錮ニ處シ五十圓以上三百圓以下ノ罰金ヲ附加ス（同上法令ニ依リ全條改正）

本條ヲ犯シタル者ハ其ノ犯罪ノ用ニ供シタル器械ヲ沒收ス

第三十三條 社會ノ秩序又ハ風俗ヲ壞亂スル事項ヲ記載シタルトキハ發行人編輯人ヲ一月以上六月以下ノ經禁錮又ハ二十圓以上三百圓以下ノ

罰金ニ處ス(同上)

第三十四條 第十三條ノ場合ニ於テ私事ニ係ルモノハ被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第三十五條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ自首減經再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用非ス

第三十六條 此條例ニ關スル公訴ノ期滿免除ハ六箇月トス

第三十七條 時時ニ發行スル雜誌ノ類ハ出版條例ニ依ルモノヲ除クノ外皆此條例ニ依ル

大藏省證券條例明治十七年九月第二十四號布告

(別紙)

大藏省證券條例

第一條 大藏省證券ハ出納上一時使用ノ爲メ大藏省ヨリ發行スルモノトス

第二條 大藏省證券ハ無記名利付定期拂ニシテ其發行シタル年度ノ歲入ヲ以テ仕拂ヲ爲ス者トス

第三條 大藏省證券ノ發行金額及利子金額ハ大藏卿之ヲ豫定シ太政官ノ

裁可ヲ受クヘシ

第四條 大藏省證券ハ百圓五百圓千圓五千圓壹萬圓及拾萬圓ノ六種ニ別チ其仕拂期限ハ十二箇月以內トス(明治二十六年十二月法律第十九號ニテ改正)

第五條 大藏省證券ハ何人ニテモ授受賣買スルヲ得

第六條 大藏省證券ノ仕拂及ヒ引換ニ關スル事務ハ日本銀行ニ於テ取扱ハシムヘシ

第七條 大藏省證券ノ所持人ハ其仕拂ノ期日ニ至リ日本銀行本支店又ハ代理店ニ於テ其仕拂ヲ請求スヘシ但仕拂ハ通貨ヲ以テスルモノトス

第八條 大藏省證券ハ其仕拂ノ期日ヨリ起算シ滿六ヶ月間ハ之ヲ仕拂フヘシ滿六ヶ月ヲ過ルトキハ一切仕拂ヲ爲サ、ルモノトス但仕拂期日後ハ利子ヲ付セサルモノトス

第九條 大藏省證券汚染又ハ毀損セシトキハ日本銀行本支店又ハ代理店ニ差出シ證券ノ引換ヲ請フヘシ但其券面金額記號番號及ヒ主要ノ印部ヲ檢査シ其眞正タルヲ證認シ得ヘキ者ニアラサレハ引換サルヘシ

第十條 大藏省證券ノ所持人其證券ヲ亡失セシトキハ其事由並ニ券面ノ金額仕拂期日記號番號及ヒ所有セシトキノ手續ヲ詳記シ日本銀行本支店又ハ代理店ヲ經テ大藏省ニ届出ヘシ大藏卿ハ其證券ノ授受賣買引換

●通貨及證券模造取締法明治二十八年四月
法律第二十八號

第一條 貨幣、政府發行紙幣、銀行紙幣、兌換銀行券、國債證券及地方債證券ニ紛ハシキ外觀ヲ有スルモノヲ製造シ又ハ販賣スルコトヲ得

第二條 前條ニ違反シタル者ハ一月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三條 第一條ニ掲ケタル物件ハ刑法ニ依リ沒收スル場合ノ外何人ノ所有ヲ問ハス警察官ニ於テ之ヲ破毀スヘシ

第四條 第一條ニ掲ケタル物件ニハ明治九年布告第五十七號ヲ適用ス

●銀行條例明治二十三年八月
法律第七十二號

第一條 公ニ開キタル店舗ニ於テ營業トシテ證券ノ割引ヲ爲シ又ハ爲換事業ヲ爲シ又ハ諸預リ及貸付ヲ併セ爲ス者ハ何等ノ名稱ヲ用ヰルニ拘ラス總テ銀行トス

第二條 銀行ノ事業ヲ營ントスル者ハ其資本金額ヲ定メ地方長官ヲ經由シテ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第三條 銀行ハ每半箇年營業ノ報告書ヲ製シ地方長官ヲ經由シテ大藏大臣ニ送付スヘシ

第四條 銀行ハ每半箇年財産目錄、貸借對照表ヲ製シ新聞紙其他ノ方法ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

第五條 (明治二十八年二月九日
法律第一號ヲ以テ刪除)銀行ノ營業時間ハ午前九時ヨリ午後三時迄トス(明治廿八年三月法律
第一號ヲ以テ改正)

第六條 銀行ノ都合ニ依リ之ヲ増加スルコトヲ得

第七條 銀行ノ休日ハ大祭日、祝日、日曜日及銀行營業地ニ行ハル、定例ノ休日トス但止ヲ得サル事故アルトキハ地方長官ニ届出テ豫メ新聞紙其他ノ方法ヲ以テ公告シタル上休業スルコトヲ得

第八條 大藏大臣ハ何時タリトモ地方長官又ハ其他ノ官吏ニ命シテ銀行ノ業務ノ實況及財産ノ現況ヲ検査セシムルコトヲ得

○銀行條例

第九條 第二條ノ規定ニ違反シ大藏大臣ノ認可ヲ受ケスシテ銀行ノ事業ヲ營ミタル者ハ商法第二百五十六條ノ例ニ依テ處分ス

第十條 銀行ニ於テ第三條ノ報告若ハ第四條ノ公告ヲ爲サス又ハ其報告中若ハ公告中ニ詐偽ノ陳述ヲ爲シ若ハ事實ヲ隱蔽シタルトキハ商法第二百零六十二條ノ例ニ依テ處分ス

第八條ノ検査ヲ受ルコトヲ拒ミタルトキハ商法第二百五十八條ノ例ニ依リテ處分ス

第十一條 此條例ハ日本銀行橫濱正金銀行國立銀行ニ適用セス

●銀行條例施行細則 明治二十六年五月十日
大藏省令第七號

第一章 銀行ノ設立

第一節 合名會社及ヒ合資會社

第一條 合名會社ノ組織ヲ以テ銀行ノ事業ヲ營マントスルモノハ營業科目、資本金額並ニ存立時期ヲ定メタルトキハ其時期ヲ記載シタル願書ニ會社契約及ヒ左ノ事項ヲ記載シタル參考書ヲ添ヘ地方長官ヲ經由シ大藏大臣ニ差出シ其認可ヲ受クヘシ

第一 會社ノ社名及ヒ營業所

第二 各社員ノ氏名

第三 開業セントスル年月日

第四 業務擔當社員ヲ特ニ定メタルトキハ其氏名及ヒ住所

第五 支店ヲ置クトキハ其場所及ヒ名稱

第二條 合資會社ノ組織ヲ以テ銀行ノ事業ヲ營マントスルモノハ營業科目資本金額並ニ存立時期ヲ定メタルトキハ其時期ヲ記載シタル願書ニ會社契約及ヒ左ノ事項ヲ記載シタル參考書ヲ添ヘ地方長官ヲ經由シ大藏大臣ニ差出シ其認可ヲ受クヘシ

第一 各社員ノ出資額

第二 會社ノ社名及ヒ營業所

第三 各社員ノ氏名

第四 開業セントスル年月日

第五 無限責任社員アルトキハ其氏名

第六 業務擔當社員ノ氏名及ヒ住所

第七 支店ヲ置クトキハ其場所及ヒ名稱

第三條 合名會社合資會社ハ大藏大臣ノ認可ヲ得テ設立シタルトキハ事業着手前ニ商法第七十九條又ハ同法第三百三十八條ノ事項ヲ登記スルノ手續ヲ爲スヘシ

第四條 合名會社合資會社營業科目、資本金額及ヒ存立時期ヲ變更セシムルトキハ地方長官ヲ經由シ更ニ願書ヲ大藏大臣ニ差出シ其認可ヲ受クヘシ

會社契約及ヒ參考書ニ掲ケタル事項ニ變動アルトキハ地方長官ヲ經由シ速ニ大藏大臣ニ届出ツヘシ

第五條 前條ニ依リ認可ヲ受クヘキ事項ニシテ商法第八十條ノ登記ヲ要スルトキハ認可ヲ得タル後七日以内ニ其登記ヲ受クヘシ

第六條 合名會社合資會社ハ認可並ニ登記ヲ要スル事項ニツキテハ大藏大臣ノ認可ヲ得ルモ商法第七十八條又ハ同法第八十條ノ登記ヲ受ケサルカ若クハ同法第八十二條ニ依リ登記ノ效力ヲ失ヒタルトキハ其認可ノ效力ヲ生セサルモノトス

第二節 株式會社

第七條 株式會社ノ組織ヲ以テ銀行ノ事業ヲ營マントスルモノハ四人以上ノ發起人連署捺印シテ目論見書及ヒ假定款ヲ地方長官ヲ經由シ大藏大臣ニ差出シ發起ノ認可ヲ請フヘシ

第八條 創業總會ノ終リシ後發起人ハ營業科目、資本金額並ニ存立時期ヲ定メタルトキハ其時期ヲ記載シタル願書ニ目論見書、定款、株式申込

簿、發起ノ認可證及ヒ左ノ事項ヲ記載シタル參考書ヲ添ヘ地方長官ヲ經由シ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第一 會社ノ社名及ヒ營業所

第二 取締役ノ氏名及ヒ住所

第三 開業セントスル年月日

第四 支店ヲ置クトキハ其場所及ヒ名稱

第九條 株式會社設立ノ認可ヲ得テ發起人ヨリ事務ノ引渡シヲ爲シタルトキハ取締役ハ定款ノ定ムル所ニ從ヒ株主ヲシテ株金ノ拂込ヲ爲サシムヘシ

前項ノ拂込金額各株式ノ四分ノ一以上ニ達スルトキハ事業着手前ニ商法第六十八條ニ依リ登記ノ手續ヲ爲スヘシ

第十條 株式會社營業科目、資本金額及ヒ存立時期ヲ變更セントスルトキハ地方長官ヲ經由シ更ラニ願書ヲ大藏大臣ニ差出シ其ノ認可ヲ受クヘシ

會社定款及ヒ參考書ニ掲ケタル事項ニ變動アルトキハ地方長官ヲ經由シ速ニ大藏大臣ニ届出ツヘシ

第十一條 株式會社ハ前條ニ依リ認可ヲ受クヘキ事項ニシテ商法第二百

十條ノ登記ヲ要スルトキハ認可ヲ得タル後直ニ其登記ヲ受クヘシ
第十二條 株式會社ハ認可竝ニ登記ヲ要スル事項ニツキテハ大藏大臣ノ認可ヲ得ルモ商法第百六十八條又ハ同法第二百十條ノ登記ヲ受ケサルカ若クハ同法第百七十條及第八十二條ニ依リ登記ノ效ヲ失ヒタルトキハ其認可ノ效力ヲ生セサルモノトス

第三節 各人

第十三條 各人ニ於テ銀行ノ事業ヲ營マントスルトキハ營業科目竝ニ資本金額ヲ記載シタル願書ニ左ノ事項ヲ記載シタル參考書ヲ添ヘ地方長官ヲ經由シ大藏大臣ニ差出シ其認可ヲ受クヘシ

第一 營業所

第二 開業セントスル年月日

第三 支店ヲ置クトキハ其場所及ヒ名稱

第十四條 營業科目及ヒ資本金額ヲ變更セントスルトキハ地方長官ヲ經由シ更ニ願書ヲ大藏大臣ニ差出シ其認可ヲ受クヘシ

參考書ニ掲ケタル事項ニ變動アルトキハ地方長官ヲ經由シ速ニ大藏大臣ニ届出ツヘシ

第三章 營業

第十五條 銀行ハ營業上一切ノ取引ニ使用スル印章ヲ定メ其印鑑ハ地方

長官ヲ經由シ之ヲ大藏大臣ニ差出スヘシ改印スルトキモ亦同シ

第十六條 本店及ヒ支店ニ於テ營業ヲ開始スルトキハ地方長官ヲ經由シ其期日ヲ大藏大臣ニ届出ツヘシ

第十七條 銀行ハ其名稱ヲ掲牌ニ記載シ營業時間中ハ之ヲ其銀行ノ店前公衆ノ目ニ觸レ易キ所ニ掲クヘシ

第十八條 銀行ニシテ支拂ヲ停止スルトキハ地方長官ハ其事由ヲ具シ直ニ之ヲ大藏大臣ニ報告スヘシ

第十九條 各人ニシテ銀行ノ營業ヲ營ムモノ其事業ヲ廢止スルカ又ハ破産ヲ宣告セラレタルモノアルトキハ地方長官ハ其年月日及ヒ事由ヲ具シ直ニ之ヲ大藏大臣ニ報告スヘシ

第二十條 合名會社合資會社ニシテ銀行ノ事業ヲ營ムモノ其營業ヲ廢止スルカ又ハ解散スルトキハ地方長官ハ其年月日及ヒ事由ヲ具シ直ニ之ヲ大藏大臣ニ報告スヘシ

第二十一條 株式會社ニシテ銀行ノ事業ヲ營ムモノ其營業ヲ廢止スルカ又ハ破産ヲ宣告セラレタルモノアルトキハ地方長官ハ其年月日及ヒ事由ヲ具シ直ニ之ヲ大藏大臣ニ報告スヘシ

商法第二百三十四條及同法第二百五十五條第二項ノ届出ハ地方長官ヲ經由シ之ヲ大藏大臣ニ差出スヘシ

第二十二條 地方長官ハ銀行ニシテ法令ニ違反スルモノアリト認ムルトキハ其事狀ヲ具シ直ニ之ヲ大藏大臣ニ報告シ其指揮ヲ請フヘシ

第三章 報告及ヒ公告

第二十三條 銀行條例第三條及ヒ第四條ノ半箇年ハ毎年一月ヨリ六月マテ及ヒ七月ヨリ十二月マテトシ之ヲ銀行ノ營業年度トス

第二十四條 銀行條例第三條ノ營業報告書ハ附屬雛形ニ準シテ調製シ毎營業年度經過後一箇月以内ニ之ヲ發送スヘシ但シ遠隔ノ地ニ支店ヲ有シ本條ノ期日内ニ報告書ヲ發送スル能ハサルモノハ地方長官ヲ經由シ豫メ大藏大臣ノ認可ヲ受ケ其期日ヲ定ムルコトヲ得

第二十五條 銀行ハ前條ノ報告書ヲ發送スルト同時ニ銀行條例第四條ノ公告ヲ爲スヘシ

第二十六條 銀行ノ營業所アル地方ニ於テ刊行スル新聞紙アルトキハ他地方ノ新聞紙ニ公告スルト否トニ拘ラス所在地方ノ新聞紙ニ公告スルヲ要ス

銀行ノ營業所アル地方ニ刊行ノ新聞紙ナキトキハ最寄地方又ハ取引先

多キ地方ノ新聞紙ニ公告シ尙ホ營業所ノ店前ニ揭示シテ公告スヘシ

第二十七條 銀行條例第七條但書ニ依リ休業セントスルモノハ少ナクトモ三日以前地方長官ニ届出テ同時ニ銀行ノ營業所アル地方ニ於テ刊行スル新聞紙ニ公告スヘシ

銀行ノ營業所アル地方ニ刊行ノ新聞紙ナキトキハ營業所ノ店前其他公衆ノ目ニ觸レ易キ場所ニ少ナクトモ三日以前ヨリ公告スヘシ

第二十八條 銀行ヨリ大藏大臣ニ差出スヘキ書類ハ總テ地方長官ヲ經由スヘシ

地方長官ハ前項ノ書類ヲ調査シ意見アルトキハ之ヲ添付シテ大藏大臣ニ送付スヘシ

第四章 検査

第二十九條 銀行條例第八條ニ依リ検査ヲ爲ストキハ其検査ヲ命セラレタル官吏ハ検査官タル證票ヲ携帯スヘシ

第三十條 銀行ハ検査官ニ於テ検査上必要トスル營業用ノ金匣、財産現在高、帳簿及ヒ總テノ書類ハ其ノ要求ニ應シテ之ヲ示シ又ハ説明ヲ爲スヘシ

第三十一條 検査官検査ヲ終了シタルトキハ其検査ノ顛末ヲ速ニ大藏大

臣ニ報告スヘシ

第五章 補則

第三十二條 銀行條例實施前ヨリ既ニ設立シタル株式會社ニシテ銀行ノ營業ヲ營ムモノ銀行條例施行後ニ其營業ヲ繼續セントスルトキハ商法施行條例第十條ニ依リ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第三十三條 銀行條例實施前ヨリ既ニ設立シタル合名會社合資會社又ハ各人ニシテ銀行ノ事業ヲ營ムモノ銀行條例施行後ニ其事業ヲ繼續セントスルトキハ本規則第一條第二條又ハ第十三條出願ノ手續ニ準據シ本年六月三十日マテニ地方長官ヲ經由シ大藏大臣ニ届出ツヘシ前項届出ヲ爲サ、ルモノハ總テ新ニ其事業ヲ開始スルモノト見做スヘキヲ以テ本規則第一章ノ規定ニ依リ認可ヲ受クヘシ

貯蓄銀行條例

明治廿三年八月 法律第七十三號

第一條 複利ノ方法ヲ以テ公衆ノ爲ニ預金ノ事業ヲ營ム者ヲ貯蓄銀行トス

銀行ニ於テ新ニ一口五圓未満ノ金額ヲ定期預リ若ハ當座預リトシテ引受ルトキハ貯蓄銀行ノ業ヲ營ム者ト爲シ此條例ニ依ラシム

第二條 資本金三萬圓以上ノ株式會社ニアラサレハ貯蓄銀行ノ業ヲ營ム

コトヲ得ス

第三條 貯蓄銀行ノ取締役ハ在任中ニ生シタル銀行ノ義務ニ付連帶無限ノ責任ヲ負フモノトス

但其責任ハ退任後二箇年ノ滿了ニ因リテ消滅ス

第四條 貯蓄銀行ハ蓄貯預金拂戻ノ擔保トシテ預金總高ノ四分ノ一ヨリ少ナカラサル金額ヲ利付國債證券又ハ地方債證券ニテ備ヘ置キ之ヲ供託所ニ預ケ入ルヘシ

但擔保金額カ資本金半額以上ニ及フトキハ商業手形及確實ナル會社ノ債券又ハ株券等ヲ用ヰルコトヲ得

第五條 刪除

第六條 刪除

第七條 貯蓄銀行ニ於テ其定款ヲ變更セントスルトキハ地方長官ヲ經由シテ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第八條 銀行ニシテ貯蓄銀行ノ事業ヲ營マントスルトキハ地方長官ヲ經由シテ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第九條 貯蓄銀行ニシテ此條例ノ規定ニ違反シタルトキハ其取締役ヲ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

○貯蓄銀行條例施行細則

貯蓄銀行ニアラスシテ貯蓄銀行ノ業ヲ營ミタルトキハ營業主又ハ會社ノ業務擔當社員若ハ取締役ヲ前項ノ罰ニ處ス

第十條 此條例ニ特別ノ規定ヲ設ケサルモノハ總テ銀行條例ニ依ル

●貯蓄銀行條例施行細則 明治廿六年五月一日 大藏省令第八號

第一條 貯蓄銀行條例第四條ノ利付國債證券ハ營業著手ノ日ヨリ三日以内ニ明治二十三年大藏省令第三十九號供託物取扱規程第二條ノ手續ニ依リ之ヲ供託所ニ預ケ入ルヘシ

資本金額ヲ増加シタル場合ニ於テハ拂込期日ヨリ三日以内ニ前項ノ預入ヲ爲スヘシ

本規則第五條ノ認可ヲ受ケントスルモノハ貯蓄銀行條例施行後三日以内ニ第一項ノ供託ヲ爲スヘシ

第二條 證券供託ノ手續ヲ了シタルトキハ直ニ供託所受領證ノ寫ヲ添付シ地方長官ニ届出ツヘシ

第三條 既ニ供託シタル證券ノ全部又ハ一部ノ返戻ヲ要スルトキハ其事由ヲ具シ返戻ヲ求メントスル證券ノ種類、番號、券面金額ヲ記載シ地方長官ニ出願シ其承認ノ證憑ヲ提出シ供託物取扱規程第十條ノ手續ニ依リ供託所ニ請求スヘシ

第四條 貯蓄銀行ノ事業報告書ハ附屬雜形ニ準シ調製スヘシ

第五條 貯蓄銀行條例實施前ヨリ貯蓄預金ノ事業ヲ營ム株式會社ニシテ貯蓄銀行條例施行後ニ其事業ヲ繼續セントスルモノハ商法施行條例第十條ニ依リ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第六條 本規則ニ規定セサルモノハ總テ銀行條例施行細則ニ依ル

●渡込紙製造取締規則 明治二十年七月勅令 第三十六號

第一條 文字畫紋ヲ漉入レタル紙ヲ製造スル者ハ現品ノ見本ヲ添へ管轄東京府廳ニ届出ヘシ違フ者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二條 紙幣兌換銀行券公債證書大藏省証券其他政府發行ノ証券ニ類似ノ文字畫紋又ハ凸ニ文字畫紋ヲ漉入レタル紙ヲ人民ニ於テ製造スルトキ禁ズ違フ者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三條 此規則ハ本年九月一日ヨリ施行ス

●取引所法 明治廿六年三月三日 法律第五號

第一章 取引所ノ設立

第一條 賣買取引ノ繁盛ナル地區内ノ商人ハ政府ノ免許ヲ受ケテ一種若ハ數種ノ物件ノ取引所ヲ設立スルコトヲ得

第二條 同種ノ物件ヲ賣買取引スル取引所ハ一地區一箇所ニ限り設立ス

ルコトヲ得但シ其ノ地區ハ農商務大臣之ヲ定ム

第三條 取引所ノ免許年限ハ十箇年トス但シ土地商業ノ情況ニ依リ更ニ繼續ノ出願ヲ爲スコトヲ得

第四條 株式會社組織ノ取引所ハ營業保證金ヲ政府ニ納ムヘシ

第二章 取引所ノ組織

第五條 取引所ハ土地商業ノ情況及賣買取引スヘキ物件ノ種類ニ依リ會員組織又ハ株式會社組織ト爲スコトヲ得

第六條 會員組織ノ取引所ニ於テハ其ノ取引所ノ仲買人及會員ニ限り賣買取引ヲ爲スコトヲ得

株式會社組織ノ取引所ニ於テハ其ノ取引所ノ仲買人ニ限り賣買取引ヲ爲スコトヲ得

第七條 取引所ハ法人トシテ財産ヲ所有シ及之ヲ處分スルコトヲ得
取引所ノ責任ハ其ノ財産ニ限ルモノトス

第八條 取引所ハ政府ノ認可ヲ受ケ其ノ營業部類ニ屬スル商品ノ倉庫ヲ設置シ及指圖式ノ倉荷證書ヲ發行スルコトヲ得
取引所ハ其ノ倉荷證書ニ對シ前貸ヲ爲シ又ハ買受クルコトヲ得ス

第九條 取引所ノ定款ハ政府ノ認可ヲ受クヘシ

第三章

取引所ノ會員、株主及仲買人

第十條 一箇年以上取引所ノ營業部類ニ屬スル商業ニ從事シタル商人ハ定款ノ規程ニ從ヒ其ノ取引所ノ會員トナルコトヲ得

二箇年以上其ノ取引所ノ營業部類ニ屬スル商業ニ從事シタル商人ニシテ年齢二十五歳以上ノ者ハ政府ノ免許ヲ受ケ其ノ取引所ノ仲買人トナルコトヲ得

一種ノ商業ニ付前項ノ資格ヲ有スル者ハ土地商業ノ情況ニ依リ二種以上ノ物件ヲ賣買取引スル取引所ノ仲買人タル免許ヲ受クルコトヲ得

第十一條 帝國臣民ニ非サレハ取引所ノ會員、株主又ハ仲買人トナルコトヲ得ス

婦女、未成年者、公權剝奪及停止中ノ者復權セサル破産者及家資分散者並ニ取引所ニ於テ除名ノ處分ヲ受ケタル者ハ取引所ノ會員タルコトヲ得ス

重禁錮一年以上ノ刑ニ處セラレ又ハ信用ヲ害スル罪、財産ニ對スル罪、商業及農工業ヲ妨害スル罪ヲ犯シテ刑ニ處セラレ其ノ滿期若ハ赦免後二箇年ヲ經サル者及前項ニ該當スル者ハ取引所ノ仲買人タルコトヲ得ス

第十二條 取引所ノ會員ハ自己ノ計算ヲ以テスルノ外取引所ニ於テ賣買取引ヲ爲スコトヲ得ス

仲買人ハ自己ノ計算ヲ以テスルト他人ノ計算ヲ以テスルトヲ問ハス取引所ニ對シ其ノ賣買取引上一切ノ責任ヲ負フヘシ

第十三條 取引所ノ仲買人ハ其ノ免許ヲ受クルトキ免許料ヲ納ムヘシ
免許料ノ金額ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條 取引所ノ會員及仲買人ハ身元保證金ヲ其ノ取引所ニ納ムヘシ

第十五條 取引所ハ其ノ秩序ヲ保持スルカ爲定款ノ規定ニ依リ會員又ハ仲買人ノ營業ヲ停止シ五百圓以内ノ過怠金ヲ課シ且政府ノ認可ヲ受ケ會員又ハ仲買人ヲ除名スルコトヲ得

第四章 取引所ノ役員

第十六條 取引所ノ役員ハ定款ノ規定ニ依リ會員又ハ株主中ヨリ二箇年以内ノ任期ヲ以テ之ヲ選舉シ政府ノ認可ヲ受クヘシ
取引所ノ役員左ノ如シ

- 理事長 一人
- 理事 二人以上
- 監査役 若干人

理事長及理事ハ會員ニ非サル者ヲ選舉スルモ妨ケナシ

第十一條第三項ニ該當スル者ハ取引所ノ役員ト爲スコトヲ得ス

第十七條 取引所ノ役員及雇人ハ其ノ取引所ニ於テ賣買取引ヲ爲スコトヲ得ス但シ監査役ハ此ノ限ニ在ラス

第五章 取引所ノ賣買取引

第十八條 取引所ノ賣買取引ハ直取引延取引及定期取引ノ三種トス

第十九條 取引所ノ賣買取引ノ方法ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十條 取引所ハ其ノ定款ニ依リ賣買取引ニ付證據金ヲ納メシムルコトヲ得

第二十一條 取引所ハ賣買取引ノ責任ヲ履行セサル者アルトキハ其ノ證據金及身元保證金ヲ以テ損害賠償ノ用ニ供スルコトヲ得

第二十二條 株式會社組織ノ取引所ハ賣買取引ノ違約ヨリ生スル損害ニ付賠償ノ責ニ任スヘシ

前項ノ場合ニ於テ取引所ハ其ノ賠償シタル金額及之ニ關スル諸費ノ追償ヲ其ノ違約者ニ要求スルコトヲ得

第二十三條 取引所ハ賣買取引高ニ應シ賣買雙方ヨリ手数料ヲ徴收スルコトヲ得其ノ率ハ政府ノ認可ヲ受クヘシ

第二十四條 取引所ハ證據金及身元保證金ニ付他ノ債主ニ對シ優先權ヲ有ス

第二十五條 取引所外ニ於テ取引所ノ定期取引ト同一又ハ類似ノ方法ヲ以テ賣買取引ヲ爲スコトヲ得ス

第二十六條 取引所ニ於テ賣買取引シタル物件ノ相場ハ公定相場トス

第六章 取引所ノ監督

第二十七條 農商務大臣ハ取引所ノ行爲法律命令ニ違反シ又ハ公益ヲ害シ若ハ公衆ノ安寧ニ妨害アリト認ムルトキハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

- 一 取引所ノ解散
- 二 取引所ノ停止
- 三 取引所一部ノ停止若ハ禁止
- 四 役員ノ解職
- 五 會員又ハ仲買人ノ營業停止若ハ除名

第二十八條 農商務大臣ハ必要ト認ムルトキハ官吏ヲシテ取引所ノ業務、帳簿、財産其ノ他一切ノ物件及會員又ハ仲買人ノ帳簿ヲ検査セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ取引所ノ役員會員及仲買人ハ其ノ物件ヲ提供シ質問ニ應答スヘシ

第二十九條 農商務大臣ハ必要ト認ムルトキハ取引所ノ定款ヲ改正セシ

又ハ其ノ決議及處分ヲ停止シ禁止シ若ハ取消スコトヲ得

第三十條 取引所任意ノ解散ハ政府ノ認可ヲ受クヘシ

第七章 罰則

第三十一條 第十二條第一項第十七條ノ規定ニ違背シタル者ハ貳拾圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十二條 第二十五條ニ違背シタル者及公定相場ヲ偽リタル者ハ五拾圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

第三十三條 取引所ノ稅則ハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第三十四條 取引所ノ資本金、營業保證金、株式、手数料及積立金ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十五條 本法ハ明治二十六年十月一日ヨリ施行ス

明治九年布告第百五號米商會所條例、明治十一年布告第八號株式取引所條例、明治二十年勅令第十一號取引所條例、明治十三年布告第二十一號、明治十五年布告第四十六號、明治十六年布告第四號及同年布告第二十九號ハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

第三十六條 本法發布以前ヨリ營業スル米商會所、株式取引所及取引所

ハ本法ニ依リ更ニ免許ヲ受ケ其ノ營業ヲ繼續スルコトヲ得但シ本法施行ノ日ヨリ二箇月以前ニ於テ出願ノ手續ヲ爲サ、ルモノハ此ノ限ニ在ラズ

●取引所法施行細則 明治二十六年七月二十二日 農商務省令第十三號

第二條

會員組織ノ取引所ヲ設立セントスルトキハ發起人ハ左ノ事項ヲ

記載シタル發起認可申請書ニ假定款及發起人ノ履歷書ヲ添へ農商務大臣ニ差出シ認可ヲ受クヘシ

- 一 取引所ノ組織名稱位置
- 二 資本金及發起人各自ノ引受クル醜金額
- 三 資本金使用ノ概算
- 四 賣買取引スヘキ物件
- 五 取引所ノ地區ト爲サント欲スル市町村名
- 六 設立ヲ要スル事由
- 七 賣買取引スヘキ物件ノ其市街内ニ於ル集散ノ沿革及現況
- 八 其市街内會員又ハ仲買人タルヲ得ヘキ商人ノ概數但各賣買品毎ニ區別スヘシ

第二條

株式會社組織ノ取引所ヲ設立セントスルトキハ發起人ハ商法第

百五十九條ニ據リ提出スヘキ發起認可申請書ニ第一條第四號乃至第八號ノ事項ヲ記載シタル書面及發起人ノ履歷書ヲ添へ農商務大臣ニ差出シ認可ヲ受クヘシ

第三條

農商務大臣取引所ノ地區ヲ定メタルトキハ隨時之ヲ告示スヘシ

第四條

取引所設立發起人ノ人員ハ賣買取引セントスル物件ノ各種類毎ニ十五人以上タルヘシ

發起人ハ賣買取引セントスル物件ノ各種類ニ對シ人員ノ二分一以上ハ其種類ノ營業者ニシテ會員組織ノ取引所ニ於テハ會員又ハ仲買人株式會社組織ノ取引所ニ於テハ仲買人タルノ資格ヲ有スル者タルヘシ

第五條

取引所ノ定款ニハ左ノ事項ヲ規定スヘシ但其他必要ノ事項ハ之ヲ掲載スヘシ

- 一 取引所ノ名稱位置及地區
- 二 賣買取引スヘキ物件
- 三 資本金、株式ニ關スル事項
- 四 會員仲買人ノ入退、身元保證金、組合、代理人ニ關スル事項
- 五 役員ノ選舉及其職務ニ關スル事項
- 六 會議ニ關スル事項

○取引所法施行細則

○取引所法施行細則

百四十四

- 七 取引所手数料仲買人口錢ニ關スル事項
 - 八 仲買人ノ業務ニ關スル事項
 - 九 市場ノ開閉及休業ニ關スル事項
 - 十 賣買及受渡ニ關スル事項
 - 十一 倉庫ニ關スル事項
 - 十二 公定相場ニ關スル事項
 - 十三 取引所ノ帳簿、記録及會員仲買人ノ帳簿ニ關スル事項
 - 十四 取引所ノ出納決算ニ關スル事項
 - 十五 準備ノ積立金保管及出納ニ關スル事項
 - 十六 仲裁ニ關スル事項
 - 十七 違約處分ニ關スル事項
 - 十八 定款ノ變更及解散ニ關スル事項
 - 第六條 會員組織ノ取引所ノ發起人ニ於テ發起ノ認可ヲ得タルトキハ少クトモ十四日間之ヲ公告シ會員ヲ募集スヘシ其公告中ニハ認可ノ年月日、第一條第一號乃至第四號ノ事項、取引所ノ地區及發起人ノ氏名ヲ掲載シ且各會員申込人ニ假定款ヲ展閱セシムル旨ヲ附記スヘシ
- 株式會社組織ノ取引所ニ於テ目論見書ヲ公告シ株主ヲ募集スルトキハ

其公告中ニハ商法第六十條規定ノ外第一條第四號ノ事項及取引所ノ地區ヲ掲載スヘシ

- 第七條 會員組織ノ取引所ノ發起人ハ會員ヲ募集シタル後創業總會ヲ開クヘシ其總會ニ於テ總會員申込人ノ半数以上ノ承諾ヲ得テ定款ヲ定メ役員ヲ選舉シ後テ設立免許申請書ニ會員申込簿ヲ添ヘ農商務大臣ヘ差出シ免許ヲ受クヘシ
- 株式會社組織ノ取引所ノ發起人ハ商法第六十六條ニ據リ設立免許申請書ヲ農商務大臣ニ差出シ免許ヲ受クヘシ
- 取引所ノ發起人ハ設立免許申請ト同時ニ定款及役員認可申請書ヲ農商務大臣ニ差出シ認可ヲ受クヘシ但役員ノ履歷書ヲ添付スヘシ
- 第八條 役員ノ認可ヲ得タルトキハ發起人其事務ヲ役員ニ引渡スヘシ
- 第九條 役員ニ於テ開業ノ準備ヲ整頓シタルトキハ開業ノ日ヲ定メ農商務大臣ニ届出ツヘシ但株式會社組織ノ取引所ニ於テハ開業届出前ニ營業保證金納入ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第十條 取引所ハ設立ノ免許ヲ得タル日ヨリ六箇月以内ニ開業セサルトキハ其免許ノ効力ヲ失フモノトス
- 第十一條 取引所ノ仲買人ノ免許ヲ得ントスル者ハ其願書ニ履歷書ヲ添

○取引所法施行細則

百四十五

農商務大臣ニ差出スヘシ

第十二條 農商務大臣仲買人ノ免許ヲ與ヘタルトキハ地方長官ヲ經由シ
免許狀ヲ取引所ニ送付シ取引所ハ免許料ノ金額ニ相當スル登記印紙ヲ
貼用シタル受書及身元保證金シ差出サシメタル上之ヲ本人ニ交付スヘシ

免許狀ノ受書ハ速ニ取引所ヨリ農商務大臣ニ差出スヘシ

第十三條 仲買人廢業シタルトキハ免許狀ヲ添へ農商務大臣ニ届出ツヘシ

第十四條 仲買人免許狀ヲ紛失シタルトキハ事由ヲ具シ農商務大臣ニ申
出テ更ニ其交付ヲ請フヘシ

仲買人氏名ヲ變更シタルトキハ免許狀ヲ添へ農商務大臣ニ申出テ書換
ヲ請フヘシ

第十五條 取引所ハ左ノ報告書ヲ調製シ各期限ニ從ヒ農商務大臣ニ差出
スヘシ

- 一 毎日公定相場表
- 二 毎月賣買表
- 三 毎月商品集散及商況報告

以上翌月十五日限リ發送

四 收支豫算表

以上議定後十五日限リ發送

五 每半季財産目錄

六 每半季貸借對照表

七 每半季損益計算表

八 每半季末日現在會員、株主、仲買人氏名表

以上決算期後二十日限リ發送

第十六條 取引所ヨリ農商務大臣ニ差出スヘキ文書ハ總テ地方長官ヲ經
由スヘシ

地方長官ハ前項書類ヲ接受シタルトキハ意見書ヲ添附シテ之ヲ農商務
大臣ニ差出スヘシ但取引所設立發起認可申請書ヲ接受シタルトキハ特
ニ發起人ノ身元ヲ詳查スヘシ

第十七條 仲買人ヨリ農商務大臣ニ差出スヘキ文書ハ總テ之ヲ取引所ニ
差出シ取引所ハ地方長官ヲ經由シテ農商務大臣ニ差出スヘシ

●取引所稅法明治二十六年三月三日
法第六號

第一條 取引所ハ定期賣買ニ付左ノ割合ニ從ヒ稅金ヲ納ムヘシ

- 一 商品、有價證券 賣買各約定代金高萬分ノ六箇
- 一 國債及地方債証券 同 萬分ノ三箇
- 第二條 定期内ニ於ケル轉賣人ノ賣高及買戻人ノ買高ニ係ル税金ハ之ヲ免除ス
- 第四條 取引所ハ每一箇月分賣買取引ヲ爲シタル各約定代金高ヲ翌月五日迄ニ管廳ニ届出ヘシ
- 取引所稅額ハ前項ノ届出ニヨリ地方長官之ヲ定ム
- 第五條 取引所税金ハ每一箇月分ヲ翌月二十日マテニ納ムヘシ
- 第六條 當該官吏ハ地方長官ノ命令ニ依リ隨時取引所並ニ會員仲買人ニ就キ其ノ賣買取引ニ關スル帳簿書類ヲ檢査スルコトアルヘシ
- 第七條 第四條ノ届出ヲ詐リ脫稅ヲ圖リ又ハ脫稅シタルトキハ取引所理事長ヲ百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ仍取引所ヨリ其ノ脫稅ニ係ル金額ヲ徵收スヘシ
- 第八條 第四條ノ届出ヲ怠リタルトキハ理事長ヲ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス
- 第九條 本法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヰス

附 則

第十條 本法ハ取引所法實施ノ日ヨリ施行ス

●議會并議員保護 明治二十二年十一月七日
法律第二十八號

- 第一條 法律ヲ以テ組織シタル議會ニ對シ公然誹毀侮辱シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ拾圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス但議會ノ公訴ヲ待テ其罪ヲ論ス
- 第二條 前條議會ノ議員ニ對シ其公務上ノ言論行爲ニ付公然誹毀侮辱シタル者又ハ議員ニ暴行ヲ加ヘタル者ハ一年以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス
- 第三條 議員其公務ヲ行フニ當リ暴行脅迫ヲ以テ其言論行爲ヲ妨害シタル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス
- 第四條 議員ノ職ヲ辭セシムルノ目的又ハ其公務上ノ言論行爲ヲ妨害セシトスル目的ヲ以テ議員ヲ脅迫シ又ハ恐喝シタル者ハ十一日以上二月以下ノ重禁錮ニ處シ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス但被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス
- 第五條 第二條第三條ノ罪ヲ犯シ因テ議員ヲ毀傷シタル者ハ刑法毆打創

傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加ヘ重キニ從テ處斷ス

●衆議院議員選舉法罰則

(明治二十二年二月第三號法律ハ)
罰則ノミヲ擧ケ他ハ省略ス

第八十九條 納稅額年齡住所及其ノ他選舉資格ニ必要ナル事項ヲ詐稱シ

選舉人名簿ニ記載セラレタル者ハ四圓以上四拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若ハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲

スコトヲ禁止スルノ目的ヲ以テ直接又ハ間接ニ金錢物品手形若ハ公私

ノ職務ヲ選舉人ニ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シタル者ハ五圓以上

五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

其ノ授與又ハ約束ヲ受ケタル者モ亦同シ

第九十一條 直接又ハ間接ニ金錢物品手形若ハ公私ノ職務ヲ選舉人ニ授

與シ又ハ授與スルコトヲ約束シテ投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ

若ハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ禁止シタル者ハ刑法第二百三十四條

ノ例ヲ以テ論ス

其ノ授與又ハ約束ヲ受ケ投票ヲ爲シ又ハ投票ヲ爲サ、ル者亦同シ

第九十二條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若ハ他人ノ爲ニ投票ヲ

爲スコトヲ抑止スル目的ヲ以テ選舉人ニ暴行ヲ加ヘタル者ハ一月以上

六月以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第九十三條

選舉人ニ暴行ヲ加ヘテ投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ

若ハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止シタル者ハ三月以上二年以下ノ

輕禁錮ニ處シ拾圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第九十四條 選舉人ヲ強逼シ又ハ投票所若ハ選舉會場ヲ騷擾シ又ハ投票

函ヲ抑留毀壞若ハ劫奪スルノ目的ヲ以テ多衆ヲ嘯聚シタル者ハ六月以

上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ拾圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其ノ情ヲ知テ嘯聚ニ應シ勢ヲ助ケタル者ハ十五日以上二月以下ノ輕禁

錮ニ處シ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第九十五條 犯罪者戎器又ハ兇器ヲ携帯シタルトキハ各々本刑ニ一等ヲ加フ

票所若ハ選舉會場ヲ騷擾シ又ハ投票函ヲ抑留毀壞若ハ劫奪シタル者ハ

四月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ貳拾圓以上貳百圓以下ノ罰金ヲ附加

ス

犯罪者戎器又ハ兇器ヲ携帯シタルトキハ各々本刑ニ一等ヲ加フ

第九十六條 多衆ヲ嘯聚シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ重禁獄ニ處ス

其情ヲ知テ嘯聚ニ應シ勢ヲ助ケタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ

處ス

犯罪者戎器又ハ兇器ヲ携帶シタルトキハ各々本刑ニ一等ヲ加フ
第九十七條 演説又ハ新聞紙若ハ其ノ他ノ文書ヲ以テ人ヲ教唆シ前三條
ノ罪ヲ犯サシメタル者ハ刑法第百五條ノ例ニ依ル其ノ教唆ノ効ナキ者
モ仍本刑ニ二等ヲ減シ處斷ス

第九十八條 戎器又ハ兇器ヲ携帶シテ投票所若ハ選舉會場ニ入りタル者
ハ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十九條 當選人ニ於テ第八十九條ヨリ第九十八條ニ至ルマテノ刑ニ
處セラレタルトキハ其ノ當選ハ無効トス

第一百條 他人ノ姓名ヲ詐稱シテ投票ヲ爲シタル者及第十四條ニ依リ選舉
人タルコトヲ得サル者投票ヲ爲シタルトキハ四圓以上四拾圓以下ノ罰
金ニ處ス

第一百一條 前數條ノ罪ヲ犯シ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ再ヒ罰金ノ刑
ニ處セラレタル者ハ三年以上七年以下選舉權及被選權ヲ停止ス

第一百二條 立會人正當ノ事故ナクシテ此ノ法律ニ規定シタル義務ヲ缺ク
トキハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百三條 本章ニ規定シタル罰則ノ外刑法ニ正條アルモノハ各々其ノ條
ニ依リ重キニ從テ處斷ス

第一百四條 凡テ選舉ニ關ル犯罪ハ六箇月ヲ以テ期滿免除トス

第一百五條 此ノ罰則ハ第十一章ノ各條ト共ニ投票所及選舉會場ニ貼示ス
ヘシ

○衆議院議員選舉法罰則補則 明治二十三年五月廿九日
法律第四十號

第一條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若シハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲
スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ選舉會場又ハ投票所ノ近傍若クハ選舉
人往來ノ途中ニ於テ選舉人ニ酒食ヲ供シ又ハ選舉會場若クハ投票所ニ
往復スル爲車馬ノ類ヲ給シ及其供給ヲ受ケタル者又ハ選舉人ノ爲ニ選
舉會場若クハ投票所ニ往復スル車馬賃又ハ路費若クハ休泊料ノ類ヲ代
辨シ又ハ代辨スルコトヲ約束シ及其ノ代辨又ハ約束ヲ受ケタル者ハ衆議
院議員選舉法第九十條ノ例ニ依リ處斷ス

第二條 第一條ニ記載シタル目的ヲ以テ選舉人ヲ脅逼シ拐引シ若クハ其
往來ノ便ヲ妨ケ若クハ詐僞ノ手段ヲ以テ其選舉權ノ施行ヲ妨害シタル
者ハ衆議院議員選舉法第九十二條ノ例ニ依リ處斷ス

第三條 衆議院議員選舉法第九十三條ノ例ニ依リ處斷ス

第三條 被選人タルコトヲ得ル者ヲ指シテ被選人タルコトヲ得ズ又ハ當

選者承諾スルノ意ナシトノ虚報ヲ流傳セシメタル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第四條 選舉會場又ハ投票所所在ノ都市内ニ於テ選舉ノ氣勢ヲ張ル爲多聚集合シ若クハ隊伍ヲ組ミテ往來シ又ハ篝火松明ヲ焚キ若クハ鐘鼓法螺喇叭ノ類ヲ鳴ラシ旌幟其他ノ標章ヲ用ヰル等ノ所業ヲ爲シ警察官ノ制止ヲ受クルモ仍其命ニ從ハサル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第五條 第一條ニ記載シタル目的ヲ以テ張札ノ類ヲ公然揭示シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第六條 當選人第一條乃至第四條ニ依リ刑ニ處セラレタルトキハ衆議院議員選舉法第九十九條ノ例ニ依ル

第七條 本法ニ關スル犯罪ハ衆議院議員選舉法百四條ノ例ニ依ル

○府縣會議員選舉規則 明治二十二年二月廿六日 法律第六號

第一條 戶長ハ毎年九月十五日ヲ期トシ其役場管内ノ撰舉人名原簿ヲ調査シ其副本ヲ十月一日迄ニ郡長ニ差出スヘシ撰舉人名原簿ニハ撰舉人ノ氏名、住所、生年月、納ムル所ノ地租ノ總額並ニ其納稅地ヲ記載ス

第二條 郡長ハ戶長ヨリ差出ス所ノ原簿ヲ調査シ毎年十月十五日ヲ期トシ其役所管内ノ撰舉人名簿ヲ調製スヘシ

第三條 區長ハ毎年九月十五日ヲ期トシ其役所管内ノ撰舉人名原簿ヲ調製シ十月十五日ヲ期トシ撰舉人名簿ヲ調製スヘシ撰舉人名原簿ニ記載スヘキ事項ハ第一條第二項ニ同シ

第四條 府縣會規則第十三條ノ年齢及ヒ年限ヲ算スルハ撰舉人名簿調製ノ期日ヲ以テ限界ト爲シ其地租納額ヲ算スルハ原簿調製ノ期日ヨリ前一年以上之ヲ納メ猶引續キ納ムル者ニ限ルヘシ但家督ニ依リ財産ヲ相續シタル者ハ前財產ノ納稅額ヲ以テ其者ノ納稅額ニ算入スヘシ

第五條 撰舉人其住居スル區町村ノ外ニ於テ地名ヲ納ムルトキハ其納稅地區戶長ノ証狀ヲ添ヘ撰舉人名原簿調製ノ期日迄ニ其住居地ノ區戶長ニ届出ヘシ前項ノ届出ヲ爲サ、ル納稅額ハ撰舉及ヒ被撰舉ノ資格ニ算入スルコトヲ得ス

第六條 郡區長ハ十月二十日ヨリ十五日間其役所管内ノ撰舉人名原簿及ヒ撰舉人名簿ノ寫ヲ其郡區役所ニ於テ縦覽セシムヘシ但關係者ノ請求アルトキハ戶長役場ニ於テモ其調製シタル原簿ノ寫ヲ示スヘシ

第七條 撰舉資格アル者撰舉人名簿ニ於テ脱漏又ハ誤載アルコトヲ發見

シタルトキハ其縦覽期限内ニ之ヲ郡區長ニ申立ヘシ

第八條 郡區長ニ於テ脱漏又ハ誤載ノ申立テ受ケタルトキハ十日以内ニ之ヲ審査判定シ其申立ト當ナルトキハ直ニ其人名ヲ記入又ハ削除シ其由ヲ管内ニ告示スヘシ但那ニ在テハ仍ホ當人住居地ノ戸長ニ通知スヘシ

第九條 前條審査ノ爲メ必要アル場合ニ於テハ申立人又ハ當人ヲ召喚審問スルコトヲ得

第十條 申立人又ハ當人ニ於テ郡區長ノ判定ニ不服アルトキハ判定ノ日ヨリ七日以内ニ始審裁判所ニ出訴スルコトヲ得但其判定ハ出訴ノ爲メ停止セサルモノトス

第十一條 始審裁判所ニ於テ前條ノ訴訟ヲ受取リタルトキハ他ノ訴訟ノ順序ニ拘ハラズ速ニ其裁判ヲ爲スヘシ

第十二條 前條始審裁判所ノ裁判ハ上告スルコトヲ得ト雖モ控訴スルコトヲ許サス但其裁判ハ上告ノ爲メ停止セサルモノトス

第十三條 撰舉人名簿ハ十一月十五日ヲ以テ確定期限トシ次年ノ改正期日迄之ヲ据置クモノトス但裁判言渡ニ依リ訂正スヘキモノハ郡區長ニ於テ其言渡ヲ受ケタルトキヨリ二十四時間以内ニ之ヲ訂正シ其由ヲ管

内ニ告示スヘシ但那ニ在テハ仍ホ當人住居地ノ戸長ニ通知スヘシ
前項ノ外次年ノ改正期日前ト雖モ撰舉ヲ行フ前ニ於テ撰舉權ヲ失ヒ若クハ撰舉權ヲ有セザリシコトヲ發見シタル場合ニ於テハ郡區長ハ其人名ヲ削除スヘシ 毎年確定ノ撰舉人名簿ハ臨時ノ補缺撰舉ニモ之ヲ使用スルモノトス

第十四條 撰舉投票ハ通常二月若クハ三月ニ於テ之ヲ行フヘシ但解散及ヒ補闕撰舉ノ場合ハ此限ニ在ラス 前項ノ時期ハ府縣ノ情況ニ依リ府縣知事ニ於テ府縣會ノ議決ヲ取り内務大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ變更スルコトヲ得

第十五條 議員ヲ選舉スヘキトキハ少ナクトモ一箇月前ニ府縣知事ヨリ其月日、選舉開會竝ニ投票函閉鎖ノ時刻撰舉ヲ行フヘキ郡區ノ名及ヒ選舉スヘキ議員ノ數ヲ記シ之ヲ管内ニ告示スヘシ若シ正議員ノ外補闕員ノ増選ヲ要スルトキハ各別ニ其數ヲ記スヘシ 選舉開會ヨリ投票函閉鎖迄ノ時間ハ四時間以上十時間以内タルヘシ

第十六條 前條ノ告示アリタルキハ郡區長ハ前條各事項竝ニ選舉開會ノ場所、管内ニ告示スヘシ

第十七條 郡區長ハ其管内ノ選舉人中ヨリ立會人五名ヲ定メ遅クトモ選

舉ノ期日ヨリ五日以前ニ之ヲ本人ニ通知シ選舉ノ當日選舉會場ニ參會セシムヘシ 選舉分會ヲ設ケタル場合ニ於テハ本會分會トモ各其會場所屬ノ選舉人ニ就キ前項ニ依リ立會人ヲ定ムヘシ 立會人ハ正當ノ事故ナクシテ其職ヲ辭スルコトヲ得ス立會人若シ選舉開會ノ時刻ニ至リ出頭セサルトキハ參會ノ選舉人中最多額ノ地租ヲ納ムル者ヲ以テ假ニ其闕ヲ補フヘシ

第十八條 郡區長ハ選舉會長トナリ選舉會場ヲ管理スヘシ郡區長事故アルトキハ代理書記ヲ以テ之ニ充ツヘシ 選舉會書記ハ郡區長ニ於テ郡區書記中ヨリ之ヲ命スヘシ

第十九條 選舉人ハ選舉開會ノ時刻ヨリ投票函閉鎖ノ時刻ニ至ル迄何時タリトモ到着ノ順序ニ從ヒ投票スルコトヲ得

第二十條 撰舉會場ニハ錠ヲ付シタル投票函及ヒ撰舉錄竝ニ筆墨ヲ備ヘ置クヘシ投票函ハ投票ニ先チ參集シタル撰舉人ノ面前ニ於テ之ヲ開キ其空虛ナルコトヲ示スヘシ

第二十一條 投票用紙ハ府縣知事ノ定ムル所ニ依リ各郡區ニ於テ一定ノ式ヲ用ヒ投票ノ當日撰舉會場ニ備ヘ置キ撰舉會長又ハ書記ヨリ之ヲ各撰舉人ニ交付スヘシ 用紙ハ正議員ノ外補闕員ノ増選ヲ要スル場合ニ

於テハ之ヲ甲乙二種ニ分チ甲種ハ正議員ノ爲メノ用紙ト爲シ乙種ハ補闕員ノ爲メノ用紙ト爲スヘシ

第二十二條 選舉人ハ自ラ投票ヲ行フヘシ代人ニ託スルコトヲ得ス

第二十三條 選舉人ハ選舉會場ニ於テ投票用紙ニ被選舉人竝ニ自己ノ氏名ヲ記シ捺印スヘシ但氏名ノ外住所若クハ位階勳等其他敬稱ノ類ヲ記スルハ妨ナシ

第二十四條 選舉人投票ヲ爲サントスルトキハ選舉會長ハ其住所氏名ヲ選舉人名簿ニ照シ名簿ニ消印ヲ捺シ選舉人ヲシテ自ラ之ヲ投票函ニ投入セシムヘシ

第二十五條 選舉人ニシテ文字ヲ書スルコト能ハサル由チ申立ルトキハ選舉會長ハ書記ヲシテ代書セシメ之ヲ本人ニ讀聞セ竝ニ立會人ニ示シタル後捺印投票セシムヘシ

第二十六條 選舉ニ關スル吏員及ヒ選舉人ノ外何人タリトモ選舉會場ニ入ルコトヲ得ス但會場臨視ノ職權アル官吏ハ此限ニ在ラス

第二十七條 選舉人名簿ニ記載セラレタル者ノ外投票スルコトヲ得ス但記載セラルヘキ裁判言渡書ヲ所持シテ參會スル者ハ此限ニ在ラス

第二十八條 選舉人ハ會場ニ於テ演說討論ヲ爲シ若クハ喧噪ニ涉リ又ハ

五ニ投票ヲ勸誘スルコトヲ得ス

第二十九條 選舉會場ニ於テ秩序ヲ紊ル者アルトキハ選舉會長ハ之ヲ警戒シ其命ニ從ハサルトキハ之ヲ會場外ニ退出セシムヘシ但其投票ヲ爲サシムル爲メ再ヒ之ヲ呼入ルコトヲ得 選舉會長ハ會場取締ノ爲メ必要ト認ムルトキハ警察官ノ助力ヲ求ムルコトヲ得

第三十條 選舉權ナク又ハ他人ノ氏名ヲ詐稱シテ投票セントスル者アルトキハ選舉會長ハ其投票ヲ取上クヘシ

第三十一條 投票函閉鎖ノ時刻ニ至ルトキハ選舉會長ハ其由ヲ宣告シ書記ヲシテ一時選舉會場ノ入口ヲ閉サシメ參會者ニ問フニ未ダ投票セザリシ者ナキヤチ以テシ若シ之アルニ於テハ直ニ投票セシメタル後投票函ヲ閉鎖スヘシ

第三十二條 選舉會場ニハ點數簿二冊ヲ備ヘ書記二人ヲシテ各一冊ヲ擔任セシムヘシ

第三十三條 投票函閉鎖後十分時間ヲ經過スレハ選舉會長ハ立會人ノ面前ニ於テ投票函ヲ開キ逐次投票ヲ取出シ披封點檢シテ之ヲ書記ニ付シ選舉人被選舉人ノ氏名ヲ朗讀セシメ點數簿擔任ノ書記ヲシテ被選舉人ノ得點ヲ點數簿ニ記入セシムヘシ 前項ノ點檢中若シ無効ノ投票ヲ發

見シタルハ之ニ抹線ヲ加ヘ一部分無効ノ者ハ其部分ニ抹線ヲ加フヘシ

第三十四條 選舉人ハ投票點檢ノ際之ヲ參觀スルコトヲ得

第三十五條 投票點數ノ記入ヲ終リタルトキハ選舉會長ハ書記ヲシテ各被選舉人得點ノ合計ヲ點數簿ニ記入シテ之ヲ朗讀セシムヘシ

第三十六條 點數記入竝ニ計算其他書記ノ事務ハ總テ選舉會長竝ニ立會人ノ面前ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第三十七條 點數ノ合計ヲ記入シ終リタルトキハ選舉會長ハ立會人ノ面前ニ於テ多數ヲ得タルモノヨリ順次ニ其被選舉權ノ有無ヲ査定シ同數ハ年長ヲ取り同年ハ抽籤ヲ用ヒ其當選ヲ定ムヘシ但即時ニ其當選ニ必要ナル事實ヲ確知シ得サルトキハ調査ニ必要ナル時日ノ間其査定ヲ延ハスコトヲ得 分會ヲ設ケタル場合ニ於テハ第五十條ニ依リ當選ヲ定ムル者トス 當選タルヘキ多數ヲ得タル者ノ被選舉權ヲ有セサルコトヲ發見シタルトキハ順次其次点者ヲ以テ當選ト爲スヘシ 此場合ニ於テハ郡區長ハ當選者ノ氏名ト共ニ其事由ヲ告示スヘシ 當選タルヘキ多數ヲ得タル被選舉人他郡區ノ人ニシテ直ニ其當選ヲ定メ難キトキハ第四十一條ニ依リ之ヲ定ムヘシ

第三十八條 点檢簿ノ投票ハ之ヲ取纏メ封緘ノ上選舉會長立會人竝ニ書

互ニ投票ヲ勸誘スルニトテ得ス

第二十九條 選舉會場ニ於テ秩序ヲ紊ル者アルトキハ選舉會長ハ之ヲ警戒シ其命ニ從ハサルトキハ之ヲ會場外ニ退出セシムヘシ但其投票ヲ爲サシムル爲メ再ヒ之ヲ呼入ル、コトヲ得 選舉會長ハ會場取締ノ爲メ必要ト認ムルトキハ警察官ノ助力ヲ求ムルコトヲ得

第三十條 選舉權ナク又ハ他人ノ氏名ヲ詐稱シテ投票セントスル者アルトキハ選舉會長ハ其投票ヲ取上クヘシ

第三十一條 投票函閉鎖ノ時刻ニ至ルトキハ選舉會長ハ其由ヲ宣告シ書記ヲシテ一時選舉會場ノ入口ヲ閉サシメ參會者ニ問フニ未ダ投票セザリシ者ナキヤヲ以テシ若シ之アルニ於テハ直ニ投票セシメタル後投票函ヲ閉鎖スヘシ

第三十二條 選舉會場ニハ點數簿二冊ヲ備ヘ書記二人ヲシテ各一冊ヲ擔任セシムヘシ

第三十三條 投票函閉鎖後十分時間ヲ經過スレハ選舉會長ハ立會人ノ面前ニ於テ投票函ヲ開キ逐次投票ヲ取出シ披封點檢シテ之ヲ書記ニ付シ選舉人補選舉人ノ氏名ヲ朗讀セシメ點數簿擔任ノ書記ヲシテ被選舉人ノ得點ヲ點數簿ニ記入セシムヘシ 前項ノ點檢中若シ無効ノ投票ヲ發

見シタルキハ之ニ捺線ヲ加ヘ一部分無効ノ者ハ其部分ニ捺線ヲ加フヘシ

第三十四條 選舉人ハ投票點檢ノ際之ヲ參觀スルコトヲ得

第三十五條 投票點數ノ記入ヲ終リタルトキハ選舉會長ハ書記ヲシテ各被選舉人得點ノ合計ヲ點數簿ニ記入シテ之ヲ朗讀セシムヘシ

第三十六條 點數記入並ニ計算其他書記ノ事務ハ總テ選舉會長並ニ立會人ノ面前ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第三十七條 點數ノ合計ヲ記入シ終リタルトキハ選舉會長ハ立會人ノ面前ニ於テ多數ヲ得タルモノヨリ順次ニ其被選舉權ノ有無ヲ查定シ同數ハ年長ヲ取り同年ハ抽籤ヲ用ヒ其當選ヲ定ムヘシ但即時ニ其當選ニ必要ナル事實ヲ確知シ得サルトキハ調査ニ必要ナル時日ノ間其查定ヲ延ハスコトヲ得 分會ヲ設ケタル場合ニ於テハ第五十條ニ依リ當選ヲ定ムル者トス 當選タルヘキ多數ヲ得タル者ノ被選舉權ヲ有セサルコトヲ發見シタルトキハ順次其次点者ヲ以テ當選ト爲スヘシ 此場合ニ於テハ郡區長ハ當選者ノ氏名ト共ニ其事由ヲ告示スヘシ 當選タルヘキ多數ヲ得タル被選舉人他郡區ノ人ニシテ直ニ其當選ヲ定メ難キトキハ第四十一條ニ依リ之ヲ定ムヘシ

第三十八條 点檢簿ノ投票ハ之ヲ取纏メ封緘ノ上選舉會長立會人並ニ書

記之ニ捺印スヘシ 前項ノ投票ハ封印ノ儘附屬書類ト共ニ一年間郡區
役所ニ保存スヘシ若シ選舉ニ關シ訴訟又ハ告訴告發アルトキハ一年ヲ
過グルモ其裁判確定ニ至ルマテ之ヲ保存スヘシ

第三十九條 左ノ事項ハ之ヲ選舉錄中ニ記入スヘシ

- 一 選舉開會ノ月日並ニ時刻
- 二 選舉會長及ヒ書記ノ氏名
- 三 立會人ノ住所氏名
- 四 第二十七條但書ニ依リ投票セシメタルトキハ其願未
- 六 投票函閉鎖ノ時刻
- 七 各被選舉人ノ得点數
- 八 當選人ノ住所氏名若シ直ニ當選ヲ定メ難キトキハ其事由
- 九 選舉閉會ノ時刻
- 十 右ノ外選舉會長ニ於テ緊要ト認ムル事項

當選ノ査定ヲ延シタルトキハ其結果ヲ追記スヘシ

第四十條 選舉錄ニハ選舉會長立會人並ニ書記之ニ署名捺印スヘシ
第四十一條 當選タルヘキ多數ヲ得タル被選舉人他郡區ノ人ナルトキハ
郡區長ハ其本籍地ノ郡區長ニ照會シ被選舉權ヲ有スルヤ否ヤノ證明ヲ

求ムヘシ若シ其權ヲ有セザルトキハ第三十七條第三項ノ例ニ依ル
第四十二條 左ノ投票ハ無効トス

- 一 選舉人名簿ニ記載ナキ者ノ投票但裁判言渡書ヲ所持シタルニ依リ
投票シタル者ハ此限ニ在ラス
- 二 成規ノ用紙ヲ用ヒサルモノ
- 三 選舉人又ハ被選舉人ノ氏名ヲ記載セサルモノ
- 四 選舉人ノ氏名ノ讀ミ難キモノ又ハ何人タルヲ知ルヘカラサルモノ
- 五 選舉人被選舉人ノ住所氏名ノ外餘事ヲ記入スルモノ但位階勳等其
他敬稱ノ類ヲ記入スルモノハ餘事ト見做スノ限ニ在ラス
- 六 被選舉人ノ氏名ノ讀ミ難キモノ又ハ其何人タルヲ知ルヘカラサル
モノ但列記ノ被選舉人ニ付テハ仍ホ其効アリトス
- 七 被選舉權ナキ者ヲ記載シタルモノ但列記ノ被選舉人ニ付テハ仍ホ
其効アリトス

第四十三條 投票ニ記載ノ被選舉人其選舉スヘキ定數ニ足ラサルモノ之
ヲ無効トセス又定數ニ過クルトキハ前條第六第七ニ觸ル、モノアルト
否トヲ問ハス末尾ヨリ其過數ヲ順次ニ棄却スヘシ 一人ノ氏名ヲ複記
シタルモノハ一人トシテ計算スヘシ

第四十四條 選舉人又ハ被選舉人ノ住所氏名ニ誤字脱字アリ又ハ假名字ヲ用フルモ其何人ノ何人ヲ選舉シタルコト明瞭ナルトキハ其投票ヲ有効トスヘシ

第四十五條 投票効力ノ有無ニ付疑義アルトキハ立會人ノ意見ヲ聞キ選舉會長之ヲ決定スヘシ其決定ニ對シテハ選舉會場ニ於テ異議ヲ申立ルコトヲ得ス

第四十六條 郡區ノ區域廣濶ニ過クルカ又ハ郡區内島嶼ノ地アリテ選舉人ノ參會ニ不便ナル爲メ己ムヲ得サル場合ニ於テハ郡區長ハ府縣知事ノ指揮ニ依リ又ハ府縣知事ノ許可ヲ得テ選舉分會ヲ設クルコトヲ得分會ノ爲メ特ニ選舉人名簿ヲ調製スルヲ要セスト雖モ選舉人名簿中ニ各選舉人所屬ノ會場ヲ區別シ豫メ分會場所屬ノ區域並ニ會場ヲ管内ニ告示スヘシ

第四十七條 分會ハ本會ト同日時ニ之ヲ開キ投票時間モ亦本會ト同一タルヘシ其他選舉ノ手續會場ノ取締選舉録ノ記載等ハ總テ本會ニ準スヘシ但島嶼其他遠隔ノ地ニ限リ府縣知事ニ於テ適宜其投票ノ期日ヲ異ニシ選舉本會ノ投票期日迄ニ其投票函ヲ送致セシムルコトヲ得

第四十八條 分會選舉會長ハ上席郡區書記ヲ以テ之ニ充ツヘシ分會書記

ハ郡區長ニ於テ其郡區書記又ハ其他ノ戶長又ハ戶長役場吏員中ヨリ之ヲ命スヘシ

第四十九條 分會ニ於テ投票函ヲ閉鎖シタルキハ之ニ封印シ選舉會長及ヒ書記ノ中少クトモ一名付添直ニ本會場ニ送付スヘシ若シ立會人又ハ他ノ選舉人同行ヲ望ム者アルキハ之ヲ許スヘシ

第五十條 分會ヲ設ケタルトキハ本會場ニ於テハ投票函閉鎖ノ後分會投票函ノ到着ヲ待チ第三十三條ノ手續ヲ爲シ合算ノ上總數ヲ以テ當選ヲ定ムヘシ

第五十一條 當選者ノ定マリタルトキハ郡區長ハ直ニ其旨ヲ當選者ニ通知スヘシ 當選者當選ノ通知ヲ受ケタルトキハ五日以内ニ當選承諾ノ届出ヲ爲スヘシ若シ當選ノ通知ヲ爲シタル日ヨリ十日以内ニ承諾ノ届出ヲ爲サ、ルトキハ當選ヲ辭シタルモノト見做スヘシ 當選ヲ辭シタル者アルトキハ郡區長ハ次點者ヲ以テ當選者ト爲スヘシ

第五十二條 選舉ノ結果ハ郡區長ヨリ之ヲ府縣知事ニ報告スヘシ

第五十三條 當選者ノ住所氏名ハ府縣知事ニ於テ之ヲ管内ニ告示スヘシ
第五十四條 府縣會規則第十條第二項ニ依リ補闕員ヲ增選スルトキハ其選舉ハ正議員選舉ト同會ニ於テ同時ニ之ヲ行フ但其投票函ハ正議員ノ

投票函ト異ニスヘシ

第五十五條 一人コシテ正議員補關員ノ選ニ併セ當ルトキハ之ヲ正議員ト爲シ其次點者ヲ以テ補關員ト爲スヘシ

第五十六條 當選ノ査定ニ不服アル關係者ハ當選者ノ氏名告示ヨリ十日以内ニ府縣知事ニ其更正又ハ選舉取消ノ申立ヲ爲スコトヲ得府縣知事ノ判定ニ服セサル者ハ二十日以内ニ控訴院ニ出訴スルコトヲ得但其判決ハ終審トス

第五十七條 當選者確定ノ後其當選者ノ被選舉權ヲ有セザリシコトヲ發見スルトキハ府縣知事ハ其當選ヲ取消シ其次點者ヲ以テ當選ト爲スヘシ但此場合ニ於テハ其事由ヲ管内ニ告示スヘシ

第五十八條 選舉全會ヲ取消シ更ニ選舉ヲ命スルハ其選舉ノ規定ニ違フ場合ニ限ル但シ定規ニ違フ所アルモ其事ノ輕微ニシテ選舉ノ結果ニ異動ヲ生セス又ハ其事ノ更正シ得ヘキ者ハ取消ノ限ニ在ラス 選舉全會ノ取消ハ府縣知事ヨリ內務大臣ニ具狀シ其認可ヲ經テ之ヲ爲スヘシ但其事由ヲ管内ニ告示スヘシ

第五十九條 納稅額年齡其他選舉資格ニ必要ナル事項ヲ詐稱シ選舉人名簿ニ記載セラレタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス其被選舉資

格ニ必要ナル事項ヲ詐稱シテ當選者ト爲リタル者又ハ其資格ヲ有セザルモ其事ヲ告ケスノ當選者ト爲リタル者ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若クハ他人ノ爲メニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ直接又ハ間接ニ金錢物品ヲ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シタル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス其授與又ハ約束ヲ受ケタル者モ亦同シ直接又ハ間接ニ金錢物品ヲ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シテ投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若クハ他人ノ爲メニ投票ヲ爲スコトヲ抑止シタル者ハ刑法第二百三十四條ノ例ヲ以テ論ス其授與又ハ約束ヲ受ケテ投票ヲ爲シ又ハ投票ヲ爲ササル者モ亦同シ

第六十一條 戎器又ハ兇器ヲ携帯シテ選舉會場ニ入りタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十二條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若クハ他人ノ爲メニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ選舉人ニ暴行ヲ加ヘタル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第六十三條 投票ヲ妨害スルノ目的ヲ以テ途中又ハ其他ニ於テ選舉人ニ

○衆議院議員選舉法罰則補則ヲ府縣會議員選舉法ニ適用スル件 百六十九

暴行ヲ加ヘ又ハ選舉人ヲ脅嚇スル者又ハ選舉ニ關スル吏員若クハ立會人ニ暴行ヲ加ヘ又ハ暴行ヲ以テ選舉會場ヲ騷擾シ又ハ投票函ヲ抑留、毀壞若クハ劫奪シタル者ハ二月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第六十四條 多衆ヲ嘯集シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス其情ヲ知リ嘯集ニ應シタル者ハ一月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處ス

第六十五條 當選者第五十九條乃至第六十四條ノ刑ニ處セラレタルトキハ其當選ハ無効トス

第六十六條 選舉權ナク又ハ他人ノ氏名ヲ詐稱シテ投票ヲ爲サントシ又ハ投票ヲ爲シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十七條 選舉ニ關スル犯罪ハ六箇月ヲ以テ期滿免除トス

第六十八條 府縣會議員選舉規則第十五條第十七條第十八條第十九條其他本規則ニ抵觸スル規定ハ總テ之ヲ廢止ス

○衆議院議員選舉法罰則補則ヲ府縣會議員選舉法ニ適用ノ件

明治二十三年五月二十九日
法律第四十一號

明治二十二年二月法律第六號府縣會議員選舉規則ニ依ル選舉ニハ府縣

制ヲ施行スル迄ノ間衆議院議員選舉法罰則補則ヲ適用ス但其ノ第二條第一項ニ衆議院議員選舉法第九十二條ヲ適用スル場合ニ於テハ府縣會議員選舉規則第六十二條其ノ第二條第二項ニ衆議院議員選舉法第九十三條ヲ適用スル場合ニ於テハ府縣會議員選舉規則第六十三條ヲ適用スルモノトス

府縣會議員選舉規則中此ノ法律ニ矛盾スルモノハ効力ヲ有セズ

○市町村會議員選舉罰則 明治二十三年五月二十九日
法律第三十九號

第一條 凡テ選舉資格ニ必要ナル事項ヲ詐稱シテ選舉人名簿ニ記載セラレタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

議員タルコトヲ得サルノ實ヲ告ケスシテ議員トナリタル者ハ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若クハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ直接又ハ間接ニ金錢物品手形若クハ公私ノ職務ヲ選舉人ニ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シタル者ハ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處ス

其授與又ハ約束ヲ受ケタル者亦同シ

第三條 第二條ニ記載シタル目的ヲ以テ選舉會場ノ近傍若クハ選舉人往

○市町村會議員選舉罰則

來ノ途中ニ於テ選舉人ニ酒食ヲ供シ又ハ選舉會場ニ往復スル爲車馬ノ類ヲ給シタル者ハ第二條物品授與ノ例ニ依リ處斷ス
其供テ受ケタル者亦同シ

第四條 第二條ニ記載シタル目的ヲ以テ選舉人ノ爲ニ選舉會場ニ往復スル車馬賃又ハ路費若クハ宿泊料ノ類ヲ代辨シ又ハ代辨スルコトヲ約束シタル者ハ第二條金錢授與ノ例ニ依リ處斷ス 其代辨又ハ約束ヲ受ケタル者亦同シ

第五條 第二條第三條及第四條ニ記載シタル所業ヲ爲シテ第二條ニ記載シタル目的ヲ達シタル者ハ刑法第二百三十四條ノ例ヲ以テ論ス

第六條 第二條ニ記載シタル目的ヲ以テ選舉人ニ暴行ヲ加ヘタル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第七條 第二條ニ記載シタル目的ヲ以テ選舉人ヲ脅逼シ拐引シ若クハ其往來ノ便ヲ妨ケ若クハ詐僞ノ手段ヲ以テ其選舉權ノ施行ヲ妨害シタル者ハ第六條暴行ノ例ニ依リ處斷ス

第八條 第六條及第七條ニ記載シタル所業ヲ爲シテ第二條ニ記載シタル目的ヲ達シタル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第九條 選舉人ヲ脅逼シ若クハ選舉會場ヲ騷擾シ又ハ投票函ヲ抑留毀壞若クハ劫奪スルノ目的ヲ以テ多衆ヲ嘯聚シタル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス
其情ヲ知リ嘯聚ニ應シタル者ハ十五日以上二月以下ノ輕禁錮又ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條 選舉ノ際選舉ニ關スル吏員若クハ選舉掛ニ暴行ヲ加ヘ又ハ暴行ヲ以テ選舉會場ヲ騷擾シ又ハ投票函ヲ抑留毀壞若クハ劫奪シタル者ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ拾圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第十一條 多衆ヲ嘯聚シテ第十條ノ罪ヲ犯シタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ貳拾圓以上貳百圓以下ノ罰金ヲ附加ス
其情ヲ知リ嘯聚ニ應シタル者ハ十五日以上六月以下ノ輕禁錮又ハ四圓以上四拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條 第九條第十條第十一條ノ場合ニ於テ犯罪者武器又ハ兇器ヲ攜帶シタルトキハ各本刑ニ一等ヲ加フ

第十三條 選舉會場所在ノ郡市内ニ於テ選舉ノ氣勢ヲ張ル爲多衆集合シ若クハ隊伍ヲ組ミテ往來シ又ハ篝火松明ヲ焚キ若クハ鐘鼓法螺喇叭ノ類ヲ鳴ラシ旗幟其他ノ標章ヲ用ヰル等ノ所業ヲ爲シ警察官ノ制止ヲ受

ルモ仍其命ニ從ハサル者ハ十五日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第十四條 被選人タルコトヲ得ル者ヲ指シテ被選人タルコトヲ得ス又ハ當選ヲ承諾スルノ意ナシトノ虛報ヲ流傳セシメタル者ハ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 戎器又ハ兇器ヲ携帯シテ選舉會場ニ入りタル者ハ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第十六條 第二條ニ記載シタル目的ヲ以テ張札ノ類ヲ公然揭示シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第十七條 他人ノ姓名ヲ詐稱シテ投票ヲ爲シ又ハ選舉人タルコトヲ得スシテ投票ヲ爲シタル者ハ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 當選人第二條乃至第十六條ニ依リ刑ニ處セラレタルトキハ其當選ハ無効トス

第十九條 本法ニ規定シタルモノ、外刑法ニ正條アルモノハ各々其餘ニ依リ重キニ從テ處斷ス

第二十條 本法ニ關スル犯罪ハ六箇月ヲ以テ期滿免除トス
第二十一條 本法ハ市町村會ノ外市制町村制並ニ明治二十二年法律第十

一號ニ據リテ開設スル各種ノ議會ノ議員選舉ニモ適用ス

●酒造稅法 明治二十九年三月法律第二十八號

第一條 此ノ稅法ニ於テ酒類ト稱スルハ清酒、濁酒、白酒、味淋、燒酎、酒精ノ六種トス

第二條 酒類ヲ製造セムトスル者ハ製造所一箇所毎ニ政府ノ免許ヲ受クヘシ其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ免許ノ取消ヲ求ムヘシ

第三條 其ノ年十月一日ヨリ翌年九月三十日マテヲ以テ一酒年度トス
第四條 酒類ヲ製造スル者ニハ其造石數ニ應シ左ノ割合ニ從ヒ造石稅ヲ課ス

- 第一種 清酒、白酒 一石 金七圓
 - 第二種 味淋 一石 金六圓
 - 第三種 濁酒 一石 金八圓
- 但シ當分ノ内北海道ニ於テハ渡島國一圓後志國ノ内八郡磯谷郡、歌葉郡、太櫓郡、檜柵郡、遠敷郡、奥尻郡、島收郡膽振國一郡(山越郡)ヲ除クノ外各種一石ニ付金一圓ヲ減ス

第五條 新ニ清酒製造ノ免許ヲ受クル者ハ造石高百石以上ニ非サレハ許可セズ

第六條 造石稅ノ納期ヲ分テ左ノ四期トス

第一期 七月一日ヨリ同十五日限

前年十月一日ヨリ其ノ年四月卅日迄査定石數ニ係ル稅額四分ノ一

第二期 九月一日ヨリ同十五日限

同上

第三期 翌年一月一日ヨリ同十五日限

同上及其ノ年五月一日ヨリ九月三十日マテ査定石數ニ係ル稅額四分

ノ一

第四期 翌年三月一日ヨリ同十五日限

前納額ノ殘數

第七條 政府ハ酒類ヲ製造スル者脫稅又ハ逋稅ヲ謀ルノ所爲アリト認ム

ルトキハ前條ノ納期ニ拘ハラヌ造石稅ノ全部又ハ一部ヲ徵收スルコト

ヲ得

第八條 酒類ノ造石數ハ製成ノ時之ヲ査定ス

酒類ノ造石數ヲ査定スルハ容器ノ容量ニ依ル但シ清酒ニ限り命令ノ定

ムル所ニ依リ査定石數百分ノ二以內ノ滓引減量ヲ控除スルコトヲ得

犯則其ノ他ノ事故ニ依リ前各項ニ依リ難キ場合ニ於テハ現在ノ酒類又

ハ證據物件ニ就キ之ヲ査定ス

第九條 粕漉シタル酒類ハ粕漉ニ依リ増加シタル分ノミニ就キ其ノ造石

數ヲ査定ス

第十條 酒類ヲ製造スル者ノ製造ニ係ル左ノ場合ニ於テハ濁酒ヲ製成シ

タルモノトシテ其ノ造石數ヲ査定ス

一 他人ニ讓渡ストキ

二 公賣セラルルトキ

三 飲料ニ供シ又ハ酒類製造用ノ外ニ供スルトキ

第十一條 酒類ヲ製造スル者既ニ査定ヲ受ケタル酒類ノ造石數ニ對シテ

ハ特ニ法律ヲ以テ定ムル場合ノ外其ノ造石稅ヲ免ルルコトヲ得ス

第十二條 左ノ酒類ニ係ル未納ノ造石稅ハ之テ免除スルコトヲ得但シ製

造場外ニ移出シタルモノハ此ノ限りニ非ス

一 災害ニ罹リ酒類ノ廢棄ニ屬シタルモノ

二 酒類ノ腐敗シテ廢棄ニ屬シタルモノ

三 腐敗シタル酒類ニシテ蒸餾酒ノ製造ニ供スルモノ

四 容器ノ損傷ニ依リ酒類ノ亡失シタルモノ

第十三條 酒類ヲ製造スルモノハ納稅保証トシテ造石稅半額ニ相當スル

保証物ヲ供スヘシ保証物ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條 左ノ場合ニ於テハ保証物ヲ免除ス

- 一 相當ノ納税保証人ヲ供シタルトキ
- 二 納税保証トシテ造石税額ニ相當スル酒類ヲ保存スルトキ
- 三 造石税ヲ前納シタルトキ

第十五條 酒類ヲ製造スル者税金ヲ納メサルトキハ政府ハ納税保証ニ供シタル保証物及保存ノ義務ヲ有スル酒類ヲ公賣シテ造石税金ヲ徵收スヘシ但シ仍滯納アルトキハ滯納處分ノ執行ヲ妨ケス

第十六條 納税保証人ハ酒類ヲ製造スル者造石税ヲ完納スル能ハサルトキハ納税者トシテ其ノ義務ヲ負擔スルモノトス

第十七條 酒類ヲ製造スル者納税保証トシテ保存ノ義務ヲ有スル酒類ハ之ヲ他人ニ讓渡シ、質入シ、消費シ又ハ製造場外ニ移出スコトヲ得ス

第十八條 酒類ヲ製造スル者ハ造石數査定前ニ於テ其ノ酒類ヲ他人ニ讓渡シ、質入シ、消費シ又ハ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス

第十九條 收税官吏ハ命令ノ規程ニ依リ酒類ノ製造出入ニ關スル一切ノ帳簿書類及酒類製造上必要ナル建築物、材料、器械其ノ他ノ物件ヲ検査シ又ハ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第二十條 酒類ヲ製造セサル者酒母又ハ醪ヲ製造セムトスルトキハ政府ノ免許ヲ受ケ酒類ヲ製造スル者ト等シク其ノ検査監督ヲ受クヘシ

第二十一條 酒類ヲ製造セサル者其ノ製造ニ係ル醪ヲ飲料ニ供シ又ハ飲料トシテ讓渡シタルトキハ濁酒ヲ製造スル者トシ其ノ製造ニ係ル總石數ノ造石税ヲ課ス

第二十二條 免許ヲ受ケスシテ酒類、酒類製造用ノ爲酒母若ハ醪ヲ製造シ又ハ他人ヨリ讓受ケタル酒母若ハ醪ヲ以テ酒類ヲ製造シタル者ハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

免許ヲ受ケスシテ醪、濁酒、白酒、焼酎、製造用ノ爲酒母一斗以下ヲ製造シ又ハ他人ヨリ讓受ケタル酒母ヲ以テ醪、濁酒、白酒、焼酎ノ一種又ハ數種ヲ通シテ三石以下ヲ製造シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス但シ本項前段ノ場合ニ於テ酒母ノ量數不明ナルモ其ノ製造シタル醪若ハ酒類ノ量數一種若ハ數種ヲ通シテ三石以下ナルトキハ仍本項ニ依ル

第二十三條 酒類ヲ製造セサル者免許ヲ受ケスシテ酒母又ハ醪ヲ製造シタルトキハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十四條 酒類ヲ製造スル者詐偽其ノ他不正ノ所爲ヲ以テ造石數ノ查

定テ免カレ又ハ免カレムトシタルトキハ其ノ石數ノ造石稅三倍ニ相當
スル罰金若ハ科料ニ處ス

第三十五條 酒類ヲ製造スル者故意ニ事故ヲ作爲シ又ハ詐術ヲ構ヘ造石
稅ノ免除ヲ得又ハ得ムトシタルトキハ其ノ石數ノ造石稅三倍ニ相當ス
ル罰金若ハ科料ニ處ス

第二十六條 納稅保証トシテ保存ノ義務ヲ有スル酒類ヲ他人ニ讓渡シタ
ル者滯納處分ヲ受クルモ仍稅金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ其ノ不
足造石稅ノ三倍ニ相當スル罰金若ハ科料ニ處ス

第三十七條 酒類製造用ト否トヲ問ハス其ノ製造シタル酒母又ハ醪ノ檢
査ヲ受ケサル者ハ十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條 酒類ヲ製造スル者第十七條又ハ第十八條ノ禁令ヲ犯シタル
トキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九條 酒類ヲ製造スル者酒類ノ製造出入ニ關シ帳簿ノ記載又ハ事
實ノ申告ヲ詐リタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ帳簿ノ記載
ヲ怠リタル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第三十條 酒類ヲ製造スル者收稅官吏ノ職務執行ヲ拒ミ又ハ之ヲ忌避シ
又ハ之ニ支障ヲ加ヘタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ
刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第三十一條 此ノ稅法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及減輕、再犯加重
、數罪俱發ノ例ヲ用キス但シ刑法第七十五條第一項ノ場合ハ此ノ限ニ
在ラス

第三十二條 酒類ヲ製造スル者ノ代理人、家族、同居者、雇人其ノ他ノ
從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ此ノ稅法ヲ犯シタルトキハ製造主ハ自己
ノ指揮ニ出サルノ故ヲ以テ此ノ稅法ノ處罰ヲ免ルコトヲ得ス

第三十三條 第二十九條乃至第三十二條ハ酒類ヲ製造セサル者ニシテ酒
母又ハ醪ヲ製造スル者ニモ適用ス

第三十四條 酒類ヲ製造シタル者ハ其ノ製造ヲ廢止スルモ造石稅完納前
ニアリテハ總テ此ノ稅法ノ規程ニ從フモノトス

第三十五條 府縣及市町村ハ此ノ稅法ニ依リ造石稅ヲ課スル酒類ニ對シ
特令アルモノヲ除キ府縣稅若ハ地方稅及市町村稅町村費ヲ課スルコト
ヲ得ス

附 則

第三十六條 神社ニ於テ古例ニ依リ明治十三年以前ヨリ引續酒類ヲ製造
スルトキハ一年ノ製造石數一石以下ノ場合ニ限リ總テ無稅トス